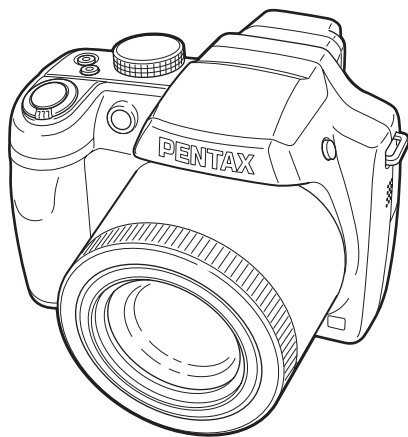
PENTAX

デジタルカメラ

X90 使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックス・デジタルカメラX90をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を十分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

商標について

PENTAXおよびペンタックスはHOYA株式会社の登録商標です。

SDHCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。

HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

「Eye-Fi」「Eye-Fi *connected*」および Eye-FiロゴはEye-Fi, Inc. の登録商標です。

ArcSoft ®の名称及びそのロゴ は、ArcSoft Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。

本製品はPRINT Image Matching IIIに対応しています。PRINT Image Matching対応プリンターでの出力及び対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。なお、PRINT Image Matching IIIより前の対応プリンターでは、一部機能が反映されません。PRINT Image Matching、PRINT Image Matching II、PRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

その他、記載の商品名、会社名は各社の商標もしくは登録商標です。

本機を使用するにあたって

- テレビ塔など強い電波や磁気を発生する施設の周囲や、強い静電気が発生する場所では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが誤作動を起こす場合があります。
- 画像モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99％以上の有効画素数がありますが、0.01％以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。
- カメラを明るい被写体に向けると、画像モニターに光の帯が現れることがあります。この現象はスミアといい、故障ではありません。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

本文中のイラストおよび画像モニターの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。

本書ではSDメモリーカードならびにSDHCメモリーカードのことをSDメモリーカードと表現しています。

ご注意ください

この製品の安全性については充分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

警告　このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

注意　このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

本体について

警告

- カメラの分解・改造などをしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、バッテリーまたはACアダプターを取り外したうえ、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

注意

- ストロボの発光部に手を密着させたまま発光させないでください。やけどの恐れがあります。
- ストロボの発光部を衣服などに密着させたまま発光させないでください。変色などの恐れがあります。
- このカメラには、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ち続けると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。
- 万一液晶が破損した場合、ガラスの破片には十分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付いたり、口に入らないよう十分にご注意ください。
- お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異常が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。

バッテリー充電器とACアダプターについて

警告

- バッテリー充電器とACアダプターは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外をご使用になったり、指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。AC指定電圧は、100-240Vです。
- 分解したり、改造したりしないでください。火災・感電の原因となります。

- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 万一、内部に水などが入った場合は、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 使用中に雷が鳴り出したら、電源プラグを外し、使用を中止してください。機器の破損、火災・感電の原因となります。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、よく拭いてください。火災の原因となります。

⚠ 注意

- ACコードの上に重いものを載せたり、落としたり、無理に曲げたりしてコードを傷めないでください。もしACコードが傷んだら、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。
- コンセントに差し込んだまま、AC コードの接続部をショートさせたり、触ったりしないでください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。故障の原因となります。
- バッテリー充電器で充電式リチウムイオンバッテリーD-LI106以外のバッテリーは充電しないでください。他のバッテリーを充電しようとすると、発熱や爆発、充電器の故障の原因となります。

バッテリーについて

⚠ 警告

- バッテリーは乳幼児の手の届かない所に保管してください。特に、口に含むと感電の恐れがありますのでご注意ください。
- バッテリーの液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

⚠ 注意

- このカメラでは、決められたバッテリー以外は使用しないでください。バッテリーの爆発、発火の原因となることがあります。
- バッテリーは分解しないでください。無理に分解をすると、爆発や液漏れの原因となります。

- 万一、カメラ内のバッテリーが発熱・発煙を起こしたときは、速やかにバッテリーを取り出してください。その際は、やけどに十分注意してください。
- バッテリーの「+」と「−」の接点に、針金やヘアピンなどの金属類が触れないようにご注意ください。
- バッテリーをショートさせたり、火の中へ入れないでください。爆発や発火の原因となります。
- バッテリーの液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 発熱、発火、破裂の恐れがありますので、バッテリー使用の際は、下記注意事項を必ずお守りください。
  1. 専用充電器以外では絶対に充電しないこと。
  2. 火中投入、加熱、高温での充電・使用・放置をしないこと。
  3. 変形や、ショートさせたり分解・改造をしないこと。

カメラや付属品は乳幼児の手の届かない場所に

- カメラや付属品を、乳幼児の手の届く場所には置かないでください。
  1. 製品の落下や不意の動作により、傷害を受ける恐れがあります。
  2. ストラップを首に巻き付け、窒息する恐れがあります。
  3. バッテリーや SD メモリーカードなどの小さな付属品を飲み込む恐れがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。

取り扱い上の注意

お使いになる前に

- 海外旅行にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールドワイド・サービス・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。万一、カメラや記録媒体（SDメモリーカード）などの不具合により、撮影や再生、パソコン等への転送がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の保証はご容赦ください。

バッテリー・充電器について

- バッテリーをフル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。特に高温下での保管は避けてください。
- バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微小の電流が流れて過放電になり、電池寿命を縮める原因となります。
- 充電は使用する当日か前日にすることをお勧めします。
- 本製品に付属している AC コードは、バッテリー充電器 D-BC106 専用です。他の機器に接続してお使いにならないでください。

持ち運びとご使用の際のご注意

- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 強い振動、ショック、圧力などを加えないでください。オートバイ、車、船などの振動からは、クッションなどでくるんで保護してください。
- カメラの使用温度範囲は0～40℃です。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥、砂、ほこり、水、有害ガス、塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- 破損や故障の原因になりますので、画像モニターの表面を強く押さないでください。
- 三脚使用時は、ねじの締め過ぎに十分ご注意ください。
- このカメラはレンズ交換式ではありません。レンズの取り外しはできません。また故障の原因になりますので、レンズ可動部分を持ったり、強い力を加えないでください。

お手入れについて

- 汚れ落としに、シンナーやアルコール、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- レンズのほこりは、きれいなレンズブラシで取り去ってください。スプレー式のブロアーは、レンズを破損させるおそれがありますので、使用しないでください。

保管について

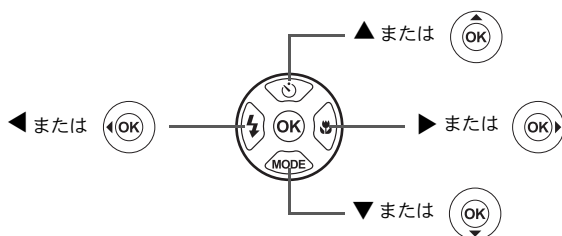
- 防腐剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。

その他

- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。
- SDメモリーカードの取り扱いについては、「SDメモリーカード使用上の注意」（p.39）をご覧ください。
- SDメモリーカードに記録されたデータは、カメラやパソコン等の機能による消去やフォーマットを行っても、市販の修復ソフトを使用すると、データを再び取り出せることがあります。データの取り扱いや管理は、お客様の責任において行ってください。

目次

付録 237

本書では、十字キーの操作を次のように表記しています。

操作説明中で使用されている表記の意味は次のとおりです。

☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。
メモ	知っておくと便利な情報などを記載しています。
注意	操作上の注意事項などを記載しています。
📷モード	静止画と動画の撮影をするモードです。本書では、静止画を撮影するモードを「静止画撮影モード」、動画を撮影するモードを「🎥モード」と表記します。
▶モード	静止画と動画、音声を再生するモードです。

本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

1 準備

お買い上げ後、写真を撮るまでの準備操作を説明しています。撮影をはじめる前に必ずお読みになり、操作をしてください。

2 機能共通操作

各ボタンの機能やメニューの設定方法など、各機能に共通する操作を説明しています。詳しい内容は、3章以降をご覧ください。

3 撮影

さまざまな撮影方法や、撮影に関する機能の設定方法を説明しています。

4 画像の再生と消去

静止画や動画をカメラやテレビで再生する方法とカメラから消去する方法を説明しています。

5 画像の編集と印刷

撮影した静止画の印刷や、カメラでの編集方法を説明しています。

6 音声の録音と再生

静止画像に音声（ボイスメモ）を追加する方法、音声の再生を説明しています。

7 設定

カメラの機能の設定方法を説明しています。

8 パソコンで画像を見る

カメラとパソコンのつなぎ方や、付属ソフトウェアのインストール方法と概要を説明しています。

9 付録

困ったときの対処方法や、別売品のご紹介などをしています。

このカメラの楽しみ方

X90では、一般的な写真撮影のほか、いろいろなシーンに応じたバリエーションに富んだ撮影方法がお楽しみいただけます。ここでは、X90の特長的な楽しみ方をご紹介します。操作説明のページもあわせてご覧いただき、ぜひX90の楽しさを味わってください。

撮影も再生も、カメラがナビゲートしてくれる！

X90は、少ないボタンで操作ができるカンタン設計。いろいろな撮影シーンで最適な設定を選べる「撮影モード」（p.78）も、再生・編集を楽しむための「再生モード」（p.152、p.176）も、わかりやすいアイコンを選ぶだけでOK。各モードの機能や使い方も、画像モニターに表示されるガイドで確認できる親切設計です。

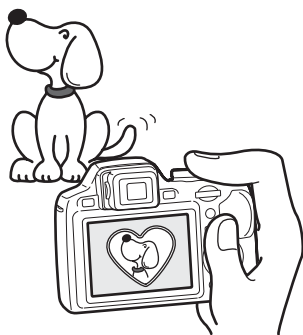
- **モードパレットでモードを選ぶと、その説明を表示（p.79、p.152）。**
- **グリーンモードを使うと、標準設定で手軽に撮影可能（p.72）。**

人物撮影が得意！

X90は、人物の顔を検出してピントや露出を合わせる「顔検出機能」を搭載。最大で32人の顔を検出（※）するので、集合写真もキレイに撮影できます。また、人物が笑顔になったら自動的にシャッターを切ったり、まばたきしたことをお知らせすることもできるので、ベストショットがたくさん撮れます。さらに再生時には、人物の顔を順に拡大して再生できるので、表情の確認も簡単です。

※ 画面上に表示できる顔検出枠は、最大31個です。

- **人物の顔を検出する顔検出機能（p.70）。**
- **人物をキレイに撮影する様々な撮影モード（p.83）。**
- **みんなの顔が確認しやすい顔アップ再生（p.159）。**

いろいろなフレームと合成して撮れる！

X90では、撮影時にたくさんの種類からお好みのフレームを選んで合成することができます（p.90）。撮影した写真にあとからフレームを合成するのも、もちろんOK！フレームの形や大きさに合わせて被写体の位置を微調整したり、写真を縮小・拡大して合成することもできます。フレームと被写体のバランスが微妙に合わない・・・なんていうことはありません（p.185）。

- **フレームを使った記念写真に。**

カレンダー形式で表示できる！

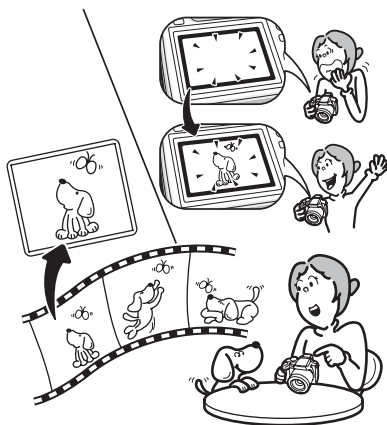
X90では、撮影した画像を日付ごとにカレンダー形式で表示できます（p.151）。再生したい写真を、すばやく見つけることができます。

動画撮影の機能が充実！

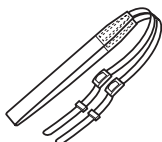
X90では、手ぶれ補正機能（Movie SR）を使って動画撮影時のぶれを補正することができます（p.143）。また、1280×720ピクセル（16：9）のハイビジョンサイズで撮影ができ（p.142）、市販のHDMIケーブルを使用すれば、AV機器で高画質な動画が楽しめます（p.172）。

- **お子様やペットの成長記録に、躍動感あふれる動画撮影を（p.140）。**

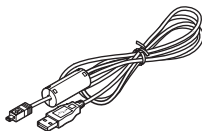
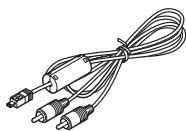
パソコンなしでも、カメラの中で楽しめる様々な機能が充実！

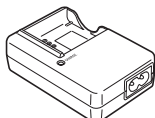
X90は、パソコンに接続して画像を転送しなくても、画像の再生や編集などが楽しめる様々な機能が充実。パソコンを起動するのが面倒だな、というときでも、これ一台で撮影から画像加工、動画の編集まで楽しめます（p.176）。また、うっかり画像を削除してしまったとき、復活ができるのも、X90ならでは（p.165）。

- **カメラでの画像再生時に、リサイズ（p.176）、トリミング（p.177）、赤目補正（p.184）が可能。**
- **動画の分割、動画から静止画を取り出すといった動画編集が可能（p.188）。**

主な同梱品の確認

本体
X90

ストラップ
O-ST92（※）

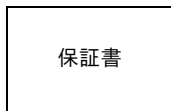
レンズキャップ
O-LC106（※）
（キャップカメラ装着）

ソフトウェア（CD-ROM）
S-SW104

USBケーブル
I-USB7（※）

AVケーブル
I-AVC7（※）

充電式リチウムイオン
バッテリー D-LI106（※）

バッテリー充電器
D-BC106（※）

ACコード
D-CO24J（※）

使用説明書（本書）

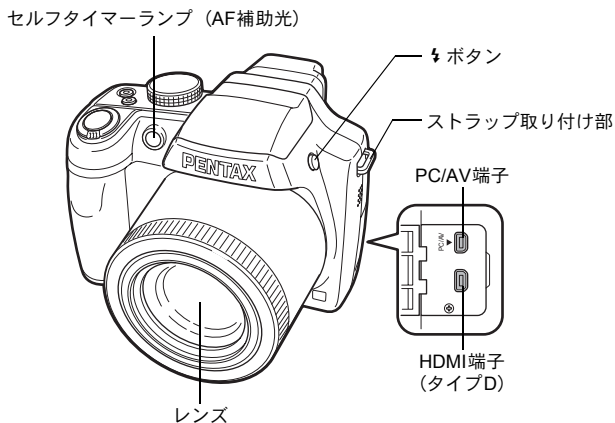
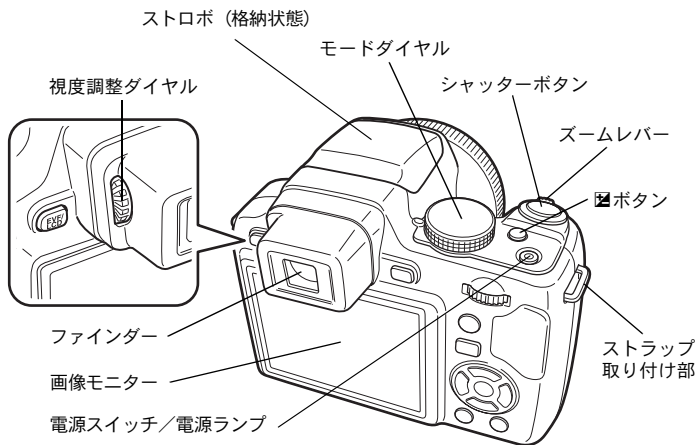
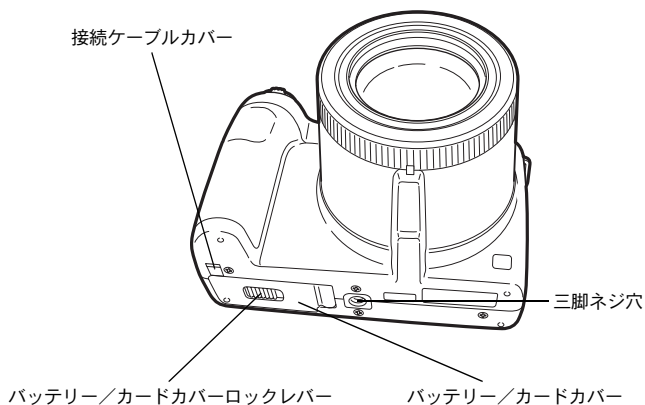
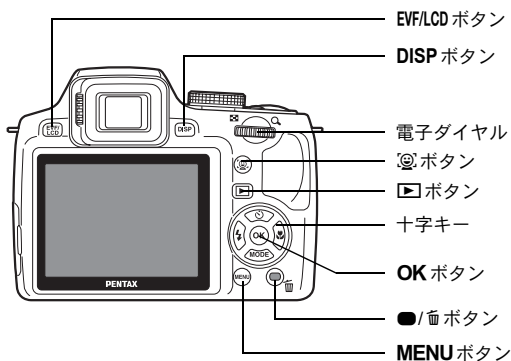
簡単ガイド

（※）の製品は、別売アクセサリーとしてもご用意しております。
（バッテリー充電器とACコードはセット（バッテリー充電器キット K-BC106J）でのみの販売となります。）
その他の別売アクセサリーについては、「別売アクセサリー一覧」（p.253）をご覧ください。

各部の名称

前面

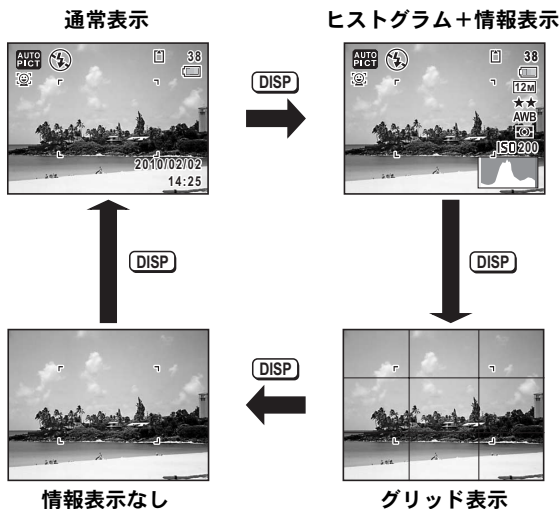
セルフタイマーランプ（AF補助光）
ボタン
ストラップ取り付け部
PC/AV端子
PENTAX
PC/AV
HDMI端子
（タイプD）
レンズ

背面

ストロボ（格納状態）
モードダイヤル
視度調整ダイヤル
シャッターボタン
ズームレバー
ボタン
EVF/LCD
ファインダー
画像モニター
電源スイッチ／電源ランプ
ストラップ
取り付け部

底面

操作部の名称

各ボタンの機能は、「ボタンの機能を使用する」(p.52～55) をご覧ください。

画像モニターの表示

モードの表示

撮影時には、撮影条件などが表示されます。**DISP** ボタンを押すと、画像モニターの表示が「通常表示」「ヒストグラム＋情報表示」「グリッド表示」「情報表示なし」に切り替わります。

- 撮影モードが ●（グリーン）モードのときは、右のように表示されます。**DISP** ボタンを押して表示を切り替えることはできません。
- ファインダーを使用して撮影するには、**EVF/LCD** ボタンを押して画像モニター表示からファインダー表示に切り替えてください。もう一度押すと画像モニター表示に戻ります。

静止画撮影モード　通常表示

1　撮影モード（p.78）
2　顔検出アイコン（p.70）
3　D-Range設定アイコン（p.130）
4　手ぶれ補正アイコン（p.132）
5　シャッタースピード
6　絞り値
7　ストロボモード（p.112）
8　ドライブモード（p.92～p.97）
9　フォーカスモード（p.114）
10 Eye-Fi通信状態（p.235）
11 デジタルズーム／インテリジェントズーム表示（p.74）
12 メモリー状態表示（p.42）
13 撮影可能枚数
14 バッテリー残量表示（p.34）
15 フォーカスフレーム（p.67）
16 現在の日時（p.47）
17 露出補正値（p.76）
18 日付写し込み設定中（p.136）
19 ワールドタイム設定中（p.205）

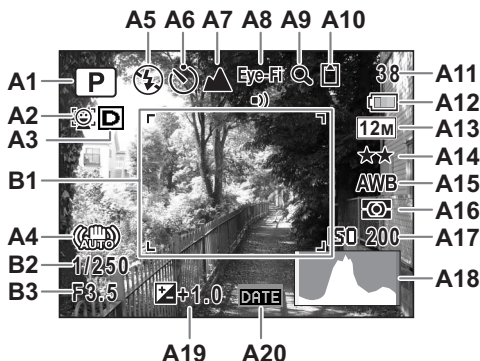
※ 3の表示は、「撮影」メニューの「D-Range設定」の設定によって変わります。
「ハイライト補正」が☑に設定されているとき
「シャドー補正」が☑に設定されているとき
「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方が☑に設定されているとき
「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方が□（オフ）に設定されているときは何も表示されません。

※ 4は、「📷撮影」メニューの「Shake Reduction」が☑（オン）に設定されているときに、シャッターボタンを半押しすると(AUTO)が表示されます。「Shake Reduction」が□（オフ）に設定されているときは、(OFF)が表示されます。
※ 5・6は、撮影モードが**P**／**Tv**／**Av**／**M**／**USER**のときは、常時表示されます。それ以外の撮影モードでは、シャッターボタンを半押ししたときのみ表示されます。
※ 10の表示は、無線LAN機能内蔵SDメモリーカード（Eye-Fiカード）を使用しているときの通信状態によって変わります。

（表示なし）	Eye-Fi非対応
Eye-Fi ■))	通信中
Eye-Fi ●‥	通信待機中
Eye-Fi ⊘	Eye-Fi通信禁止
Eye-Fi ⚠	バージョンエラー

※ 撮影モードによっては表示されない情報もあります。

静止画撮影モード　ヒストグラム＋情報表示／グリッド表示／情報表示なし

「ヒストグラム＋情報表示」ではA1～A18・B1が表示されます。「グリッド表示」「情報表示なし」ではB1のみ表示されます。

A1 撮影モード（p.78）
A2 顔検出アイコン（p.70）
A3 D-Range設定アイコン（p.130）
A4 手ぶれ補正アイコン（p.132）
A5 ストロボモード（p.112）
A6 ドライブモード（p.92～p.97）
A7 フォーカスモード（p.114）
A8 Eye-Fi通信状態（p.235）
A9 デジタルズーム／インテリジェントズーム表示（p.74）
A10 メモリー状態表示（p.42）
A11 撮影可能枚数
A12 バッテリー残量表示（p.34）
A13 記録サイズ（p.121）
A14 画質（p.123）
A15 ホワイトバランス（p.124）
A16 測光方式（p.128）
A17 感度（p.126）
A18 ヒストグラム（p.26）
A19 露出補正値（p.76）
A20 日付写し込み設定中（p.136）
B1 フォーカスフレーム（p.67）
B2 シャッタースピード
B3 絞り値

※ A3の表示は、「撮影」メニューの「D-Range設定」の設定によって変わります。
- 「ハイライト補正」がに設定されているとき
- 「シャドー補正」がに設定されているとき
- 「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方がに設定されているとき

「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方が□（オフ）に設定されているときは何も表示されません。

※ A4は、「撮影」メニューの「Shake Reduction」が（オン）に設定されているときに、シャッターボタンを半押しするとが表示されます。「Shake Reduction」が□（オフ）に設定されているときは、が表示されます。

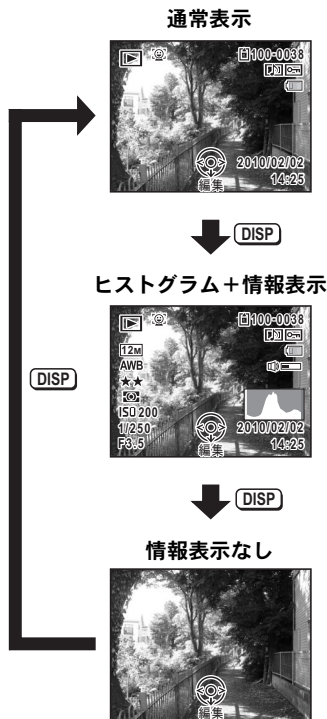
※ A8の表示は、無線LAN機能内蔵SDメモリーカード（Eye-Fiカード）を使用しているときの通信状態によって変わります。

（表示なし）	Eye-Fi非対応
Eye-Fi	通信中
Eye-Fi ●--	通信待機中
Eye-Fi	Eye-Fi通信禁止
Eye-Fi ⚠	バージョンエラー

※ B2・B3は、撮影モードが**P**／**Tv**／**Av**／**M**／**USER**のときは、常時表示されます。それ以外の撮影モードでは、シャッターボタンを半押ししたときのみ表示されます。

※ 撮影モードが AUTO PICT（オートピクチャー）のときは「グリッド表示」「情報表示なし」でも、シャッターボタンを半押しすると、A1の位置に選択されたモードが表示されます（p.66）。
※ 撮影モードによっては表示されない情報もあります。

▶モードの表示

再生時には、撮影したときの画像の情報が表示されます。**DISP** ボタンを押すと、表示が切り替わります。

再生モード　通常表示／ヒストグラム＋情報表示
（説明のためにすべてを表示させたイラストで記載しています。）

撮影条件などを表示します。A1～A11は「通常表示」「ヒストグラム＋情報表示」のいずれの場合も表示されます。B1～B8は「ヒストグラム＋情報表示」のときにのみ表示されます。

A1 再生モード表示
　▶：静止画（p.148）
　動画アイコン：動画（p.149）
A2 顔検出アイコン（p.70）
A3 メモリー状態表示（p.42）
A4 フォルダー番号（p.209）
A5 ファイル番号
A6 画像プロテクト表示（p.166）
A7 ボイスメモ表示（p.197）
A8 バッテリー残量表示（p.34）
A9 音量表示
A10 撮影日時（p.47）
A11 十字キーガイド表示
B1 記録サイズ（p.121）
B2 画質（p.123）
B3 ホワイトバランス（p.124）
B4 測光方式（p.128）
B5 感度（p.126）
B6 シャッタースピード
B7 絞り値
B8 ヒストグラム（p.26）

※ A2は、撮影時に顔検出した場合のみ表示されます
※ A8・A10は、通常表示時に2秒間何もボタン操作をしないと消えます。
※ A9は、動画／ボイスメモ再生中に音量調節をしているときのみ表示されます（p.149、p.197）。
※ A11は「情報表示なし」時でも表示されますが、2秒間何もボタン操作をしないと消えます。また「通常表示」「ヒストグラム+情報表示」時に2秒間何もボタン操作をしないと、「編集」の文字のみ消えます。

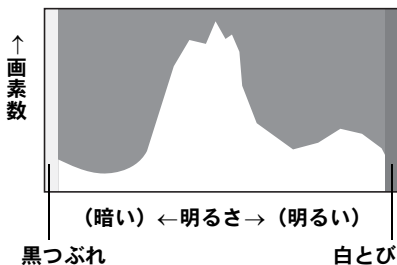
ガイド表示

操作中は、画像モニターにボタン操作のガイドが次のように表示されます。

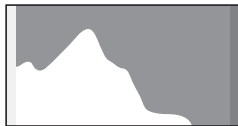
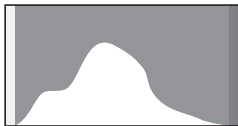
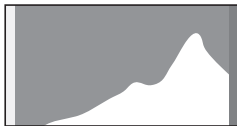
▲	十字キー（▲）
▼	十字キー（▼）
◀	十字キー（◀）
▶	十字キー（▶）
MENU	MENUボタン

Q／⊞	電子ダイヤル
OK	OKボタン
SHUTTER	シャッターボタン
●／🗑	●/🗑ボタン
☺／☺	☺ボタン

ヒストグラム

ヒストグラムとは、画像の明るさの分布を表したグラフです。横軸は明るさ（左端は黒、右端は白）を、縦軸は各明るさごとの画素数を示します。
撮影の前後にヒストグラムの形状を見ることで、画像の明るさと明暗差が適正かどうかを確認し、露出補正や撮り直しの判断に利用できます。

露出を補正する ☞p.76

画像の明るさを見る

画像の明るさが適正な画像では、グラフの山は中央にあります。しかし、暗い画像ではグラフの山は左側に偏り、明るい画像では右側に偏ります。

暗い画像	適正な明るさの画像	明るい画像

また、画像の中で、暗過ぎてヒストグラムの左端よりも左になる部分は真っ黒になり（黒つぶれ）、明る過ぎてヒストグラムの右端よりも右になる部分は真っ白になってしまいます（白とび）。

明暗差のバランスを見る

明暗差のバランスが取れた画像では、グラフの中央部がなだらかな山のピークになります。しかし、明暗差が激しく、中間的な明るさの部分が少ない画像では、左右に山のピークがあり、中央部分がくぼんだグラフになります。

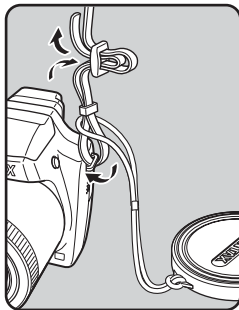
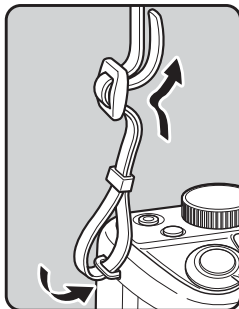
1 準備

レンズキャップとストラップを取り付ける

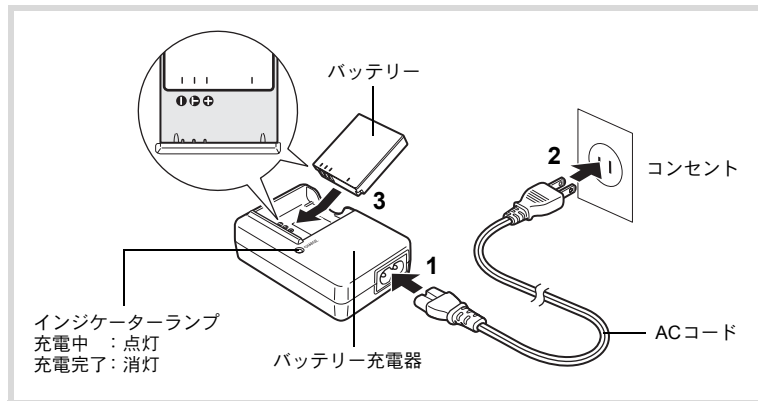
付属のレンズキャップ（O-LC106）とストラップ（O-ST92）を取り付けます。

1 レンズキャップに付属のひもを取り付ける

2 ストラップの先端をカメラの吊り金具に通し、留め具の内側に固定する

レンズキャップのひもを図のように通しておくと紛失防止になります。

3 もう一方も同様に取り付ける

電源を準備する

バッテリーを充電する

はじめてご使用になるときや長時間使用しなかったとき、「電池容量がなくなりました」というメッセージが表示されたときは、付属のバッテリー充電器（D-BC106）で充電式リチウムイオンバッテリー（D-LI106）を充電してください。

1 バッテリー充電器にACコードを接続する

2 ACコードをコンセントに差し込む

3 PENTAXロゴ面を上にしてバッテリーをセットする

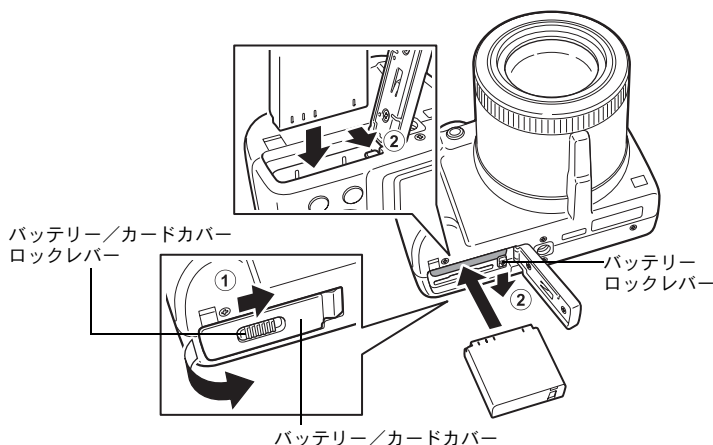
充電中はインジケーターランプが点灯します。
充電が完了すると、インジケーターランプが消灯します。

4 充電終了後、バッテリー充電器からバッテリーを取り出す

- 付属のバッテリー充電器D-BC106では、充電式リチウムイオンバッテリーD-LI106以外のバッテリーは充電しないでください。充電器の破損や発熱の原因となります。
- 正しく充電しても使用できる時間が短くなったらバッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。
- バッテリーを正しい向きにセットしてもインジケーターランプが点灯しない場合は、バッテリーの異常です。新しいバッテリーと交換してください。

充電時間の目安は、約140分です（周囲の温度や充電状態によって異なります）。周囲の温度が0～40℃の範囲で充電してください。

バッテリーをセットする

付属の充電式リチウムイオンバッテリー（D-LI106）をセットします。はじめてご使用になるときは、バッテリーを充電してからセットしてください。

1 バッテリー／カードカバーを開ける

バッテリー／カードカバーロックレバーを矢印の方向にスライドさせると、カバーが開きます（①）。

2 バッテリーロックレバーを矢印②の方向に押しながら、バッテリーのPENTAXロゴ面をカメラの画像モニター側に向けて挿入する

カメラの電池室内とバッテリーのマークの向きを合わせ、ロックされるまでバッテリーを挿入してください。

バッテリーは、必ずPENTAXロゴ面をカメラの画像モニター側に向けて挿入してください。逆向きに挿入すると、カメラの電源が入らないだけでなく、故障の原因にもなります。

3 バッテリー／カードカバーを閉じる

バッテリー／カードカバーを閉じてからバッテリー／カードカバーロックレバーを①と反対方向にスライドさせます。

バッテリーを取り出す

1 バッテリー／カードカバーを開ける

2 バッテリーロックレバーを矢印②の方向に押す

バッテリーが少し飛び出します。落とさないように気をつけて引き抜いてください。

- 充電式リチウムイオンバッテリーD-LI106が、このカメラの専用バッテリーです。他のバッテリーを使用すると、カメラが破損し作動しなくなることがあります。
- バッテリーは正しく入れてください。間違った向きに入れると故障の原因になります。
- 電源がONのときはバッテリーを取り出さないでください。
- バッテリーを半年以上長期保存する場合は、バッテリー充電器で30分程度充電し、本体から外した状態で保管してください。
  その後、半年から1年ごとに再充電してください。また、高温になる場所は避け、できるだけ室温以下を保持できるような場所に保管してください。
- 長期間本体にバッテリーをセットしないと、日時の設定がリセットされることがあります。
- カメラを長時間連続で使用した場合、本体やバッテリーが熱くなっていることがありますので、ご注意ください。

- **静止画撮影可能枚数と動画撮影、再生時間の目安**
（23℃・画像モニター点灯・専用バッテリーフル充電時）

静止画撮影可能枚数*1（ストロボ使用率50％）	動画撮影時間*2	再生時間*2
約255枚	約100分	約360分

*1 撮影可能枚数はCIPA規格に準じた測定条件による目安であり、使用条件により変わります。（CIPA規格抜粋：画像モニター ON、ストロボ使用率50％、23℃）
*2 時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。

- 使用環境の温度が下がると、バッテリーの性能が低下することがあります。
- 海外旅行など長期のお出かけ、寒冷地で撮影する場合や、大量に撮影する場合は、予備のバッテリーをご用意ください。

- **バッテリーの残量表示**

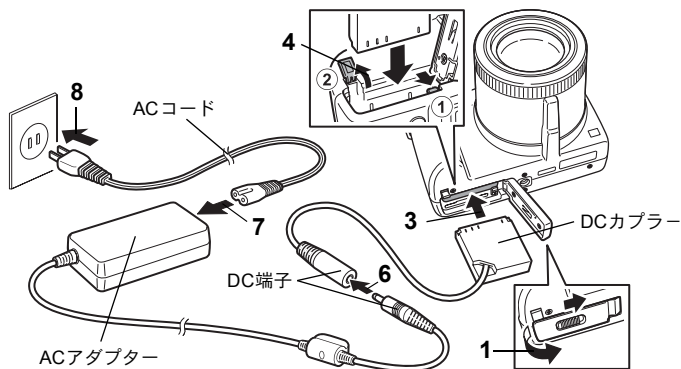
画像モニターの表示で、バッテリーの残量が確認できます。

画像モニター表示	バッテリーの状態
（緑）	バッテリーがまだ十分に残っています。
（緑）	少し減っています。
（黄）	だいぶ減っています。
（赤）	残量がほとんどありません。
「電池容量がなくなりました」	メッセージ表示後、電源が切れます。

リサイクルについて

このマークは小型充電式電池のリサイクルマークです。
ご使用済みの小型充電式電池を廃棄するときは、端子部に絶縁テープを貼って、小型充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

ACアダプターを使用する

長時間ご使用になるときや、パソコンと接続するときは、別売のACアダプターキット（K-AC106J）のご使用をお勧めします。

1 カメラの電源が切れていることを確認してから、バッテリー／カードカバーを開ける

2 バッテリーを取り出す

バッテリー／カードカバーの開け方／閉じ方と、バッテリーの取り出し方は、p.32～33を参照してください。

3 DCカプラーを挿入する

バッテリーロックレバー（①）を押しながら挿入し、DCカプラーがロックされたことを確認してください。

4 DCカプラーのコードを引き出す

バッテリー／カードカバーのとなりの接続ケーブルカバー（②）を引き上げて、DCカプラーのコードを外に引き出します。

5 バッテリー／カードカバーを閉じる

6 DCカプラーとACアダプターのDC端子を接続する

7 ACコードをACアダプターに接続する

8 電源プラグをコンセントに差し込む

- AC アダプターの接続／取り外しは、必ずカメラの電源を切った状態で行ってください。
- 電源と接続ケーブルはしっかりと差し込んでください。SD メモリーカードまたは内蔵メモリーにデータを記録中にケーブルが外れると、データが破壊されることがあります。
- ACアダプターを使用する場合は、火災や感電に十分ご注意ください。ご使用の前に、必ず「バッテリー充電器とACアダプターについて」（p.2）をお読みください。
- ACアダプターをご使用になるときは、ACアダプターキットK-AC106Jの使用説明書をあわせてご覧ください。

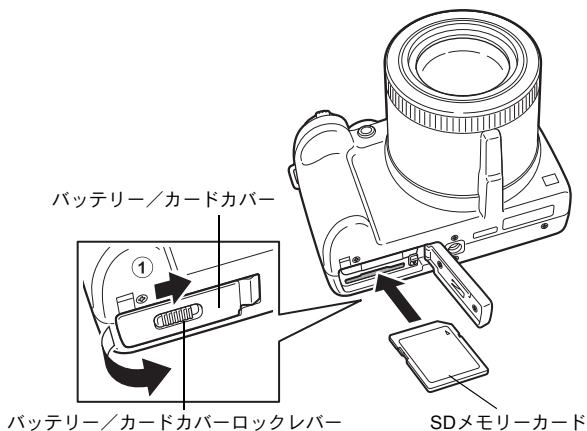
SDメモリーカードをセットする

このカメラでは、SDメモリーカードまたはSDHCメモリーカードが使用できます（本書では総称して「SDメモリーカード」と表記します）。撮影した画像はカメラにセットしたSDメモリーカードに記録されます。SDメモリーカードをセットしていないときは、内蔵メモリーに記録されます（p.42）。

- **未使用または他のカメラやデジタル機器で使用したSDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマット（初期化）してからご使用ください。フォーマットについては「SDメモリーカードをフォーマットする」（p.200）をご覧ください。**
- SDメモリーカードのセット／取り出しは、必ずカメラの電源を切った状態で行ってください。

- 撮影できる静止画の枚数は、使用するSDメモリーカードの容量と画像の記録サイズ・画質によって異なります（p.40）。
- SDメモリーカードにアクセス中（データの記録や読み出し中）は、電源ランプが点滅します。

データバックアップのお勧め

内蔵メモリーに記録されたデータは、故障などの原因でまれに読み出しができなくなることがあります。大切なデータは、パソコンなどを利用して、内蔵メモリーとは別の場所に保存しておくことをお勧めします。

1 バッテリー／カードカバーを開ける

バッテリー／カードカバーロックレバーを矢印の方向にスライドさせると、カバーが開きます（①）。

2 SD メモリーカードのラベル面をカメラのレンズ側に向け、カメラのSDメモリーカードソケットに挿入する

カードは奥までしっかり押し込んでください。カードがしっかり入っていないと、データが正常に記録されないことがあります。

3 バッテリー／カードカバーを閉じる

バッテリー／カードカバーを閉じてからバッテリー／カードカバーロックレバーを①と反対方向にスライドさせます。

SDメモリーカードを取り出す

1 バッテリー／カードカバーを開ける

2 SDメモリーカードを中に押し込む

SDメモリーカードが少し飛び出すので、引き抜いてください。

SDメモリーカード使用上の注意

- SDメモリーカードには、ライトプロテクトスイッチが付いています。スイッチをLOCK側に切り替えると、新たにデータを記録できなくなり、カメラやパソコンで削除やフォーマットができなくなります。
  画像モニターには🔒と表示されます。
- カメラ使用直後にSDメモリーカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。
- SDメモリーカードへのデータの記録／再生中、またはUSBケーブルでパソコンと接続中には必ずカードカバーを閉じ、カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。データの破損やカードの破損の原因となります。
- SDメモリーカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- SDメモリーカードのフォーマット中には絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- SDメモリーカードに保存したデータは、以下の条件で消去される場合がありますので、ご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  (1) 使用者がSDメモリーカードの取り扱いを誤ったとき
  (2) SDメモリーカードを静電気や電気ノイズのある場所に置いたとき
  (3) 長期間SDメモリーカードを使用しなかったとき
  (4) SDメモリーカードにデータを記録／読み出し中にカードを取り出したり、バッテリーを抜いたとき
- 長期間使用しない場合は、保存したデータが読めなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップをするようにしてください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用や保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用や保管は避けてください。
- 一部の書き込み速度の遅いSDメモリーカードでは、カードに空き容量があっても動画撮影時に途中で撮影が終了したり、撮影／再生時に動作が遅くなる場合があります。
- SDメモリーカードご購入の際は、あらかじめ動作確認済みのものであるかを当社ホームページでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。

SDメモリーカードに記録できる枚数

撮影した画像の記録サイズなどによって、画像のファイルサイズは異なり、SDメモリーカードに記録できる枚数は異なります。

静止画の記録サイズの設定は、「◘撮影」メニューで行います。

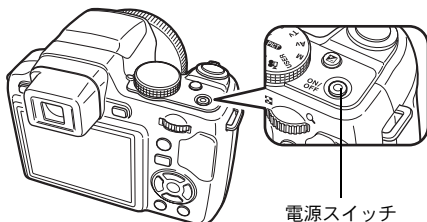
記録サイズを選択する ☞p.121

動画の記録サイズとフレームレートの設定は、「◘撮影」メニューの「動画」で行います。

動画の記録サイズとフレームレートを選択する ☞p.142

SDメモリーカードに記録できる撮影可能枚数／時間の目安については、「主な仕様」（p.254）をご覧ください。

電源をON／OFFする

1 レンズキャップを外す

2 電源スイッチを押す

電源が入り、画像モニターが点灯します。
電源を入れると、レンズが前に繰り出します。（初期設定を行っていない場合は繰り出しません）
カメラの電源を入れたときに、「言語設定」あるいは「日時設定」の画面が表示された場合は、p.43、p.47の手順に従って設定してください。

3 もう一度電源スイッチを押す

電源が切れ、画像モニターが消灯してレンズが収納されます。

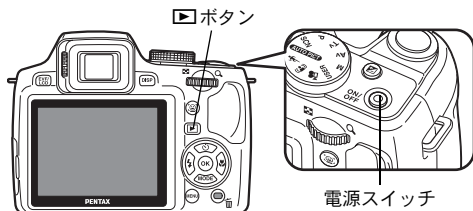
静止画を撮影する ☞p.66

カードチェック

電源を入れると、カードチェックが行われ、メモリーの状態が表示されます。

	SDメモリーカードがセットされています。画像や音声は、SDメモリーカードに記録されます。
	SDメモリーカードがセットされていません。画像や音声は、内蔵メモリーに記録されます。
	SDメモリーカードのライトプロテクトスイッチがLOCKになっています（p.39）。画像や音声の記録はできません。

再生起動モード

再生起動モードは、撮影をしないで、すぐに画像を再生したいときに使用します。

1 ▶ボタンを押しながら、電源スイッチを押す

レンズは収納されたまま画像モニターが点灯し、再生モードで起動します。

再生モードで起動後に📷モードへ切り替えるときは、▶ボタンを押すかシャッターボタンを半押ししてください。

静止画を再生する ☞p.148

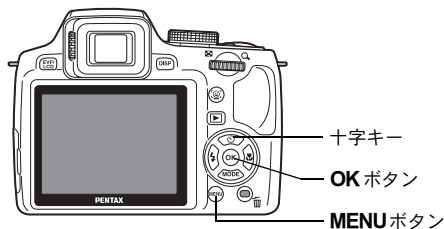
1 準備

初期設定をする

カメラの電源を入れて「Language/言語」画面が表示されたら、下記の「言語を設定する」の手順で言語を「日本語」に、「日時を設定する」(p.47)の手順で現在の日時を設定してください。

設定した言語と日時はあとから変更することもできます。操作方法は下記のページをご覧ください。

- 言語を変更したいとき：「表示言語を変更する」(☞p.208)
- 日時を変更したいとき：「日時を変更する」(☞p.202)

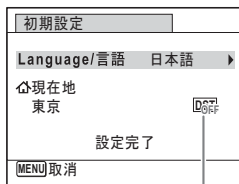
言語を設定する

1　十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選ぶ

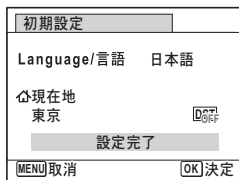
Language/言語		
English	日本語	Türkçe
Français	Dansk	Ελληνικά
Deutsch	Svenska	Русский
Español	Suomi	ไทย
Português	Polski	한국어
Italiano	Čeština	中文繁體
Nederlands	Magyar	中文简体
MENU 取消		OK 決定

1 準備

2 OKボタンを押す

日本語の「初期設定」画面が表示されます。「現在地」が「東京」、「夏時間」が DST OFF に設定されていたら、手順3に進みます。
それ以外の設定になっていたら、「現在地と夏時間を設定する」(p.46)に進んでください。

初期設定
Language/言語　日本語
現在地
東京　DST OFF
設定完了
MENU 取消

夏時間

3 十字キー(▼)を2回押して「設定完了」を選ぶ

4 OKボタンを押す

「日時設定」画面が表示されます。「日時を設定する」(p.47)に進んでください。

もし誤って日本語以外の言語を選んで次に進んでしまったら、あわてず下記の操作で、日本語の表示に設定し直してください。

●「Language/言語」画面で、日本語以外の言語を選んでOKボタンを押してしまった！

1 十字キー(▶)を押す

2 十字キー(▲▼◀▶)で「日本語」を選んで、OKボタンを押す

日本語の「初期設定」画面が表示されます。

● 手順2で外国語の設定のまま次の画面を表示させてしまった！

1 MENUボタンを押す

2 十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▼▲）で「Language/言語」を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

「Language/言語」画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選ぶ

6 OKボタンを押す

日本語の「🔧設定」メニューが表示されます。

ここまでの操作で、「Language/言語」の設定が「日本語」に設定し直されました。現在地と日時を設定し直す必要がある場合は、下記のページを参照してください。

- 現在地を変更したいとき：「ワールドタイムを設定する」（☞p.205）
- 日時を変更したいとき：「日時を変更する」（☞p.202）

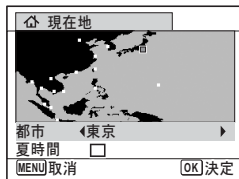
現在地と夏時間を設定する

3 **十字キー（▼）を押す**

選択枠が「⌂現在地」に移動します。

4 **十字キー（▶）を押す**

「⌂現在地」画面が表示されます。

5 **十字キー（◀▶）で「東京」を選ぶ**

6 **十字キー（▼）を押す**

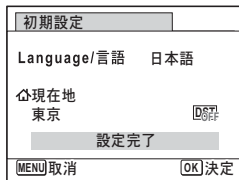
選択枠が「夏時間」に移動します。

7 **十字キー（◀▶）で□（オフ）に設定する**

8 **OK ボタンを押す**

「初期設定」画面に戻ります。

9 **十字キー（▼）で「設定完了」を選ぶ**

1 準備

10 OKボタンを押す

「日時設定」画面が表示されます。引き続き、日付と時刻を設定します。

初期設定で「現在地」を変更すると、ビデオ出力方式（NTSC／PAL）が選んだ都市の方式に自動的に設定されます。設定されるビデオ出力方式と、初期設定後の変更のしかたについては下記のページをご覧ください。

- 初期設定で設定されるビデオ出力方式：「都市名一覧」（☞p.252）
- ビデオ出力方式を変更したいとき：「ビデオ出力方式を選択する」(☞p.171)

日時を設定する

日付の表示スタイルと現在の日付・時刻を設定します。

1 十字キー（▶）を押す

選択枠が「年/月/日」に移動します。

2 十字キー（▲▼）で日付の表示スタイルを選ぶ

年/月/日／月/日/年／日/月/年から選択します。

3 十字キー（▶）を押す

選択枠が「24h」に移動します。

4 十字キー（▲▼）で24h（24時間表示）／12h（12時間表示）を選ぶ

5 十字キー（▶）を押す

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

6 十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

日時設定
表示スタイル　年/月/日 24h
日付　▶2010/01/01
時刻　00:00
設定完了
MENU 取消

7 十字キー（▶）を押す

選択枠が「西暦年」に移動します。

8 十字キー（▲▼）で西暦年を設定する

同様に月／日を設定します。
続いて時刻を設定します。
手順4で「12h」を選択した場合は、時刻調整に連動してAM／PMが切り替わります。

日時設定
表示スタイル　年/月/日 24h
日付　◀2010/01/01
時刻　00:00
設定完了
MENU 取消

9 十字キー（▼）で「設定完了」を選ぶ

日時設定
表示スタイル　年/月/日 24h
日付　2010/01/01
時刻　00:00
設定完了
MENU 取消　OK 決定

10 OK ボタンを押す

日時が確定します。

手順10で**OK**ボタンを押すと、0秒にセットされます。時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、秒単位まで正確に日時が設定できます。

初期設定の途中で**MENU**ボタンを押すと、それまで設定した内容がキャンセルされますが、撮影することはできます。この場合は、次回電源を入れたときに再度、初期設定を行う画面が表示されます。

設定した言語／日時／現在地／夏時間はあとから変更することができます。操作方法は下記のページをご覧ください。

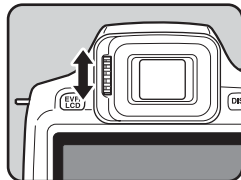
- 言語を変更したいとき：「表示言語を変更する」（☞p.208）
- 日時を変更したいとき：「日時を変更する」（☞p.202）
- 現在地、夏時間のオン／オフを変更したいとき：「ワールドタイムを設定する」（☞p.205）

ファインダーの視度を調整する

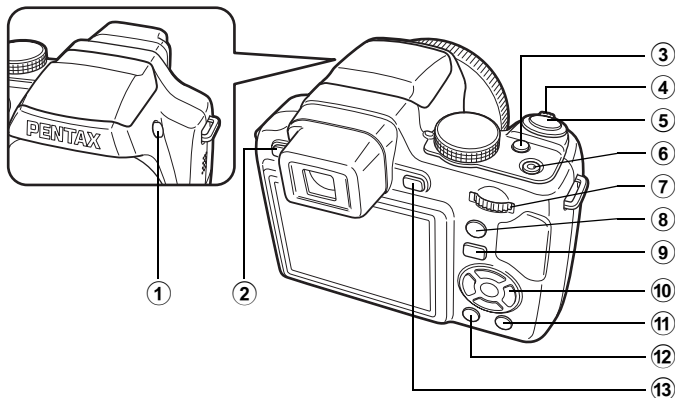
撮影者の視力に合わせて、ファインダーの視度を調整することができます。
ファインダー内の表示が見づらいときは、視度調整ダイヤルを上下に回して、見やすい位置に調整してください。

1 EVF/LCDボタンを押してファインダー表示に切り替える

2 ファインダーをのぞきながら視度調整ダイヤルを上下に回す

ファインダー内の表示がはっきり見える位置に調整します。
白い壁などの明るくて色ムラのない方へカメラを向けると調整しやすくなります。

2 機能共通操作

ボタンの機能を使用する

モード時

① **ボタン**
ストロボをポップアップします。

② **EVF/LCD ボタン**
ファインダー表示と画像モニター表示を切り替えます。

③ **ボタン**
露出補正値／シャッター速度／絞り値を設定します。

④ **ズームレバー**
撮影する範囲を変えます（p.74）。

⑤ **シャッターボタン**
静止画撮影モードでは、半押しするとピント合わせを行います（フォーカスモードが、▲（無限遠）／**MF**のときを除く）。全押しすると、静止画を撮影します（p.68）。
（動画）モードでは、動画の撮影を開始／終了します（p.140）。

⑥ **電源スイッチ**
電源を切ります（p.41）。

⑦ **電子ダイヤル**

露出補正値／シャッター速度／絞り値を変更します。

⑧ **（顔）ボタン**

顔検出機能（p.70）を切り替えます。ボタンを押すたびに、スマイルキャッチ→顔検出オフ→顔検出オンと切り替わります。

⑨ **ボタン**

モードに切り替えます（p.56）。

⑩ **十字キー**

▲ ドライブモードを切り替えます（p.92～p.97）。
▼ モードダイヤルがSCNに設定されているときに、撮影モードパレットを表示します（p.79）。
◀ ストロボモードを切り替えます（p.112）。
▶ フォーカスモードを切り替えます（p.114）。
▲▼ フォーカスモードがMFのときにピントを調整します（p.115）。

⑪ **（グリーン）ボタン**

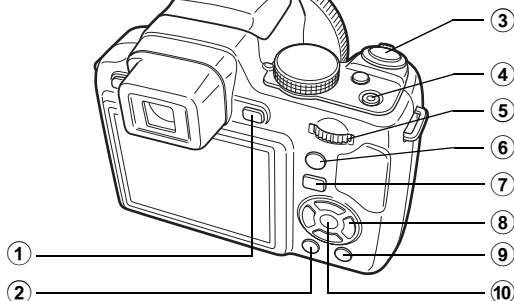
（グリーン）モードに移行します（p.72）。
Fn設定をしているときは、特定の機能をすばやく呼び出します（p.137）。

⑫ **MENUボタン**

「撮影」メニューを表示します（p.57）。

⑬ **DISPボタン**

画像モニターに表示される情報を切り替えます（p.20）。

▶モード時

① DISPボタン

画像モニターに表示される情報を切り替えます（p.24）。

② MENUボタン

1画面表示時は、「🔧設定」メニューを表示します（p.57）。
再生モードパレット表示時は、1画面表示に戻ります。
4画面表示／9画面表示／拡大表示時は、1画面表示に戻ります。
カレンダー／フォルダー表示時は、最新撮影画像にカーソルを合わせた9画面表示に変わります。

③ シャッターボタン

📷モードに切り替えます（p.56）。

④ 電源スイッチ

電源を切ります（p.41）。

⑤ 電子ダイヤル

1画面表示時に左（▦）に回すと4画面表示になります。もう一度左に回すと9画面表示になります。右（🔍）に回すと前の表示に戻ります（p.150）。
1画面表示時に右（🔍）に回すと画像が拡大表示されます。左（▦）に回すと前の表示に戻ります（p.158）。
9画面表示時に左（▦）に回すと、フォルダー表示またはカレンダー表示になります（p.151）。

フォルダー表示／カレンダー表示時に右（Q）に回すと、9画面表示になります（p.151）。
動画／ボイスメモ再生中は、音量調節をします（p.149、p.197）。

⑥ （顔）ボタン

撮影時に顔検出が行われた画像を表示しているときに押すと、顔検出された順に、被写体の顔をクローズアップ表示（顔アップ再生）します（p.159）。

⑦ ボタン

モードに切り替えます（p.56）。

⑧ 十字キー

▲	動画／音声を再生／一時停止します（p.149、p.197）。
▼	再生モードパレットを表示します（p.154）。 再生中の動画／音声を停止します（p.149、p.197）。
◀ ▶	1画面表示時は、前後の画像を表示します（p.148）。 動画再生時は、早送り／早戻し／コマ送り／コマ戻し／逆方向再生／順方向再生をします（p.149）。
▲▼◀▶	4 画面表示／ 9 画面表示時は画像、フォルダー表示時はフォルダー、カレンダー表示時は日付を選択します（p.150、p.151）。 拡大表示時は、表示範囲を移動します（p.158）。 フレーム合成時は、画像の位置を調整します（p.186）。

⑨ （グリーン）/（消去）ボタン

1画面表示時は、消去画面に移行します（p.161）。
4画面表示／9画面表示時は、選択消去画面に移行します（p.162）。
フォルダー表示時は、カレンダー表示画面に移行します（p.151）。
カレンダー表示時は、フォルダー表示画面に移行します（p.151）。

⑩ OK ボタン

4画面表示／9画面表示／拡大表示時は、1画面表示に戻ります（p.150、p.158）。
フォルダー表示時は、選択フォルダーの9画面表示に変わります（p.151）。
カレンダー表示時は、選択日付の1画面表示に変わります（p.151）。

2
機能共通操作

[camera]モードと[playback]モードの切り替え

本書では、静止画の撮影など記録を行うモードを「[camera]モード」（撮影モード）と表記します。また、撮影して記録した画像を画像モニターに表示するなど再生を行うモードを「[playback]モード」（再生モード）と表記します。[playback]モードでは、再生した画像に簡単な画像処理を加えることもできます。
[camera]モードと[playback]モードの切り替えは、次のように行います。

[camera]モードから[playback]モードへ切り替える

1 [playback]ボタンを押す

[playback]モードに切り替わります。

[playback]モードから[camera]モードへ切り替える

1 [playback]ボタンを押す、またはシャッターボタンを半押しする

[camera]モードに切り替わります。

内蔵メモリー内のデータの表示について

SDメモリーカードがセットされているときは、SDメモリーカード内の画像／動画が表示されます。内蔵メモリー内の画像／動画を表示する場合は、SDメモリーカードを取り出すか、以下の方法で「内蔵メモリー参照」機能を利用してください。

注意　SDメモリーカードは、必ずカメラの電源が切れた状態で取り出してください。

- **SDメモリーカードを入れたままで、内蔵メモリー内の画像を見る（内蔵メモリー参照）**
  - [camera]モードで[playback]ボタンを1秒以上押し続けるとレンズが収納され、「内蔵メモリーに記録された画像/音声を表示します」のメッセージのあと、内蔵メモリー内の画像／動画が表示されます。
  - 内蔵メモリー参照では、静止画再生（拡大表示も含む）(p.148、p.158)、動画再生 (p.149)、4画面表示／9画面表示／フォルダー表示／カレンダー表示（p.150）ができます。
  - 内蔵メモリー参照では、データの消去／選択消去／再生モードパレットの表示／メニューの表示はできません。内蔵メモリー内の画像／動画／音声にこれらの操作を行う場合は、SDメモリーカードを取り出してから操作してください。

カメラの機能を設定する

カメラの設定を変更するときは、**MENU**ボタンを押して、「📷撮影」メニューまたは「🔧設定」メニューを呼び出します。また、画像や音声の再生／編集に関するメニューは、再生モードパレットから呼び出します。

メニューの操作のしかた

📷モードで**MENU**ボタンを押すと、「📷撮影」メニューが表示されます。▶モードで**MENU**ボタンを押すと、「🔧設定」メニューが表示されます。
「📷撮影」メニューと「🔧設定」メニューは、十字キー（◀▶）で切り替えます。

撮影中

AUTO PICT 38
2010/02/02
14:25

再生中

100-0038
編集
2010/02/02
14:25

MENU

MENU

撮影 1/4
画像仕上 鮮やか
記録サイズ 12M
画質 ★★
ホワイトバランス AWB
感度 AUTO
感度AUTO調整範囲 ISO80-400
MENU 終了

OK

OK

設定 1/4
USERモード登録
サウンド
日時設定 2010/02/02
ワールドタイム
Language/言語 日本語
フォルダー名 日付
MENU 終了

OK OK

OK OK

撮影 1/4
画像仕上 鮮やか
記録サイズ 12M
画質 ★★
ホワイトバランス AWB
感度 AUTO
感度AUTO調整範囲 ISO80-400
MENU 終了

設定 1/4
USERモード登録
サウンド
日時設定 2010/02/02
ワールドタイム
Language/言語 日本語
フォルダー名 日付
MENU 終了

SHUTTER
ボタン半押し

MENU または ▶

AUTO PICT 38
2010/02/02
14:25

設定を終了して
◘モードへ

100-0038
編集
2010/02/02
14:25

設定を終了して
▶モードへ

メニュー操作中は、使用するボタンやキーの機能が画像モニターに表示されます（p.26）。

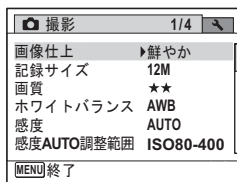
例）「📷撮影」メニューの「画質」を設定する

1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

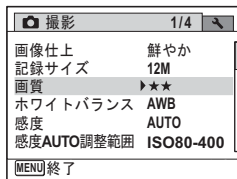
2 十字キー（▼）を押す

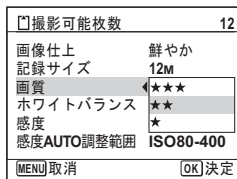
選択枠が「画像仕上」に移動します。

📷 撮影 1/4 🔧
画像仕上 ▶鮮やか
記録サイズ 12M
画質 ★★
ホワイトバランス AWB
感度 AUTO
感度AUTO調整範囲 ISO80-400
MENU 終了

3 十字キー（▼）を2回押す

選択枠が「画質」に移動します。

4 十字キー（▶）を押す

選べる内容がポップアップで表示されます。
ポップアップには、現在のカメラの条件で選択できる設定が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で設定を切り替える

十字キー（▲▼）を押すたびに、画質が切り替わります。

6 OKボタンまたは十字キー（◀）を押す

設定が保存され、他の項目が設定できる状態になります。
設定を終了するときは、**MENU**ボタンを押します。

その他の操作をする場合は、手順6で次ページの操作をしてください。

設定を保存して撮影をしたいとき

6 シャッターボタンを半押しする

設定が保存され、撮影できる状態になります。
全押しすると、画像が撮影されます。

メモ
▶モードから「🔧設定」メニューを表示した場合は、▶ボタンを押して📷モードに移行することもできます。

設定を保存して再生をしたいとき

6 ▶ボタンを押す

📷モードから「📷撮影」メニューを表示した場合は、設定が保存され、再生できる状態になります。

変更を取り消してメニュー操作を続けたいとき

6 MENUボタンを押す

変更が取り消され、手順3に戻ります。

メモ
MENUボタンの機能は、画面の状態によって異なります。ガイド表示を参照してください。

MENU 終了	メニュー操作を終了し、元の画面に戻ります。
MENU ↩	現在の設定のまま、ひとつ前の画面に戻ります。
MENU 取消	現在の選択を保存しないでメニュー操作を終了し、ひとつ前の画面に戻ります。

メニュー一覧

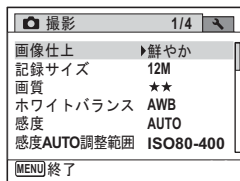
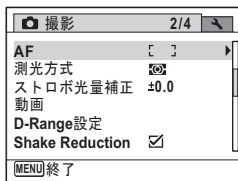
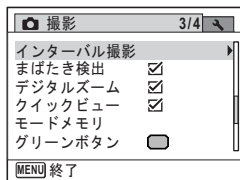
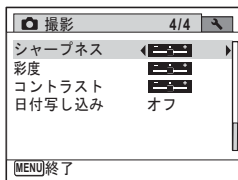
メニュー画面で設定できる項目とその内容を示します。カメラの電源を切ったときに設定を記憶するかどうか、リセットしたときに初期設定に戻るかどうかは、付録の「初期設定一覧」(p.247) をご覧ください。

「撮影」メニュー

撮影に関するメニューです。

項目		内容	参照
画像仕上		静止画の仕上がりイメージを設定します。	p.120
記録サイズ		静止画の記録サイズを選びます。	p.121
画質		静止画の画質を設定します。	p.123
ホワイトバランス		撮影時の光の状態に合わせて色を調整します。	p.124
感度		感度を設定します。	p.126
感度AUTO調整範囲		感度がAUTOのときの調整範囲を設定します。	p.127
AF	AFエリア	オートフォーカスの対象となる範囲を設定します。	p.117
	オートマクロ	必要に応じてマクロ域までのピント調整を行います。	p.118
	AF補助光	被写体が暗くてオートフォーカスが正確に作動しないときにAF補助光を発光します。	p.119
測光方式		どの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。	p.128
ストロボ光量補正		ストロボの光量を調整します。	p.129
動画	記録サイズ	動画の記録サイズとフレームレートを選びます。	p.142
	Movie SR	手ぶれ補正を使うかどうかを設定します。	p.143
D-Range設定	ハイライト補正	明るすぎる部分を補正し、白とびを防ぎます。	p.130
	シャドー補正	暗すぎる部分を補正し、黒つぶれを防ぎます。	
Shake Reduction		静止画撮影時の手ぶれ補正を行うかどうかを設定します。	p.131
インターバル撮影	撮影間隔	撮影する間隔を設定します。	p.94
	撮影枚数	撮影する枚数を設定します。	
	撮影開始時間	撮影を開始する時間を設定します。	
まばたき検出		顔検出したときに、まばたき検出を行うかどうか設定します。	p.132
デジタルズーム		デジタルズームを使うかどうかを設定します。	p.76
クイックビュー		クイックビューを表示するかどうかを設定します。	p.133

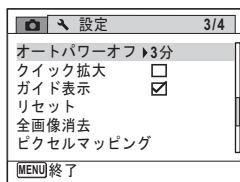
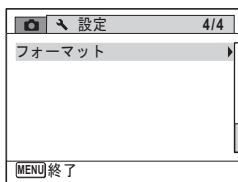
項目	内容	参照
モードメモリ	電源を切ったときに撮影機能の設定値を保存するか、初期設定に戻すかを設定します。	p.144
グリーンボタン	モード時に●ボタンで呼び出す機能を設定します。	p.137
シャープネス	画像の境界をシャープまたはソフトにします。	p.134
彩度（調色）	色の鮮やかさを設定します。画像仕上で「モノトーン」が選択されていると、項目が「調色」になります。	p.134
コントラスト	画像の明暗差の度合いを設定します。	p.135
日付写し込み	静止画撮影時に日付と時刻の写し込みをするかどうかを設定します。	p.136

●「撮影」メニュー 1

●「撮影」メニュー 2

●「撮影」メニュー 3

●「撮影」メニュー 4

- 「撮影」メニューの設定に関係なく、標準設定で手軽に撮影を楽しみたいときは、●（グリーン）モードを利用してください（p.72）。
- よく使う機能は、グリーンボタンに登録しておくと、すばやく呼び出せます（p.137）。

「🔧設定」メニュー

項目	内容	参照
USERモード登録	現在のカメラの設定をモードダイヤルのUSERに登録します。	p.110
サウンド	操作音量・再生音量・起動音・シャッター音・操作音・セルフタイマー音を設定します。	p.201
日時設定	日付と時刻を設定します。	p.202
ワールドタイム	現在地と目的地を設定します。	p.205
Language/言語	メニューやメッセージを表示する言語を設定します。	p.208
フォルダー名	画像や音声を保存するフォルダーの命名方法を設定します。	p.209
USB接続	パソコンへの接続方法（MSC／PTP）を設定します。	p.225
ビデオ出力	AV機器へのビデオ出力形式を設定します。	p.171
HDMI出力	HDMI端子を備えたAV機器と接続するときに設定します。	p.173
Eye-Fi	無線LAN機能内蔵SDメモリーカード（Eye-Fiカード）を使用して、画像の転送を開始するときに設定します。	p.235
LCDの明るさ	画像モニターの明るさを設定します。	p.210
エコモード	節電モードになるまでの時間を設定します。	p.210
オートパワーオフ	自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	p.212
クイック拡大	画像の再生時に「クイック拡大」（p.158）を使うか使わないかを設定します。	p.213
ガイド表示	撮影モードパレットや再生モードパレット表示時に、選択項目の説明を表示するかしないかを設定します。	p.214
リセット	日時設定・言語・ワールドタイム・ビデオ出力以外の設定内容を工場出荷時の状態に戻します。	p.217
全画像消去	保存されているすべての画像／音声を消去します。	p.164
ピクセルマッピング	CCDの画素に欠けがあった場合に、その部分を補完します。	p.216
フォーマット	SDメモリーカードをフォーマットします。	p.200

● 「設定」メニュー 1

設定 1/4
USERモード登録
サウンド
日時設定 2010/01/01
ワールドタイム
Language/言語 日本語
フォルダー名 日付
MENU 終了

● 「設定」メニュー 2

設定 2/4
USB接続 MSC
ビデオ出力 NTSC
HDMI出力 オート
Eye-Fi
LCDの明るさ
エコモード 5秒
MENU 終了

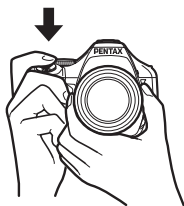
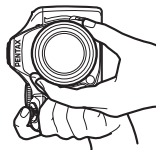
● 「設定」メニュー 3

● 「設定」メニュー 4

3 撮影

静止画を撮影する

カメラの構え方

撮影するときは、カメラの構え方が大切です。
- カメラを両手でしっかりと持ちます。
- シャッターボタンは指の腹で静かに押します。

横位置　　縦位置

木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させると手ぶれを防ぐ効果があります。

標準的な撮影のしかた

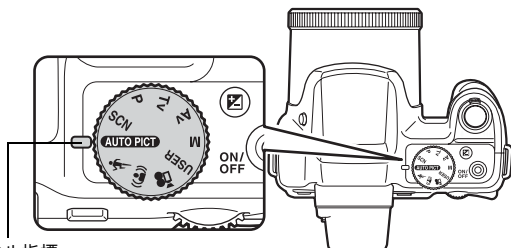
X90には、撮影者の意図に的確に応じる様々な撮影モードやフォーカスモード、ドライブモードが備わっています。ここでは、基本的にシャッターボタンを押すだけの AUTO PICT（オートピクチャー）モードの撮影方法を説明します。
AUTO PICT モードでは、カメラが被写体やシーンを自動的に判別して最適な撮影モードで撮影できます。

1 レンズキャップを外す

2 電源スイッチを押す

電源が入り、静止画が撮影できる状態になります。本書ではこの状態を「静止画撮影モード」と表記します。

3 モードダイヤルを AUTO PICT に合わせる

被写体に最適な撮影モードをカメラが選択します。

4 画像モニターを確認する

画像モニター中央のフォーカスフレームの中が、自動でピントが合う範囲です。

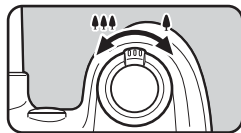
フォーカスフレーム

カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.70）。

顔検出枠

ズームレバーを左右に回すと、被写体の写る範囲が変わります（p.74）。

右（♠） 被写体を拡大して写す

左（♠♠♠） 被写体を広い範囲で写す

5 シャッターボタンを半押しする

判別された撮影モードが画像モニター左上に表示されます。

標準	夜景	夜景ポートレート
風景	花	ポートレート
スポーツ		

ピントが合った位置で、フォーカスフレーム（または顔検出枠）が緑色に変わります。
ストロボを使用する場合は、⚡ボタンを押して、ストロボをポップアップします。（p.114）

6 シャッターボタンを全押しする

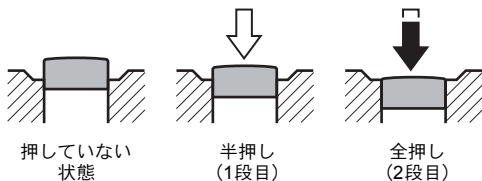
撮影されます。
ストロボは、明るさに応じて自動的に発光します。
撮影した画像は画像モニターに1秒間表示（クイックビュー、p.70）された後、SDメモリーカードまたは内蔵メモリーに保存されます。

AUTO PICTモードでは以下の制限があります。
- 顔検出機能はオフにできません。
- AFエリアは［　］（マルチ）固定になります。
- デジタルズーム／インテリジェントズームを使用しているときは、「花」は選択されません。
- ストロボモードを⚡A（オート）に設定していて「夜景」が選ばれた場合は、自動的に㊉（発光禁止）になります。
- ストロボモードを⚡A（オート）以外に設定していて「夜景」が選ばれた場合は、判別前の設定に従います。ただし、ストロボが発光する場合はスローシンクロとなります。
- ドライブモードを（連写L）／（連写M）／（連写H）に設定している場合は、最初に判別された撮影モードのまま連続して撮影されます。
- オートマクロがオンで、フォーカスモードが**AF**（標準）／🌷（マクロ）になっている場合は、常にピント合わせが行われます。

シャッターボタンの押しかた

シャッターボタンは「半押し」と「全押し」の2段階になっています。

半押し
シャッターボタンを1段目まで軽く押した状態です。ピント位置と露出がロックされます。半押しのときにピントが合うと、画像モニターに緑色の枠が点灯します。ピントが合っていないときは、白い枠が点灯します。

全押し
シャッターボタンを2段目まで押しきった状態です。撮影が行われます。

- カメラぶれを防ぐため、シャッターボタンはゆっくり押し込んでください。
- 実際にシャッターボタンを押してみて、半押しと全押しの感覚をつかんでおいてください。

ピント合わせの苦手な条件
写したいものが下の例のような条件にある場合は、ピントが合わないことがあります。その場合はいったん撮りたいものと同じ距離にあるものにピントを固定（シャッターボタン半押し）し、その後撮りたい位置に構図を戻してシャッターを切ります。
- 青空や白壁など極端にコントラストが低いもの
- 暗い場所、あるいは真っ暗なものなど、光の反射しにくい条件
- 細かい模様の場合
- 非常に速い速度で移動しているもの
- 遠近のものが同時に存在する場合
- 反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るい場合）

クイックビューとまばたき検出

撮影直後には、撮影した画像が画像モニターに1秒間表示（クイックビュー）されます。顔検出機能が働いているときに、被写体が目を閉じたとカメラが検出すると、「目を閉じていました」というメッセージが3秒間表示されます（まばたき検出）。

- 顔検出が行われなかったときは、まばたき検出も行われません。また顔検出した場合でも、検出した顔の条件によってまばたき検出ができないことがあります。
- まばたきを検出しないように設定することもできます（p.132）。

顔検出機能を利用する

X90では、すべての撮影モードで、「顔検出」機能が利用できます。
顔検出機能は、カメラが人物の顔を検出すると、画像モニター上の顔の位置に黄色の顔検出枠を表示し、ピント合わせ（顔検出AF）と露出補正（顔検出AE）を行います。
顔検出枠は、被写体の人物が動くと、顔を追尾して位置や大きさが変化します。

顔検出枠

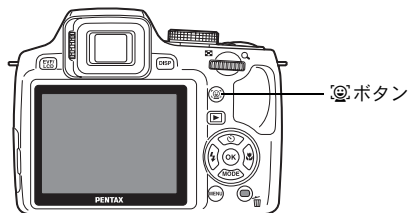
人物の顔は最大32人まで検出できます。複数の顔を検出した場合は、メインの顔に黄色の枠が表示され、他の顔には白い枠が表示されます。枠は、メイン枠・白い枠を合わせて最大31個（ベストフレーミングモード時は最大30個）まで表示できます。

複数の顔を検出した場合

メイン枠　白い枠

- サングラスなどで被写体の顔の一部がさえぎられている場合や、顔の向きが正面ではない場合は、顔検出AFと顔検出AEが働かないことがあります。
- 被写体の顔が検出できない場合は、選択されているAFエリアでピントを合わせます。
- 「スマイルキャッチ」機能がオンの場合、検出した顔が小さすぎるなどの条件によっては「スマイルキャッチ」機能が働かず、自動的にシャッターが切れないことがあります。その場合はシャッターボタンを押すと、シャッターが切れます。

顔検出機能を切り替える

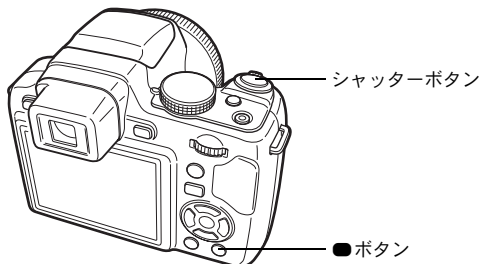
初期状態では、顔検出機能がオンになっています。被写体が笑顔になるとシャッターを自動的に切る「スマイルキャッチ」機能に切り替えることもできます。ボタンを押すたびに、スマイルキャッチ→顔検出オフ→顔検出オンと切り替わります。

顔検出機能を切り替えると、顔検出／スマイルキャッチを示すアイコンが画像モニターに表示されます。

- AUTO PICT（オートピクチャー）／（ポートレート）／（ベストフレーミング）／（夜景ポートレート）／（ベビー）／（キッズ）モードでは、顔検出機能をオフにはできません。顔検出またはスマイルキャッチのどちらかが必ずオンになります。
- 顔検出オフ時に AUTO PICT（オートピクチャー）／（グリーン）／（ポートレート）／（ベストフレーミング）／（夜景ポートレート）／（ベビー）／（キッズ）／（動画）モードを選択すると、自動的に顔検出機能がオンになります。これらの撮影モードから他の撮影モードに移行すると、元の顔検出機能の設定に戻ります。
- ストロボモードを（オート）に設定しているときに顔検出された場合は、ストロボ発光時に自動的に（強制＋赤目）になります。

簡単撮影モードで撮影する（グリーンモード）

（グリーン）モードでは、「撮影」メニューの設定に関係なく、標準設定で手軽に撮影を楽しめます。
モードの設定値は、以下のとおりです。

ドライブモード	（標準）
ストロボモード	（オート）
フォーカスモード	**AF**（標準）
顔検出機能	（オン）
情報表示	標準
露出補正	±0.0
画像仕上	鮮やか
記録サイズ	12M（4000 × 3000）
画質	★★（ファイン）
ホワイトバランス	**AWB**（オート）
感度	AUTO
感度AUTO調整範囲	ISO 80-800
AFエリア	[　]（マルチ）
オートマクロ	☑（オン）

AF補助光	☑（オン）
測光方式	（分割測光）
ストロボ光量補正	±0.0
ハイライト補正	□（オフ）
シャドー補正	□（オフ）
Shake Reduction	☑（オン）
まばたき検出	☑（オン）
デジタルズーム	☑（オン）
クイックビュー	☑（オン）
シャープネス	（標準）
彩度	（標準）
コントラスト	（標準）
日付写し込み	オフ

1 ◘モードで●ボタンを押す

●モードに切り替わります。
もう一度●ボタンを押すと、●モードに入る前の撮影モードに戻ります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。(p.70)
ストロボを使用する場合は、ϟボタンを押してストロボをポップアップします。(p.114)

2 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

3 シャッターボタンを全押しする

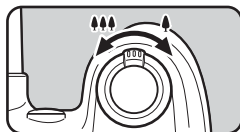
撮影されます。

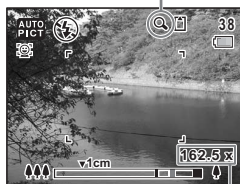
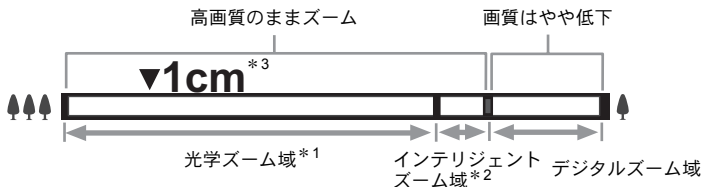
- ● モードを利用する場合は、「◘ 撮影」メニューの「グリーンボタン」に「グリーンモード」を登録しておきます（p.137）（初期設定では「グリーンモード」に設定されています）。
- ●モードでは、DISPボタンを押して情報表示を切り替えることはできません。
- ●モードでMENUボタンを押すと、「🔧設定」メニューが表示されます。「◘撮影」メニューは表示できません。

ズームを使って撮影する

ズーム機能を使って、写る範囲を変えて撮影できます。

1 モードでズームレバーを回す

右（♠）　望遠　被写体を拡大して写す
左（♠♠♠）　広角　被写体を広い範囲で写す

右（♠）に回し続けると、自動的に光学ズームからインテリジェントズームに切り替わり、デジタルズームの切り替わり点で止まります。
いったんズームレバーから指を離して、もう一度回すとデジタルズームになります。

緑：インテリジェントズーム
白：デジタルズーム

ズームバーは、次のように表示されます。

*1 光学26倍までズームできます。
*2 記録サイズによってインテリジェントズーム域は変化します。次の表をご覧ください。
*3 フォーカスモードが（1cmマクロ）のときは、ズーム位置が固定されます。

3 撮影

記録サイズと最大ズーム倍率

記録サイズ	インテリジェントズーム	デジタルズーム
12M	不可（光学26倍のみ）	約162.5倍相当
10.7M 3:2		
9M 16:9		
9M 1:1		
7M	約33.9倍	
5M	約40.1倍	
3M	約50.8倍	
1024	約101.6倍	
640	約162.5倍（デジタルズームと同じ）	

- 高倍率の撮影では、手ぶれを防止するため三脚などのご使用をお勧めします。
- デジタルズーム領域で撮影すると、光学ズーム領域で撮影したときよりも画像があらくなります。
- 感度が 3200 以上のときは、インテリジェントズーム／デジタルズームを使用できません。
- 次の場合、インテリジェントズームは使えません。
  - 記録サイズが 12M ／ 10.7M 3:2 ／ 9M 16:9 ／ 9M 1:1 のとき（光学26倍ズームとデジタルズームは使用可）
  - （高感度）モード（光学26倍ズームのみ使用可）
- インテリジェントズームで高倍率に拡大すると、画像モニターの画像があらく見えることがあります。撮影した静止画の画質には、影響はありません。
- （動画）モードで撮影中は、デジタルズームのみ使えます。

デジタルズーム機能を設定する

初期設定では、デジタルズームは☑（オン）に設定されています。光学ズームとインテリジェントズーム領域だけを使って撮影したい場合は、□（オフ）に設定します。

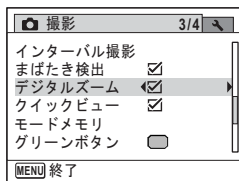
1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「デジタルズーム」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　デジタルズームを使用する
□　光学ズームとインテリジェントズームだけを使用する

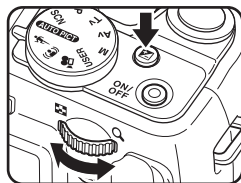
設定が保存されます。

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

デジタルズーム機能の設定を保存する ☞p.144

露出を補正する

撮影する画像全体の明るさを調整します。
意図的に露出をオーバー（明るく）やアンダー（暗く）にして撮影するときに利用します。

1 📷モードで☒ボタンを押す

2 電子ダイヤルを回す

明るくする場合は＋（Q）側に、暗くする場合は－（▣）側に設定します。
補正値は、±2.0EVの範囲を1/3EV単位で選択できます。

3 ☒ボタンを押す

露出補正が確定し、撮影できる状態になります。

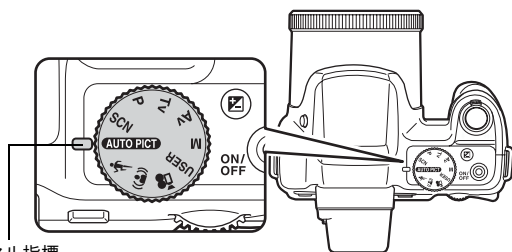
- 補正値が±0.0以外の場合は、画像モニターに常時表示されます。補正値が±0.0の場合は、画面下部に2秒間表示された後、表示が消えます。
- ●（グリーン）／AUTO PICT（オートピクチャー）モードでは、±0.0固定になります。
- **M**（マニュアル）モードでは、使用できません。
- ☒ボタンを押すと、露出補正値が拡大表示されます。

通常表示

☒ボタンを押したとき

3 撮影

撮影モードを選ぶ

モードダイヤルのアイコンをダイヤル指標に合わせて、撮影モードを切り替えます。

X90には多彩な撮影モードがあります。用途に合わせて、撮影モードを選択してください。
本書では撮影モードを以下のように呼びます。

撮影モード	種類	参照
ピクチャーモード	AUTO PICT（オートピクチャー）／（スポーツ）／（高感度）	p.79
SCN（シーン）モード	（風景）／（花）／（ポートレート）／（逆光）／（ベストフレーミング）／（夜景）／（夜景ポートレート）／（ステージライト）／（サーフ&スノー）／（ベビー）／（キッズ）／（ペット）／（料理）／（花火）／（フレーム合成）／（パーティー）／（美術館）／（夕焼け）／WIDE（デジタルワイド）／（パノラマ）	p.79
露出モード	P（プログラム）／Tv（シャッター優先）／Av（絞り優先）／M（マニュアル）／USER（ユーザー）	p.81
動画モード	（動画）	p.140

ピクチャーモード

AUTO PICT（オートピクチャー）／スポーツ（スポーツ）／高感度（高感度）があります。各モードの特徴は次の通りです。

モード	特徴	参照
AUTO PICT オートピクチャー	カメラの標準設定から最適な撮影モードを自動的に選択します。	p.66
スポーツ	スポーツなど動きの速い被写体の撮影に適しています。撮影するまでピントを合わせ続けます。	p.87
高感度	ぶれを軽減して撮影するために、より高い感度を使用します。	p.82

SCNモード

モードダイヤルをSCN（シーン）に合わせ、次の20種類の撮影シーンから選択して撮影できます。

撮影モード	内容	参照
風景	風景の撮影に適しています。木々の緑と空の青をより鮮やかに写します。	—
花	花の撮影に適しています。花の輪郭を柔らかめに表現します。	—
ポートレート	人物の撮影に適しています。肌色を健康的に仕上げます。	p.83
逆光	逆光時に、被写体を明るめに撮影します。撮影時にストロボを使ってください。	p.86
ベストフレーミング	人物を最適な大きさで撮影するように、ズーム倍率を自動的に変更します。（3M（2048×1536）固定）	p.83
夜景	夜景の撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。	p.82
夜景ポートレート	夜景での人物撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。	p.82
ステージライト	暗いところで動きのある被写体を撮影するのに適しています。	—
サーフ＆スノー	砂浜や雪山など、背景の明るい場所での撮影に適しています。	p.87
ベビー	赤ちゃんの表情を明るく健康的に撮影します。	p.83
キッズ	動きの多い子供を撮影するのに適しています。肌色を健康的に仕上げます。	p.84

撮影モード	内容	参照
ペット	動き回るペットの撮影に適しています。ペットの毛色を選択してください。	p.85
料理	料理の撮影に適しています。より鮮やかに仕上げます。	—
花火	花火の撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。	p.82
フレーム合成	フレーム付きの画像を撮影します。記録サイズは、3M（2048×1536）に固定されます。	p.90
パーティー	パーティー会場での撮影に適しています。	p.88
美術館	美術館などストロボを発光させたくない場所での撮影に適しています。	—
夕焼け	夕焼けや朝焼けの写真を美しく仕上げます。	—
WIDE デジタルワイド	撮影した2枚の画像をカメラ内でつなぎ合わせて、より広い範囲の画像を作成します。	p.98
パノラマ	撮影した画像をカメラ内でつなぎ合わせてパノラマ写真を作成します。	p.100

撮影モードによっては、一部の機能が設定できなかったり、制限がある場合があります。詳しくは、「各撮影モードの機能対応」（p.238）をご確認ください。

1 モードダイヤルをSCNに合わせる

前回選択したSCNモードになります。初期設定は（風景）です。

2 十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で撮影モードを選択する

撮影モードパレットでアイコンを選択すると、選んだ撮影モードの説明が表示されます。

4 OKボタンを押す

撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。
ストロボを使用する場合は、ϟボタンを押してストロボをポップアップします。（p.114）

露出モード

シャッター速度・絞りを任意に変更し、撮影者の意図に合った画像を撮影したいときに使用します。

撮影モード	内容	参照
P プログラム	プログラムラインに従ってシャッター速度と絞りが自動的に設定され、適正露出で撮影できます。適正露出のまま電子ダイヤルでシャッター速度と絞りを変更することができます。	p.104
Tv シャッター優先	シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使います。動きの速い被写体を止まっているように、あるいは躍動感を出して撮影できます。	p.106
Av 絞り優先	絞り値を任意の値に設定して、被写界深度（ピントが合って見える範囲）を調整したいときに使います。被写体の背景をぼかしたり、くっきりさせたりできます。	p.107
M マニュアル	任意に設定したシャッター速度と絞り値を組み合わせて、より撮影意図に合った画作りをしたいときに使います。	p.108
USER ユーザー	任意に登録した設定で撮影します。	p.111

撮影シーンによって撮影モードを選ぶ

暗いところで撮影する（高感度／夜景／夜景ポートレート／花火モード）

夜景など暗いシーンを撮影するのに適切な設定にセットされます。

ピクチャーモード	高感度	ぶれを軽減して撮影するために、より高い感度を使用します。感度は AUTO、記録サイズは 5M（2592×1944）に固定されます。
SCNモード	夜景	夜景の撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。
	夜景ポートレート	夜景での人物撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。ストロボモードを（オート）に設定しているときに顔検出された場合は、ストロボ発光時に自動的に（強制＋赤目）になります。
	花火	花火の撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。感度は最低感度に固定されます。

1 モードでモードダイヤルをまたはSCNに合わせる

に合わせた場合は、手順5に進みます。

2 十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で／／を選ぶ

4 OKボタンを押す

撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.70）
ストロボを使用する場合は、ボタンを押してストロボをポップアップします。（p.114）

5　シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

6　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

- 暗いシーンの撮影は、シャッタースピードが遅くなります。
- 手ぶれを防ぐには、Shake Reduction（p.132）を設定するか、三脚とセルフタイマー（p.92）を使った撮影が有効です。

3 撮影

人物を撮影する（ポートレート／ベストフレーミング／ベビーモード）

（ポートレート）／（ベストフレーミング）／（ベビー）モードは、人物を撮影するのに適しています。いずれの撮影モードも顔検出機能（p.70）が自動的にオンになるので、被写体の顔を主体にした写真を簡単に撮ることができます。

SCNモード	ポートレート	人物の撮影に適しています。肌色を健康的に仕上げます。
	ベストフレーミング	人物を最適な大きさで撮影するように、ズーム倍率を自動的に変更します。記録サイズは 3M（2048×1536）に固定されます。
	ベビー	赤ちゃんの表情を明るく健康的に撮影します。

1　モードでモードダイヤルをSCNに合わせて十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で／／を選ぶ

3 OKボタンを押す

撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。(p.70)
モードで人物の顔を検出すると、ズームアップされる範囲を示すオレンジ色の枠が表示されます。

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。
モードで人物の顔を検出していると、自動でズームし、手順3のオレンジ色の枠の範囲がアップで表示されます。
ストロボを使用する場合は、ボタンを押してストロボをポップアップします。(p.114)

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

子供を撮影する（キッズモード）

（キッズ）モードは、動きの多い子供を撮影するのに適しています。また、肌色を明るく健康的に仕上げることができます。モードでは、顔検出機能（p.70）が自動的にオンになるので、被写体の顔を主体にした写真を簡単に撮ることができます。

1 モードでモードダイヤルをSCNに合わせて十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でを選ぶ

3 OKボタンを押す

🏃モードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.70）

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。
ストロボを使用する場合は、⚡ボタンを押してストロボをポップアップします。（p.114）

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

ペットを撮影する（ペットモード）

🐕（ペット）モードでは、動き回るペットにフォーカスを合わせ続け、ペットの毛色を活かしてきれいに写すことができます。撮りたいペットの毛色が白っぽいか、黒っぽいか、中間の色かでアイコンの色を選択してください。

1 📷モードでモードダイヤルをSCNに合わせて十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で🐕を選ぶ

3 OKボタンを押す

🐕モードの選択画面が表示されます。

3
撮影

4 十字キー（▲▼）で／／／／／を選ぶ

ペットアイコンには犬柄と猫柄があります。犬アイコンと猫アイコンは絵柄が違うだけで、撮影効果は同じです。お好みで使い分けてください。

5 OKボタンを押す

ペットモードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.70）

6 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。
シャッターボタンを半押しし続けている間、フォーカスフレームが被写体を追い続けます。
ストロボを使用する場合は、ボタンを押してストロボをポップアップします。（p.114）

7 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

逆光で撮影する（逆光モード）

（逆光）モードは、ストロボを使用して逆光での撮影時に被写体を明るめに撮影します。

1 ボタンを押してストロボをポップアップする

p.114を参照してください。

2 モードでモードダイヤルをSCNに合わせて十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）でを選ぶ

4 OKボタンを押す

モードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.70）

5 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

6 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

メモ
ストロボをポップアップしていない状態でモードを選択すると、「ストロボをポップアップしてください」とメッセージが表示されます。

レジャーシーンやスポーツを撮影する（スポーツ／サーフ＆スノーモード）

ピクチャーモード	スポーツ	動きの速い被写体の撮影に適しています。撮影するまでピントを合わせ続けます。
SCNモード	サーフ＆スノー	砂浜や雪山など、背景の明るい場所での撮影に適しています。

1 モードでモードダイヤルをまたはSCNに合わせる

に合わせた場合は、手順5に進みます。

2 十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）でを選ぶ

4 OKボタンを押す

モードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.70）

5 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。
モードを選択した場合は、シャッターボタンを半押しし続けている間、フォーカスフレームが被写体を追い続けます。
ストロボを使用する場合は、ボタンを押してストロボをポップアップします。（p.114）

6 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

室内で撮影する（パーティーモード）

（パーティー）モードは、パーティー会場などの室内で撮影するのに適しています。

1 モードでモードダイヤルをSCNに合わせて十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でを選ぶ

3 OKボタンを押す

モードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.70）

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。
ストロボを使用する場合は、⚡ボタンを押してストロボをポップアップします。（p.114）

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

フレームをつけて撮影する（フレーム合成モード）

▢（フレーム合成）モードでは、カメラに保存されているフレームに合わせて撮影することができます。

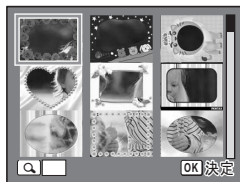
1 ◘モードでモードダイヤルをSCNに合わせて十字キー(▼)を押す

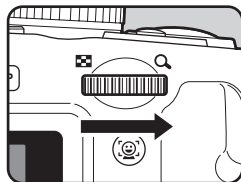
撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で▢を選ぶ

3 OKボタンを押す

フレーム選択の9分割画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）で使用するフレームを選ぶ

5 電子ダイヤルを右（Q）に回す

選んだフレームが1画面表示されます。
フレームは次の方法で選び直すことができます。

十字キー（◀▶）	別のフレームを選択
電子ダイヤル左（▦）	フレーム選択の9分割画面に戻り、手順4と同様の操作で別のフレームを選択

6 OKボタンを押す

フレーム付きの撮影画面が表示されます。カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。(p.70)

7 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。
ストロボを使用する場合は、⚡ボタンを押してストロボをポップアップします。(p.114)

8 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

- 記録サイズは、3M（2048×1536）に固定されます。
- 工場出荷時には、デフォルトフレーム3種類、オプションフレーム87種類が内蔵されています（付属のCD-ROMには、デフォルトフレームを含む90種類のフレームが収録されています）。
- ◎モード時は、**DISP**ボタンでグリッド表示に切り替えることはできません。

オプションのフレーム画像について

X90の内蔵メモリーには、オプションのフレームが登録されています。このオプションフレームは、パソコンから内蔵メモリーのファイルを削除したり、内蔵メモリーをフォーマットすると削除されます。オプションフレームを内蔵メモリーに再度登録する場合は、付属のCD-ROM（S-SW104）からコピーしてください（p.187）。

撮影した画像にフレームを合成する ☞p.185

セルフタイマーを使って撮影する

シャッターボタンを押してから、10秒後または2秒後に撮影されます。セルフタイマーを使って撮影するときは、カメラを三脚等に固定してください。

セルフタイマー	シャッターボタンを押してから約10 秒後に撮影されます。撮影者も含めて集合写真を撮る場合などに利用できます。
2sセルフタイマー	シャッターボタンを押してから約2秒後に撮影されます。手ぶれを避けるために利用できます。

3 撮影

1 モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で／を選択し、OK ボタンを押す

セルフタイマーを使って撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。(p.70)

3 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。
ストロボを使用する場合は、ボタンを押してストロボをポップアップします。（p.114）

4 シャッターボタンを全押しする

の場合は、セルフタイマーランプが点灯します。撮影3秒前以降との場合は、セルフタイマーランプが点滅します。
10秒後または2秒後に撮影されます。

- 静止画撮影の場合、セルフタイマーランプの点滅中に構図を変えると、ピントが合わなくなります。
- 🐕（ペット）モードでは、セルフタイマーランプは点灯／点滅しません。

- 🎥（動画）モードでは、10秒後または2秒後に動画撮影が始まります。
- カウントダウン中にシャッターボタンを半押しするとカウントダウンを中止し、全押しするとカウントダウンをやり直します。

連続して撮影する（連続撮影／連写）

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。

連続撮影	1枚撮影するごとに、画像をメモリーに書き込み、続いて次の静止画を撮影します。高画質の画像ほど、撮影間隔が長くなります。SDメモリーカードまたは内蔵メモリーがいっぱいになるまで、連続撮影できます。
連写L	記録サイズを5M（2592×1944）に固定し、連続して撮影します。撮影間隔はL→M→Hの順に速くなります。
連写M	
連写H	

連続して撮影できる枚数と撮影間隔は、撮影条件によって異なります。

1 📷モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で連続撮影／連写L／連写M／連写Hを選択し、OKボタンを押す

連続して撮影できる状態になります。

3 **シャッターボタンを半押しする**

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

4 **シャッターボタンを全押しする**

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。

- ストロボは発光しません。
- ●（グリーン）／❋（花火）／▢（フレーム合成）／WIDE（デジタルワイド）／▮■▮（パノラマ）／🎥（動画）モードでは、選択できません。
- ▢L／▢M／▢Hでは、デジタルズームとインテリジェントズームを使用できません。

- ピント・露出・ホワイトバランスは、1枚目で固定されます。
- 顔検出機能（p.70）がオンの場合は、1枚目の撮影時のみ顔検出機能が働きます。
- まばたき検出は、最後に撮影された画像に対して行われます。
- AUTO PICT（オートピクチャー）モードの場合は、最初に判別された撮影モードのまま連続して撮影されます。

設定した時間間隔で撮影する（インターバル撮影）

設定した時刻から一定の間隔で静止画を自動的に撮影します。以下の設定を行います。

撮影間隔	撮影する間隔を10秒～99分で設定します。10秒～4分の間は1秒単位、4～99分の間は1分単位で設定します。
撮影枚数	撮影する枚数を設定します。2枚～撮影可能枚数の範囲内で最大1000枚まで設定できます。
撮影開始時間	撮影を開始する時刻を0分後～24時間後で設定します。0～59分の間は1分単位、1時間以上は1時間単位で設定します。0分後に設定すると、シャッターボタンを押してすぐに1枚目の画像が撮影されます。

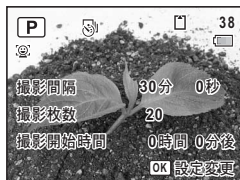
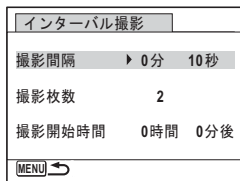
1 **📷モードで十字キー（▲）を押す**

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で⌛を選択し、OKボタンを押す

インターバル撮影の設定内容が約1分間表示されます。現在の設定のまま撮影をする場合は、手順7に進みます。

3 OKボタンを押す

「インターバル撮影」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で撮影間隔／撮影枚数／撮影開始時間を選ぶ

5 十字キー（▶）を押してから十字キー（▲▼）押し、設定を変更する

次の項目を設定するときは、十字キー（▶）を押します。

6 設定が終わったらMENUボタンを押す

手順3の画面に戻ります。
約1分後に、撮影できる状態になります。

7 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

3
撮影

8　シャッターボタンを全押しする

「インターバル撮影を開始します」と表示された後、画像モニターが消えます。「撮影開始時間」が「0分後」の場合は、すぐに撮影されてクイックビューが表示されてから画像モニターの表示が消えます。
「撮影枚数」で設定した枚数の撮影が終了すると、「インターバル撮影を終了しました」と表示された後、電源が切れます。

●（グリーン）／◎（フレーム合成）／WIDE（デジタルワイド）／▮▮▮（パノラマ）／🎥（動画）モードでは、インターバル撮影はできません。

- 撮影と撮影の間（撮影待機中）は、画像モニターは表示されません。
- 撮影待機中に電源スイッチを押すと、画像モニターに残りの撮影枚数と撮影間隔が表示されます。**MENU**ボタンを押すと、「インターバル撮影を中止しますか？」とメッセージが表示されます。**OK**ボタンを押すと、インターバル撮影が中止されます。
- 撮影間隔が短いと、中止操作が間に合わないことがあります。その場合は、モードダイヤルを回すと強制的に終了します。
- インターバル撮影の設定は、「📷撮影」メニューの「インターバル撮影」で設定することもできます。設定のしかたは手順4～6と同様です。

露出を変化させて撮影する（露出ブラケット）

シャッターボタンを押したときに、露出が異なる画像を連続して3枚撮影できます。
適正露出→ マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

適正露出

マイナス補正

プラス補正

1　📷モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で⊞を選択する

オートブラケット撮影ができる状態になります。

3 十字キー（▲▼）でブラケット幅を選択し、OK ボタンを押す

±0.3～2.0EVまで設定できます。

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

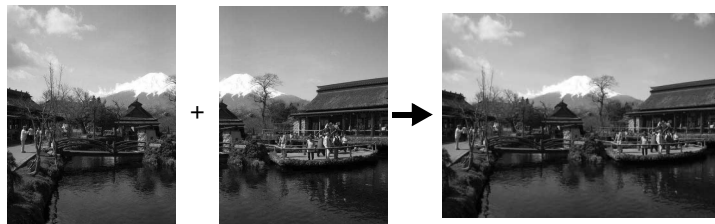
5 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを1回押すと、露出を変化させた3枚の画像が撮影されます。

●（グリーン）／※（花火）／WIDE（デジタルワイド）／▮▮▮（パノラマ）／🎥（動画）モードでは選択できません。

クイックビューが☑（オン）に設定されている場合（p.133）は、撮影後に 3 枚目に撮影された画像がクイックビュー表示されます（p.70）。

デジタルワイドを使って撮影する（デジタルワイドモード）

WIDE（デジタルワイド）モードでは、縦位置の2枚の撮影画像をカメラ内で合成することで、最大で約20mm相当（35mmフィルム換算）の広角撮影ができます。

1 カメラモードでモードダイヤルをSCNに合わせて十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でWIDEを選ぶ

3 OKボタンを押す

WIDEモードになります。
シャッターボタンが下になるようカメラを縦位置に構え、1枚目（左半分）の構図を決めます。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.70）

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

1枚目の撮影画像が記憶され、2枚目の撮影画面が表示されます。

6 2枚目を撮影する

画面左の位置合わせガイドに画像を重ねて、2枚目（右半分）の構図を決めます。手順4～5と同じ操作で2枚目の撮影をすると、1枚目と2枚目の撮影画面が合成されます。
合成された画像は画像モニターに1秒間表示（クイックビュー）された後、保存されます。

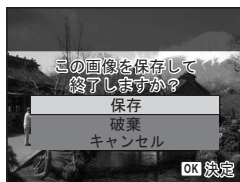
- 2枚目を撮影するときは、位置合わせガイドの右端を軸にしてカメラを旋回させるようにすると、ひずみの少ない写真ができます。
- 1枚目と2枚目の重ね合わせ部分に、動くものや繰り返しパターンの像があったり、逆に何もない場合は、うまく合成できないことがあります。
- 顔検出機能（p.70）がオンの場合は、1枚目の撮影時のみ顔検出機能が働きます。
- 合成された画像は、5M（2592×1944）で保存されます。

1枚目で撮影をやめるとき

1 **p.99の手順5で2枚目の撮影画面が表示されているときに、OKボタンまたは十字キー（▼）を押す**

確認の画面が表示されます。

2 **十字キー（▲▼）で処理を選び、OKボタンを押す**

保存	1枚目の画像を保存し、新たに1枚目から撮影します。1枚目の画像は3M（2048×1536）で保存されます。
破棄	1枚目の画像を保存しないで、新たに1枚目から撮影します。
キャンセル	2枚目の撮影画面に戻ります。

パノラマ撮影をする（パノラマモード）

（パノラマ）モードでは、2枚または3枚の撮影画像をカメラ内で合成してパノラマ写真を作成します。

1 **モードでモードダイヤルをSCNに合わせて十字キー（▼）を押す**

撮影モードパレットが表示されます。

2 **十字キー（▲▼◀▶）でを選ぶ**

3 **OKボタンを押す**

モードになり、「移動する方向を指定してください」とメッセージが表示されます。

3

撮影

4 十字キー（◀▶）で画像をつなげる方向を選ぶ

1枚目を撮影する画面が表示されます。

カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.70）

5 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

6 シャッターボタンを全押しする

1枚目の画像が撮影され、2枚目を撮影する画面が表示されます。

手順4で▶を選んでいる場合

画面の左端に、1枚目に撮った画像の右端部分が透過表示されます。

手順4で◀を選んでいる場合

画面の右端に、1枚目に撮った画像の左端部分が透過表示されます。

7 2枚目の画像を撮影する

実画像が1枚目の画像の透過表示に重なるようにカメラを移動し、シャッターを切ります。

8 3枚目の画像を撮影する

3枚目も手順5～7を繰り返して撮影します。
画像がパノラマ合成され、合成結果が表示されます。
クイックビュー（p.133）が□（オフ）の場合は、合成結果は表示されません。

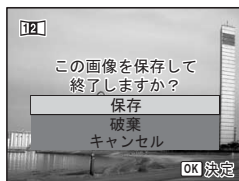
- 1枚目と2枚目、または2枚目と3枚目の重ね合わせ部分に、動くものや繰り返しパターンの像があったり、逆に何もない場合は、うまく合成できないことがあります。
- 顔検出機能（p.70）がオンの場合は、1枚目の撮影時のみ顔検出機能が働きます。

1枚目または2枚目で撮影をやめるとき

1 p.101の手順6で1枚目の画像を撮影後、または手順7で2枚目の画像を撮影後に、OK ボタンまたは十字キー（▼）を押す

確認の画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で処理を選び、OK ボタンを押す

保存	撮影済みの画像を保存し、新たに1枚目から撮影します。2枚目の画像撮影後に選択すると、1枚目と2枚目の撮影画像がパノラマ合成され、合成結果が表示されます。
破棄	撮影済みの画像を保存しないで、新たに1枚目から撮影します。
キャンセル	直前の撮影画面に戻ります。

▮▮▮モードで撮影した合成前の画像は、2M（1600×1200）で保存されます。

シャッター速度や絞りを変えて撮影する

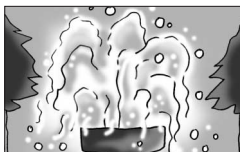
シャッター速度と絞りの効果について

撮りたいもの（被写体）の適正露出は、シャッター速度と絞り値の組み合わせで決まります。被写体の適正露出を決めるシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選択することで、画像の撮影効果を変えることができます。

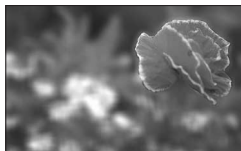
シャッター速度の効果

シャッター速度を操作することで、作品の中の時間表現を操ることができます。目に見えない一瞬を捉えたり、時間の流れを一枚の画像に写し込むなど、シャッター速度の設定によって、様々な表現ができます。
Tv（シャッター優先）モードを利用します。

● シャッター速度を遅くする
シャッターが開いている時間が長くなるため、被写体が動いていれば、ブレとして画像に記録されます。
川や滝、波などの動きを意図的に遅いシャッター速度で撮ることで、動感のある画像になります。

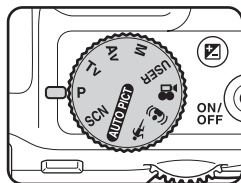
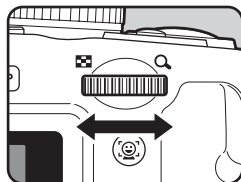
● シャッター速度を速くする
動きのあるものでも動きを止めて撮影することができます。
また、シャッターをきるときにカメラぶれを起きにくくする効果があります。

絞りの効果

絞りを操作することで、ピントの合っている奥行き（被写界深度）を変化させることができます。作品の一点に注目させたり、奥行き感を与えるなど、作品のイメージを大きく変えることができます。
Av（絞り優先）モードを利用します。

● 絞りを開く（絞り値を小さくする）
ピントを合わせたものに比べて、その前後のもののボケが大きくなります。例えば、風景の中で花を撮影すると、ピントを合わせた花の前後にある風景のボケを大きくし、花だけを浮き上がらせる効果があります。

● 絞りを絞る（絞り値を大きくする）
ピントが合って見える範囲が前後に広がります。例えば、風景の中で花を撮影すると、ピントを合わせた花の前後にある風景までピントが合っているように見えます。

P（プログラム）モードを利用する

プログラムラインに従ってシャッター速度と絞りが自動的に設定され、適正露出で撮影できます。適正露出のまま電子ダイヤルでシャッター速度と絞りを変更することができます。

1 モードダイヤルをPに合わせる

2 電子ダイヤルを回して適正露出のままシャッター速度と絞り値を調整する

電子ダイヤルの回転方向	効果
Q（右）	シャッター速度を1/3EV単位で遅くし、絞り値を1/3EV絞ります
▦（左）	シャッター速度を1/3EV単位で速くし、絞り値を1/3EV開きます

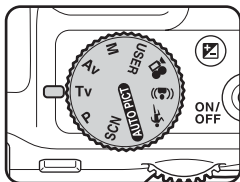
3 ストロボを使用する場合は ϟ ボタンを押す

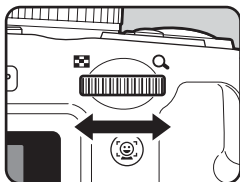
ストロボがポップアップします。（p.114）

4 撮影する

Tv（シャッター優先）モードを利用する

シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使います。動きの速い被写体を止まっているように、あるいは躍動感を出して撮影できます。

1 モードダイヤルをTvに合わせる

2 電子ダイヤルを回してシャッター速度を変更する

シャッター速度の設定可能範囲は1/4000～4秒です。

3 ストロボを使用する場合は ϟ ボタンを押す

ストロボがポップアップします。（p.114）

4 撮影する

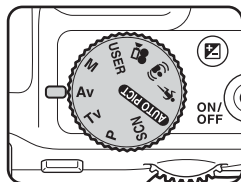
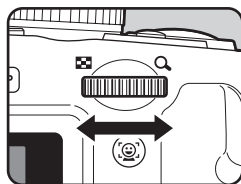
ストロボモードの ϟA（オート）／ ϟ（強制発光）／ ◉A（オート＋赤目）／ ◉ϟ（強制＋赤目）は選択できません。

メモ

- 絞り値と感度（AUTOの場合）はシャッター速度に合わせて、適正露出になるよう自動的に設定されます。適正な露出値が得られない場合は、最も近い値に設定し、絞り値を赤色で表示します。
- **Tv** モードで設定したシャッター速度は **M** モードと共通です。どちらかのモードで数値を変更すると、もう一方にも反映されます。
- シャッター速度を1/4秒より遅い値に設定した場合には、画像のざらつきやムラを減らす処理（ノイズリダクション）が行われます。
- シャッター速度は常にメモリされ、リセットによって初期化されます。初期値は1/125秒です。

Av（絞り優先）モードを利用する

絞り値を任意の値に設定して、被写界深度（ピントが合って見える範囲）を調整したいときに使います。絞り値を大きくすると被写界深度が深くなり、ピントを合わせた被写体の前後まで鮮明に撮影することができます。また、絞り値を小さくすると被写界深度が浅くなり、ピントを合わせた被写体の前後をぼかすことができます。
なお、シャッター速度は使用する絞り値に合わせて、適正露出になるよう自動的に設定されます。

1 モードダイヤルをAvに合わせる

2 電子ダイヤルを回して絞り値を変更する

3 ストロボを使用する場合は ϟ ボタンを押す

ストロボがポップアップします。（p.114）

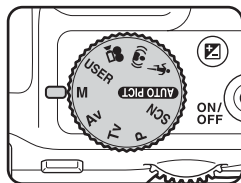
4 撮影する

ストロボモードの ϟA（オート）／ ◉A（オート＋赤目）は選択できません。

- シャッター速度と感度（AUTOの場合）は絞り値に合わせて、適正露出になるよう自動的に設定されます。適正な露出値が得られない場合は、最も近い値に設定し、シャッター速度を赤色で表示します。
- **Av** モードで設定した絞り値は **M** モードと共通です。どちらかのモードで数値を変更すると、もう一方にも反映されます。
- シャッター速度が1/4秒より遅い値になった場合には、画像のざらつきやムラを減らす処理（ノイズリダクション）が行われます。
- ズーム倍率を変更したときも、絞り値を保持します。ただし、選択したズーム倍率で現在の絞り値が使用できない場合には、最も近い絞り値に設定します。この場合、再度ズーム倍率を変更して元の絞り値が使用できるようになったら、元の絞り値に戻ります。

M（マニュアル）モードを利用する

シャッター速度と絞り値の両方を任意の値に設定し、それを組み合わせて思いどおりの画作りをするのに適しています。常に同じシャッター速度と絞り値の組み合わせで撮影したいときや、意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）にしたいときに使います。

1 モードダイヤルをMに合わせる

2 電子ダイヤルを回してシャッター速度／絞り値を変更する

⊿ボタンを押すと、シャッター速度調整／絞り値調整が切り替わります。（初期設定：シャッター速度調整）

3 ストロボを使用する場合は ϟ ボタンを押す

ストロボがポップアップします。（p.114）

4 撮影する

- Mモードでは、露出補正は使用できません。
- 感度でAUTOは選択できません。
- ストロボモードの ϟA（オート）／ ϟ（強制発光）／ ◉A（オート＋赤目）／◉ϟ（強制＋赤目）は選択できません。

- 現在の露出と適正露出との差が大きい場合は、警告を表示します。±2.0EVを超える場合には露出警告アイコンのみ、±2.0EV以下の場合には露出警告アイコンと現在の露出と適正露出との差を1/3EV単位で表示します。
- M モードで設定されるシャッター速度と絞り値はそれぞれ Tv ／ Av モードと共通です。どちらかのモードで数値を変更すると、もう一方にも反映されます
- シャッター速度が1/4秒より遅い値になった場合には、画像のざらつきやムラを減らす処理（ノイズリダクション）が行われます。
- シャッター速度と絞り値の変更している方を大きなフォント(高さが1.5倍)で表示します。
- ズーム倍率を変更したときも、絞り値を保持します。ただし、選択したズーム倍率で現在の絞り値が使用できない場合には、最も近い絞り値に設定します。この場合、再度ズーム倍率を変更して元の絞り値が使用できるようになったら、元の絞り値に戻ります。

USER（ユーザー）モードを利用する

USERモードを登録する

現在のカメラの設定を登録し、モードダイヤルを**USER**に合わせるだけで簡単に呼び出すことができます。
登録できる設定は以下の通りです。

- 撮影モード**P**（初期設定）／**Tv**／**Av**／**M**
- 「撮影」メニューの設定
- ストロボモード
- ドライブモード
- フォーカスモード
- 露出補正
- **DISP**ボタンの情報表示
- 顔検出モード

3
撮影

1 登録する機能を設定する

2 モードで**MENU**ボタンを押す

「設定」メニューが表示されます。
モードで**MENU**ボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

3 十字キー（▲▼）で「USERモード登録」を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

「USERモード登録」画面が表示されます。

5 十字キー（▲）で「登録」を選ぶ

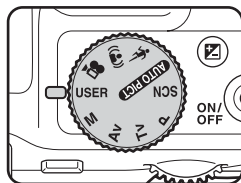
6 OKボタンを押す

登録処理が開始されます。
登録が終わると、📷モードまたは▶モードに戻ります。

モードダイヤルが**P**／**Tv**／**Av**／**M**以外に合っているときは、USERモード登録はできません。

USERモードで撮影する

1 モードダイヤルをUSERに合わせる

登録されている設定が呼び出されます。

2 必要に応じて設定を変更する

3 ストロボを使用する場合は⚡ボタンを押す

ストロボがポップアップします。（p.114）

4 撮影する

USERモードで変更した設定は、モードダイヤルがUSERのときだけ有効です。他の撮影モードに変更したり、電源を切ると「USER モード登録」で登録した設定に戻ります。USERモードの登録内容を変更する場合は、再度「USER モード登録」で登録してください。

撮影のための機能を設定する

ストロボの発光方法を選択する

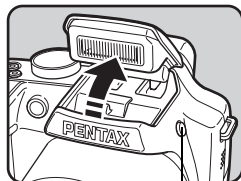
オート	暗いときや逆光のときにストロボが自動的に発光します。顔検出した場合は、自動的にになります
発光禁止	暗いときや逆光のときでも発光しません。ストロボが使えない場所での撮影にご利用ください。
強制発光	明るさにかかわらず、常にストロボを発光します。
オート＋赤目	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを軽減します。自動的にストロボを発光します。本発光の前に予備発光を行います。
強制＋赤目	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを軽減します。常にストロボを発光します。本発光の前に予備発光を行います。
SLOW スローシンクロ	夜の屋内や屋外で、人物と背景を両方とも明るく撮りたいときなどに使います。自動的にストロボを発光します。
SLOW スローシンクロ＋赤目	スローシンクロで発光する前に、赤目軽減のための予備発光を行います。

- 以下のときは、固定になります。
  - 撮影モードが（ステージライト）／（花火）／（動画）のとき
  - ドライブモードが（連続撮影）／（連写L）／（連写M）／（連写H）／（オートブラケット）のとき
  - フォーカスモードが（無限遠）のとき
- （グリーン）モードでは、／のみ選択できます。
- （夜景）／Tv（シャッター優先）／M（マニュアル）モードでは、／／／は選択できません。
- Av（絞り優先）モードでは、／は選択できません。

近距離撮影時にストロボを発光させると、ストロボの配光にムラができる場合があります。極端な近距離になると、レンズ枠の影が写り込む場合がありますのでご注意ください。

3 撮影

1 ⚡ボタンを押す

ストロボがポップアップし、ストロボの充電が始まります。

2 📷モードで十字キー（◀）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でストロボモードを選択する

4 OKボタンを押す

設定が保存され、撮影できる状態になります。

ストロボ撮影の赤目現象について
ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。赤目現象は、人物の周りを明るくしたり、撮影距離を近くして広角側で撮影すると、発生しにくくなります。また、ストロボの発光方法を👁A／👁⚡／SLOW👁⚡にするのも有効です。
それでも赤目になってしまった画像は、赤目補正機能（p.184）を使って修正できます。

ストロボ発光方法の設定を保存する ☞p.144

ストロボを使って撮影する

1 撮影モードを選ぶ

2 ϟ ボタンを押す

ストロボがポップアップし、ストロボの充電が始まります。
充電中は画像モニターにϟ（赤）が点滅表示されます。
充電が終わると、画像モニターにϟが表示されます。（ϟA時は表示が消えます）

3 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った状態で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

4 シャッターボタンを全押しする

ストロボが発光し、撮影されます。

5 ストロボを押し下げ、収納する

ピントの合わせ方を選ぶ（フォーカスモード）

AF 標準	被写体までの距離が40cm以上のときに使用します。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
マクロ	被写体までの距離が約10～50cmのときに使用します。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
1cmマクロ	被写体に1～30cmまで近寄って撮影できます。
▲ 無限遠	遠くにあるものを撮影するときに使用します。ストロボは（発光禁止）になります。
MF マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせます。
AFエリア選択	ピントを合わせたい位置を選びます。

1 📷モードで十字キー（▶）を押す

「フォーカスモード」画面が表示されます。押すたびにフォーカスモードが切り替わります。十字キー（◀）でも切り替えられます。

2 OKボタンを押す

設定が保存され、撮影できる状態になります。

- ●（グリーン）モードでは、AF／🌷のみ選択できます。
- ❋（花火）モードは▲に固定されます。
- 「オートマクロ」（p.118）が☑（オン）のときに🌷を選択して撮影する場合、被写体までの距離が50cmより遠いと、自動的に∞（無限遠）までのピント合わせが行われます。また、ピントが合っていなくても、シャッターを全押しすると撮影できます。

フォーカスモードの設定を保存する ☞p.144

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

1 📷モードで十字キー（▶）を押す

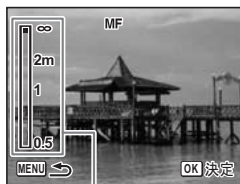
2 十字キー（▶）でMFを選ぶ

3 OKボタンを押す

画面中央部が画像モニターいっぱいに拡大して表示されます。

4 十字キー（▲▼）でピントを合わせる

画像モニターに**MF**バーが表示され、おおよその距離が表示されます。これを目安にピントを合わせます。

▲　遠くにピントが合う
▼　近くにピントが合う

5 OKボタンを押す

フォーカス位置が決定し、撮影できる状態になります。
フォーカス位置を決定させた後、もう一度十字キー(▶）を押すと**MF**バーが表示され、ピントを合わせ直すことができます。

MFバーが表示されている間は、撮影モードやドライブモードを変更できません。

- **MF**モードで1cmにピントを合わせる場合は、ズームバーの1cmの指標にズームしてください。
- **MF**から他のフォーカスモードに切り替えるときは、**MF**バーが表示されている間に十字キー（▶）を押します。

ピントを合わせる位置を選ぶ（AFエリア選択）

25のポイントからピントを合わせたい位置を選ぶことができます。

1 ◘モードで十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▶）で▦を選ぶ

3 OKボタンを押す

中央部分が選択された状態で表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）でピントを合わせたい位置を選ぶ

5 OKボタンを押す

AFエリアが決定し、撮影できる状態になります。

オートフォーカス条件を設定する

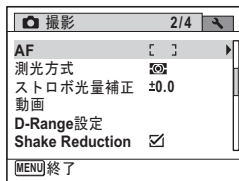
オートフォーカスの範囲や方式を設定します。

1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「AF」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「AF」画面が表示されます。

オートフォーカス範囲を設定する（AFエリア）

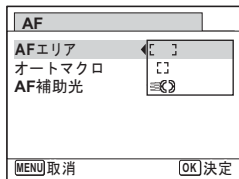
フォーカスモードが**AF**（標準）／🌷（マクロ）／🌷1cm（1cmマクロ）のときのオートフォーカスの対象範囲（AFエリア）を設定します。

[ ] マルチ	画面中央部の広範囲（AFエリア枠内）を測距し、一番近いものにピントを合わせます。
[] スポット	測距する範囲（AFエリア枠）を絞り込み、特定の被写体にピントを合わせやすくします。
自動追尾	シャッターボタンを半押ししている間、被写体の動きを追ってピントを合わせ続けます。

4 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3 撮影

5 十字キー（▲▼）でAFエリアを選ぶ

6 OKボタンを押す

設定が保存されます。

7 MENUボタンを2回押す

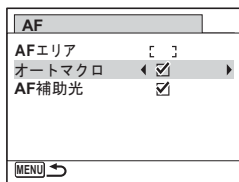
撮影できる状態になります。

メモ
- （フレーム合成）／（動画）モードでは、は選択できません。
- AUTO PICT（オートピクチャー）／（グリーン）／（花火）モードでは、[　]に固定されます。

オートマクロを設定する

被写体までの距離が50cm以下のマクロ域でのピント合わせについて設定します。

4 十字キー（▲▼）で「オートマクロ」を選ぶ

AF
AFエリア
オートマクロ
AF補助光
MENU

5 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑	フォーカスモードがAF／▦に設定されているときに、必要に応じてマクロ域までのピント調整を行います。フォーカスモードが🌷の場合は、1cmマクロ域（1～30cm）のみピントを合わせます。（初期設定）撮影時にオートマクロが作動すると、画像モニターに🌷が表示されます。（p.21）
□	各フォーカス域のみにピントを合わせます。

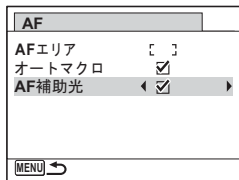
設定が保存されます。

6 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

AF補助光を設定する

補助光を発光させて、被写体が暗くオートフォーカスが正確に作動しない環境でピントを合わせやすくします。セルフタイマーランプ部分が発光します。

4 十字キー（▲▼）で「AF補助光」を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑	必要に応じてAF補助光を発光する（初期設定）
□	AF補助光を発光しない

設定が保存されます。

6 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

注意

- AF 補助光を直接見ても安全上の問題はありませんが、多少まぶしく感じます。発光部を至近距離から直接のぞきこまないでください。
- 次の場合、AF補助光は発光しません。
  - 撮影モードが（動画）のとき
  - フォーカスモードが▲／MFのとき

画像仕上を設定する

静止画の仕上がりイメージを設定します。
鮮やか（初期設定）／ナチュラル／モノトーンの3種類から選択します。

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「画像仕上」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で仕上がりイメージを選ぶ

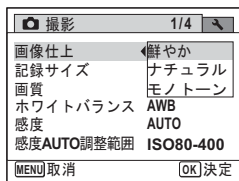
撮影	1/4
画像仕上	鮮やか / ナチュラル / モノトーン
記録サイズ	
画質	
ホワイトバランス	AWB
感度	AUTO
感度AUTO調整範囲	ISO80-400
MENU 取消	OK 決定

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

メモ

「モノトーン」を選択すると、「撮影」メニューの「彩度」の代わりに色の感じを設定する「調色」が表示されます。

3 撮影

記録サイズを選択する

静止画像の記録サイズ（横×縦の画素数）を9種類から選択できます。記録サイズが大きいほど、プリントしたときに、より鮮明な画像が得られます。ただし、写真の美しさ、鮮明さは画質や露出制御、使用するプリンターの解像度なども関係するので、むやみに大きくする必要はありません。はがきサイズにプリントする場合は、3M程度が目安です。記録サイズが大きくなるほど、画像が大きくなりファイルサイズも増えます。
次の表を参考に、用途に応じて適切な記録サイズを設定してください。
（初期設定：12M）

記録サイズ		用途
12M	4000×3000	フォトプリントなどの高画質印刷、A4判以上の大判プリント、画像編集などの加工用など
10.7M 3:2	4000×2672	
9M 16:9	4000×2256	ハイビジョンテレビと同じアスペクト比による、自然な広がり感の表現など
9M 1:1	2992×2992	
7M	3072×2304	
5M	2592×1944	
3M	2048×1536	はがきサイズプリントなど
1024	1024× 768	
640	640× 480	ホームページ掲載、電子メール添付など

（↑ 鮮明、きれい）

9M 16:9を選ぶと、画像の横縦比が16：9になり、撮影／再生時の画像モニターの表示は右のようになります。

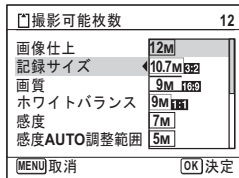
1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「記録サイズ」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で記録サイズを選ぶ

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

- （グリーン）モードは、12M固定になります。
- （ベストフレーミング）／（フレーム合成）モードで撮影した画像は、3Mに固定されます。
- （高感度）／ WIDE （デジタルワイド）モードで撮影した画像は、5Mに固定されます（2枚目の撮影をせずにデジタルワイドを終了した場合は3Mになります）。

3 撮影

静止画の画質を選択する

用途に合わせて、静止画の画質を設定します。
★が多いほど画像はきれいですが、画像データのサイズも増えます。
データのサイズは、選んだ記録サイズによっても異なります（p.121）。

★★★	スーパーファイン	圧縮率が最も低く、写真用のプリントなどに適しています。
★★	ファイン	圧縮率が標準で、パソコンの画面で画像を見るときに適しています。（初期設定）
★	エコノミー	圧縮率が最も高く、電子メールへの添付やホームページ作成用に適しています。

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「画質」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で画質を選ぶ

上部の撮影可能枚数に、選んだ画質で撮影できる枚数が表示されます。

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影ができる状態になります。

メモ

（グリーン）モードは、★★固定になります。

ホワイトバランスを調整する

撮影時の光の状態に応じて、画像を自然な色合いに調整します。

AWB	オート	カメラが自動的に調整します。(初期設定)
☼	太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。
	日陰	日陰で撮影するときに設定します。
	白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。
D	昼光色蛍光灯	それぞれの種類の蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。
N	昼白色蛍光灯	
W	白色蛍光灯	
	マニュアル	手動で調整して撮影するときに設定します。

- **AWB**に設定して撮影した画像がお好みの色合いでない場合には、**AWB**以外に設定してください。
- 撮影モードによっては、ホワイトバランスが変更できない場合があります。詳しくは「各撮影モードの機能対応」(p.238)をご覧ください。

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー(▲▼)で「ホワイトバランス」を選ぶ

3 十字キー(▶)を押す

「ホワイトバランス」画面が表示されます。

4 十字キー(▲▼)で設定を選ぶ

設定を切り替えるたびに、選んだ色合いで画像モニターが表示されます。
蛍光灯を選択する場合は、蛍光灯が選択されている状態で、十字キー(▶)を押してから十字キー(▲▼)で選びます。

3 撮影

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

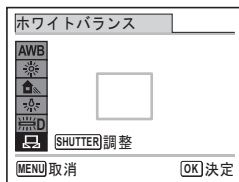
撮影できる状態になります。
マニュアルで設定する場合は、次をご覧ください。

ホワイトバランスの設定を保存する ☞p.144

マニュアルで設定する

あらかじめ、白い紙などホワイトバランスの調整に用いる素材を用意しておきます。

1 「ホワイトバランス」画面で十字キー（▲▼）を押し、⊒を選ぶ

2 調整に用いる素材にレンズを向け、画像モニター中央に表示されている枠の中いっぱいに素材が入るよう、カメラを構える

3 シャッターボタンを全押しする

ホワイトバランスが自動的に調整されます。

4 OKボタンを押す

設定が保存され、「◘撮影」メニューに戻ります。

5 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

感度を設定する

撮影する場所の明るさに応じて、感度を設定することができます。

AUTO	設定をカメラにまかせます。
80	↑ 感度が低い（数字が小さい）ほど、ノイズの少ない画像が得られます。暗い場所ではシャッタースピードが遅くなります。
100	
200	
400	
800	
1600	
3200	↓ 感度が高い（数字が大きい）ほど、暗い場所でもシャッタースピードを速くできます。画像にはノイズが増えます。
6400	

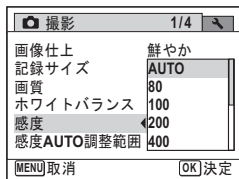
1 ◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「感度」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で感度を選ぶ

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

- 感度を3200／6400に設定すると、記録サイズは5M（2592×1944）に固定されます。
- 記録サイズの10.7M 3:2（4000×2672）／9M 16:9（4000×2256）／9M 1:1（2992×2992）を選択したときは、3200／6400は選択できません。
- （高感度）／（グリーン）／（動画）モードとドライブモードの（連写L）／（連写M）／（連写H）に設定されているときは、「AUTO」固定になります。
- （花火）モードに設定されているときは、最低感度に固定されます。
- **M**（マニュアル）モードでは「AUTO」は選択できません。
- D-Range設定の「ハイライト補正」が☑（オン）の場合は、感度80／100の代わりに160が表示されます。

感度の設定を保存する ☞p.144

感度AUTO調整範囲を設定する

感度で「AUTO」を選択した場合の感度の範囲設定を行います。
80-100／80-200／80-400／80-800／80-1600の5種類から選択できます。

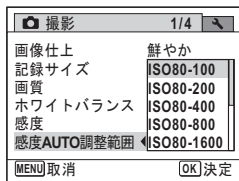
1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「感度AUTO調整範囲」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で調整範囲を選ぶ

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

D-Range設定の「ハイライト補正」が☑（オン）の場合は、160-200／160-400／160-800／160-1600の4種類から選択します。

測光方式を設定する

画面のどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。

分割測光	画面内を256分割して明るさを測り、露出を決めます。
中央重点測光	画面の中央に重点を置きつつ、画面全体の明るさを均等に測って露出を決めます。
スポット測光	画面の中央だけの明るさを測り、露出を決めます。

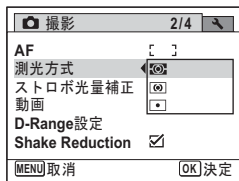
1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「測光方式」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で測光方式を選ぶ

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

- シャッターボタンを半押ししたときに測光が行われ、露出が決定されます。
- 画面の中央にない被写体を [•] を利用して適正露出で撮影したいときは、いったん被写体を画面中央に置き、シャッターボタンを半押しして露出を固定してからカメラを動かし、撮りたい構図を決めます。
- 撮影モードによっては、測光方式が変更できない場合があります。詳しくは「各撮影モードの機能対応」(p.238) をご覧ください。

測光方式の設定を保存する ☞p.144

ストロボ光量を補正する

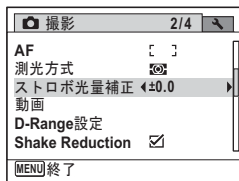
ストロボの光量を調整します。

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「ストロボ光量補正」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で補正量を選ぶ

明るくする場合は+側に、暗くする場合は–側に設定します。
補正量は、–2.0～+2.0EVの範囲を1/3EV単位で選択できます。

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

明るさを補正する（D-Range設定）

表現できる階調の幅を広げて白とび・黒つぶれを防ぎます。明るすぎる部分を補正して白とびを防ぐ「ハイライト補正」と、暗すぎる部分を補正して黒つぶれを防ぐ「シャドー補正」があります。

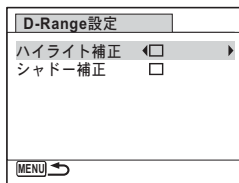
1 ◘モードでMENUボタンを押す

「◘ 撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「D-Range 設定」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「D-Range設定」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）でハイライト補正／シャドー補正を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

6 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。
画像モニターにはD-Range設定のアイコンが表示されます。

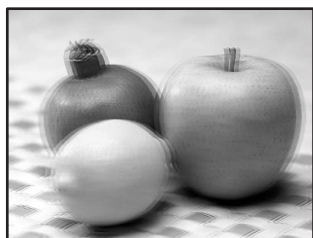
アイコン	説明
DH	「ハイライト補正」が☑に設定されているとき
DS	「シャドー補正」が☑に設定されているとき
D	「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方が☑に設定されているとき

「ハイライト補正」を☑に設定すると、最低感度は125になります。

手ぶれ補正機能を使って撮影する

手ぶれ補正機能（Shake Reduction）を使うと手ぶれを防いで撮影することができます。
手ぶれ補正機能とは、シャッターボタンを押す瞬間に起こりやすい手ぶれを補正しながら撮影できる機能です。手ぶれしやすいシーンでの撮影に効果的です。
手ぶれ補正機能は、次のようなシーンでの撮影に適しています。

- 室内、夕方、曇り、日陰など薄暗い環境で撮影するとき
- 望遠で撮影するとき

手ぶれした写真

手ぶれ補正された写真

- 手ぶれ補正機能は、被写体が動くことによるぶれには効果がありません。動いている被写体を撮影するときには、シャッター速度を速くして撮影してください。
- 近距離での撮影では、手ぶれ補正しきれないことがありますので、三脚などを利用することをお勧めします。
- 流し撮りや夜景撮影などシャッター速度が遅くなる条件では、手ぶれ補正の効果が十分に現れないことがあります。その場合は、三脚などを利用して撮影することをお勧めします。

手ぶれ補正を設定する

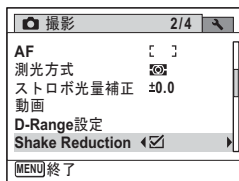
撮影時の手ぶれを補正することができます。Shake Reductionを☑（オン）に設定すると、撮影した画像の手ぶれをカメラが自動的に補正します。

1 ◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「Shake Reduction」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　自動で手ぶれ補正する（初期設定）
□　手ぶれ補正しない

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

まばたき検出を設定する

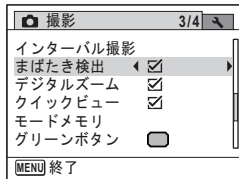
顔検出機能が働いたときに、まばたき検出を行うかどうかを設定します。

1 ◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「まばたき検出」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　まばたき検出する（初期設定）
□　まばたき検出しない

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

まばたき検出 ☞p.70

クイックビューを設定する

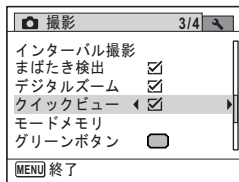
撮影直後に画像を表示するクイックビューを表示するかしないかを設定します。

1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「クイックビュー」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　クイックビューを1秒間表示する（初期設定）
□　クイックビューを表示しない

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

クイックビュー ☞p.70

撮影時にまばたき検出が行われた場合は、クイックビュー時に「目を閉じていました」と3秒間表示されます。

シャープネスを設定する

画像の輪郭をシャープまたはソフトにします。

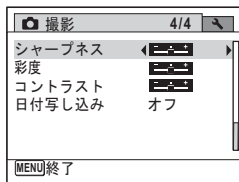
1 ◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「シャープネス」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）でシャープネスの強さを切り替える

- ソフト
- 標準
- シャープ

◘ 撮影 4/4
シャープネス
彩度
コントラスト
日付写し込み オフ
MENU終了

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

彩度／調色を設定する

色の鮮やかさ（彩度）または色の感じ（調色）を設定します。
「◘撮影」メニューの「画像仕上」の設定により、表示される項目が切り替わります。

画像仕上の設定	表示される項目
鮮やか／ナチュラル	彩度
モノトーン	調色

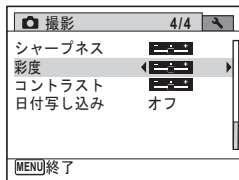
1 ◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「彩度（調色）」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で切り替える

	彩度	調色
	低	青
	標準	白黒
	高	セピア

撮影 4/4
シャープネス
彩度
コントラスト
日付写し込み オフ
MENU終了

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

コントラストを設定する

画像の明暗差の度合いを設定します。

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

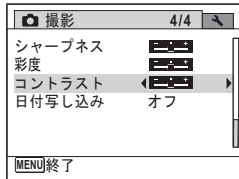
2 十字キー（▲▼）で「コントラスト」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）でコントラストの高さを切り替える

低
標準
高

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

3 撮影

日付写し込みを設定する

静止画撮影時に日付と時刻を写し込むかどうかを設定します。

1 Aモードで MENU ボタンを押す

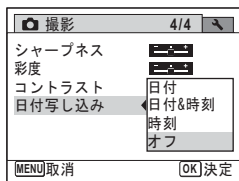
「A撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「日付写し込み」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で写し込む内容を選ぶ

日付／日付＆時刻／時刻／オフから選択します。

5 OK ボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENU ボタンを押す

撮影できる状態になります。

注意

- 「日付写し込み」で画像に写し込んだ日付／時刻は、あとから消去できません。
- 日付／時刻を写し込んだ画像を印刷するときに、画像編集ソフトなどで日付を印刷するように設定すると、日付／時刻が重なって印刷されます。

メモ

- 「日付写し込み」を設定すると、Aモードのときに画像モニターに DATE と表示されます（p.21）。
- 日付／時刻は、「日時を設定する」（p.47）で設定した表示スタイルで写し込まれます。

グリーンボタンを設定する

●ボタンに●（グリーン）モード（p.72）／Fn設定のいずれかの機能を登録できます。●ボタンを押すだけで、登録されている機能に切り替わります。

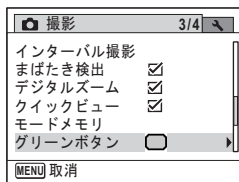
グリーンモード	●ボタンを押すと、●（グリーン）モードで撮影できます。（初期設定）
Fn設定	●ボタンを押すと、十字キー（▲▼◀▶）に割り当てた機能が利用できます。よく使う機能を十字キーに割り当てておくと、撮影時に簡単に設定が変更できます。 **MENU**ボタンを押す前の撮影モードによって、設定できる機能が異なります。 • 静止画撮影モードで **MENU** ボタンを押したとき：静止画撮影時の機能を割り当て • 動画撮影モードで **MENU** ボタンを押したとき：動画撮影時の機能を割り当て

Fn設定の初期設定

十字キー	静止画撮影時	動画撮影時
▲	記録サイズ	Movie SR
▼	画質	記録サイズ
◀	ホワイトバランス	ホワイトバランス
▶	感度	AFエリア

1 ◘モードでMENUボタンを押す

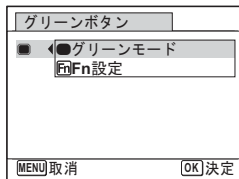
「◘撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「グリーンボタン」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

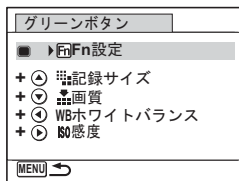
「グリーンボタン」画面が表示されます。

3 撮影

4 十字キー（▲▼）で登録する機能を選ぶ

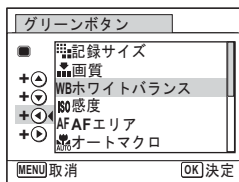
「グリーンモード」を選択したときは、手順9に進みます。

5 OKボタンを押す

Fn設定の画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼）で登録するキーを選ぶ

7 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

8 十字キー（▲▼）で登録する機能を選ぶ

以下の機能が登録できます。

静止画撮影時機能	記録サイズ／画質／ホワイトバランス／感度／AFエリア／オートマクロ／測光方式／ハイライト補正／シャドー補正／Shake Reduction／シャープネス／彩度（調色）*1／コントラスト
動画撮影時機能	記録サイズ／Movie SR／ホワイトバランス／AFエリア／シャープネス／彩度（調色）*／コントラスト

*1「📷 撮影」メニューの「画像仕上」の設定が「鮮やか」「ナチュラル」のときは「彩度」、「モノトーン」のときは「調色」が表示されます。

3
撮影

9 OKボタンを押す

設定が保存されます。
他のキーも登録する場合は、手順6～9を繰り返します。

10 MENUボタンを2回押す

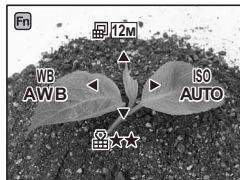
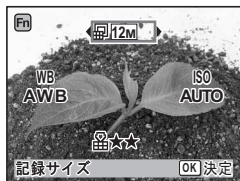
撮影できる状態になります。

各キーに登録できる機能は、ひとつだけです。

Fn設定の使いかた

1 ◘モードで●ボタンを押す

Fn画面にFn設定で登録した機能が表示されます。
●ボタンを押す前の状態が静止画撮影モードか動画撮影モードかによって、表示される機能が異なります。

2 十字キー（▲▼◀▶）で変更したい機能を選択する

3 十字キー（▲▼）または十字キー（◀▶）で設定を変更する

4 OKボタンを押す

設定が保存され、撮影できる状態になります。

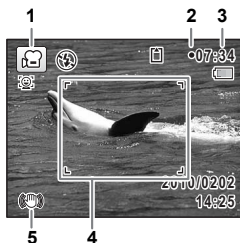
動画を撮影する

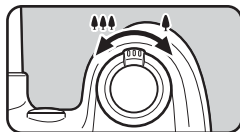
動画を撮影します。音声も同時に記録されます。

1 ◘モードでモードダイヤルを🎥（動画）に合わせる

🎥モードが選択され、撮影できる状態になります。

画像モニターに次の情報が表示されます。

1 動画モードアイコン
2 録画中アイコン（録画中に点滅）
3 撮影可能時間
4 フォーカスフレーム（録画中は表示されません）
5 手ぶれ補正アイコン

ズームレバーを左右に回すと、被写体の写る範囲が変わります。

右（♠）　被写体を拡大して写す
左（♠♠♠）　被写体を広い範囲で写す

2 シャッターボタンを全押しする

録画が開始されます。
録画は連続で内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量いっぱい、または最大で2GBまで可能です。

3 シャッターボタンを全押しする

録画が終了します。

動画を再生する ☞p.149

- ストロボは発光しません。
- フォーカスモードは、撮影開始前に変更することができます。
- フォーカスモードを**MF**（マニュアルフォーカス）に設定している場合は、撮影開始前にピントを調整することができます。
- 光学ズームとデジタルズームは、撮影開始前に使うことができます。デジタルズームは撮影中にも使うことができます。
- 動画撮影中は、**DISP** ボタンで画像モニターの表示を切り替えることはできません。
- 撮影モードを にすると、顔検出機能がオンになります。動画の撮影を開始する前に ボタンを押して、スマイルキャッチ機能を選択するか、または顔検出機能をオフにできます (p.70)。スマイルキャッチ機能が選択されている場合は、笑顔を検出すると自動的に動画の撮影が開始されます。ただし検出した顔の条件によっては「スマイルキャッチ」機能が働かず、自動的に動画の撮影が開始されないことがあります。その場合は、シャッターボタンを押すと撮影が開始されます。

シャッターボタンを押し続けて撮影する

シャッターボタンを1秒以上押し続けると、シャッターボタンを押し続けている間だけ動画が撮影されます。シャッターボタンから指を離すと撮影が終了します。

動画の記録サイズとフレームレートを選択する

動画の記録サイズとフレームレートを選択できます。
「記録サイズ」が大きいほど鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが増えます。また、「フレームレート」が大きい方が滑らかな動きになりますが、ファイルサイズが増えます。

設定	記録サイズ	フレームレート	用途
1280 30	1280×720	30fps	ハイビジョンサイズ（16：9）で記録されます。動きが滑らかに記録されます。（初期設定）
1280 15	1280×720	15fps	ハイビジョンサイズ（16：9）で記録されます。画像の容量が小さいため、長く記録できます。
640 30	640×480	30fps	テレビやパソコンの画面で見るときに適しています。動きが滑らかに記録されます。
640 15	640×480	15fps	テレビやパソコンの画面で見るときに適しています。画像の容量が小さいため、長く記録できます。
320 30	320×240	30fps	電子メール添付やホームページ掲載に適しています。動きが滑らかに記録されます。
320 15	320×240	15fps	電子メール添付やホームページ掲載に適しています。画像の容量が小さいため、長く記録できます。

※ フレームレート（fps）は1秒あたりの画面数を表します。

1　◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）で「動画」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

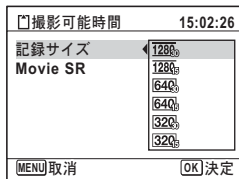
「動画」画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼）で「記録サイズ」を選ぶ

5　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

6 十字キー（▲▼）で記録サイズとフレームレートを選ぶ

撮影可能時間 15:02:26
記録サイズ 1280 30
Movie SR 1280 15
640 30
640 15
320 30
320 15
MENU 取消 OK 決定

7 OKボタンを押す

設定が保存されます。

8 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

動画の手ぶれ補正を設定する（Movie SR）

モードでは、Movie SR（動画手ぶれ補正）で動画撮影中の手ぶれを補正することができます。

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「動画」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「動画」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「Movie SR」を選ぶ

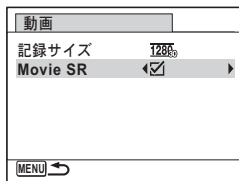
5 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　手ぶれを補正する（初期設定）
□　手ぶれを補正しない

設定が保存されます。

6 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

3 撮影

設定を保存する（モードメモリ）

カメラの電源を切っても、カメラの設定を記憶しておく機能を「モードメモリ」と呼びます。
撮影のための設定には、モードメモリが常にオンのもの（電源を切っても常に設定を記憶するもの）と、モードメモリのオン／オフが選べるもの（電源を切ったときに設定を記憶するかどうかを選べるもの）があります。モードメモリのオン／オフが選べる項目を表に示します（ここに示した項目以外は、電源を切っても常に設定が保存されます）。
☑（オン）を選ぶと、電源を切る直前の設定状態が保存されます。□（オフ）を選ぶと、電源を切ったときにその項目の設定が工場出荷時の状態に戻ります。表では、モードメモリの初期設定がオンかオフかも示しています。

項目	内容	初期設定	参照
顔検出モード	顔検出ボタンで設定した顔検出モード	□	p.70
ストロボモード	十字キー（◀）で設定したストロボモード	☑	p.112
ドライブモード	十字キー（▲）で設定したドライブモード	□	p.92～p.97
フォーカスモード	十字キー（▶）で設定したフォーカスモード	□	p.114
ズーム位置	ズームレバーで設定したズーム位置	□	p.74
MF位置	十字キー（▲▼）で設定したマニュアルフォーカスでのピントの合う距離	□	p.115
ホワイトバランス	「撮影」メニューの「ホワイトバランス」の設定	□	p.124
感度	「撮影」メニューの「感度」で設定した値	□	p.126
露出補正	「撮影」メニューの「露出補正」で設定した値	□	p.76
測光方式	「撮影」メニューの「測光方式」の設定	□	p.128
デジタルズーム	「撮影」メニューの「デジタルズーム」の設定	☑	p.76
DISPLAY	DISPボタンで選択した画像モニターの情報表示状態	□	p.20
ファイルNo.	オンにすると、SDメモリーカードを入れ替えた場合でも連続したファイル番号を使用	☑	—

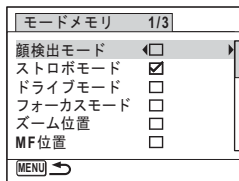
1 ◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「モードメモリ」を選ぶ

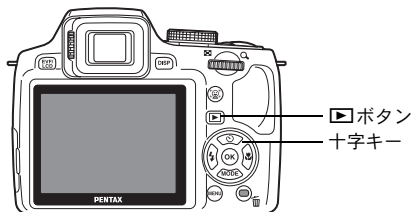
3 十字キー（▶）を押す

「モードメモリ」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

6 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

3 撮影

4 画像の再生と消去

再生する

静止画を再生する

1 撮影後に▶ボタンを押す

▶モードになり、撮影した画像が画像モニターに表示されます（1画面表示）。

ファイル番号

2 十字キー（◀▶）を押す

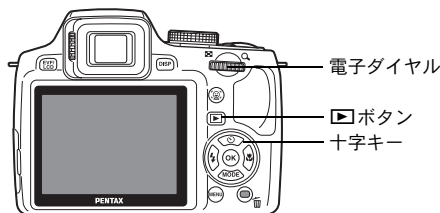
前後の画像が表示されます。

表示した画像を消去する

画像表示中に🗑ボタンを押すと、表示中の画像を消去する画面が表示されます。十字キー（▲）を押して「消去」を選び**OK**ボタンを押すと、表示中の画像を消去できます。

その他の消去のしかた ☞p.161

動画を再生する

動画を再生します。動画再生時には、音声も同時に再生されます。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、再生したい動画を選ぶ

2 十字キー（▲）を押す

再生が開始します。

再生中にできる操作

電子ダイヤル 右（Q）	音量を大きくする
電子ダイヤル 左（▦）	音量を小さくする
十字キー（▲）	一時停止
十字キー（▶）長押し	押している間、早送り再生
十字キー（◀）	逆方向に再生
十字キー（◀）長押し	押している間、早戻し再生

一時停止中にできる操作

十字キー（▲）	再生を再開
十字キー（▶）	コマ送り
十字キー（◀）	コマ戻し

3 十字キー（▼）を押す

再生が停止します。

複数の画像を表示する

4画面表示／9画面表示

複数の画像を同時に4枚または9枚ずつ画像モニターに表示します。

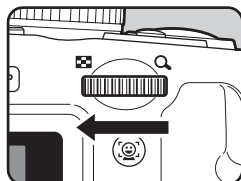
1 ▶ モードで電子ダイヤルを左（⊞）に回す

4画面表示になり、画像が4コマずつ1ページに表示されます。もう一度電子ダイヤルを左（⊞）に回すと、9画面表示になります。

画像は4コマまたは9コマずつ1ページに表示され、ページ単位で表示される画像が切り替わります。
十字キー（▲▼◀▶）で選択枠が移動します。1ページに表示されていない画像がある場合は、①の画像を選択しているときに十字キー（▲◀）を押すと前のページが表示され、②の画像を選択しているときに十字キー（▼▶）を押すと次のページが表示されます。
◆はその前後の画面が、別のフォルダーに格納されていることを示しています。

4画面表示

選択枠

◫選択消去　100-0010

フォルダー区切りアイコン

9画面表示

選択枠

フォルダー区切りアイコン

画像に表示される記号の意味は次のとおりです。

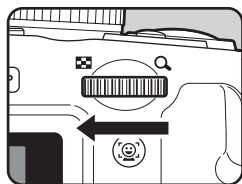
（無印）	音声なしの静止画
🎙	音声付きの静止画
🎥	動画（1コマ目の画像を表示）

OK ボタンを押すと、選択した画像の1画面表示に切り替わります。
▶ ボタンを押すと、📷 モードに切り替わります。

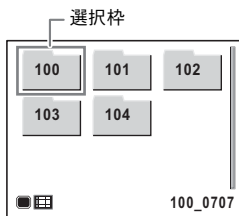
フォルダー表示／カレンダー表示

9画面表示で電子ダイヤルを左（⊞）に回すと、フォルダー表示またはカレンダー表示に切り替わります。

1 ▶ モードで電子ダイヤルを左（⊞）に3回回す

画面がフォルダー表示またはカレンダー表示に切り替わります。

フォルダー表示

画像が記録されているフォルダーが一覧表示されます。

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動
電子ダイヤル右（Q）／**OK**ボタン	フォルダー内の画像を9画面表示
MENUボタン	9画面表示に戻る
●ボタン	カレンダー表示に切り替え

カレンダー表示

画像が日付ごとにカレンダー形式で表示されます。
カレンダーには、各日付で撮影された最初の画像が表示されます。
その日付で最初に記録されているのがボイスメモ付きの静止画の場合は、🎤が表示されます。

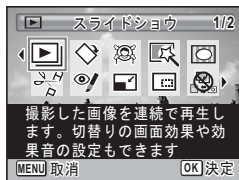
十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動
電子ダイヤル右（Q）	その日付で撮影した画像を9画面表示
OKボタン	その日付で最初に撮影した画像を1画面表示
MENUボタン	9画面表示に戻る
●ボタン	フォルダー表示に切り替え

再生機能を使う

1 ▶モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でアイコンを選ぶ

選択した機能の説明が下に表示されます。

3 OK ボタンを押す

再生機能が呼び出されます。

4
画像の再生と消去

100-0038

2010/02/02

14:25

編集

OK

MENU

スライドショウ 1/2

撮影した画像を連続で再生します。切替りの画面効果や効果音の設定もできます

MENU 取消　OK 決定

画像回転 1/2

撮影した画像を回転させます
縦位置写真をＴＶ等で見る際に便利です

MENU 取消　OK 決定

SHUTTER
ボタン半押し

OK

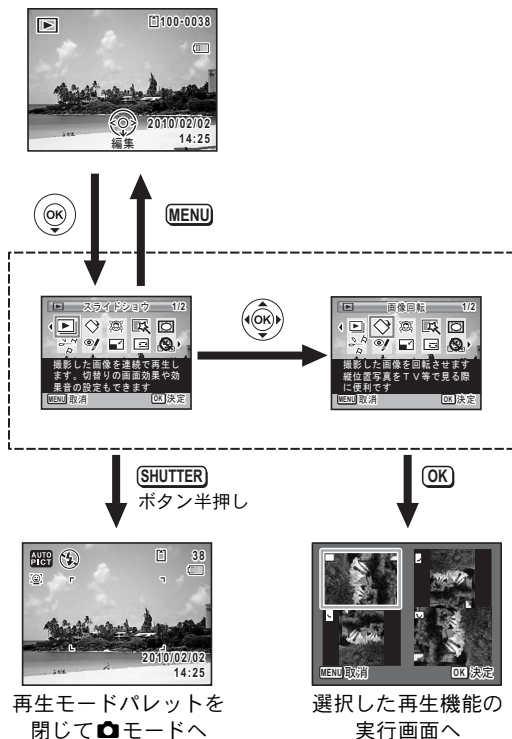
AUTO PICT　38

2010/02/02

14:25

MENU 取消　OK 決定

再生モードパレットを
閉じて📷モードへ

選択した再生機能の
実行画面へ

選択した機能の説明を表示しないようにすることができます。（p.214）

再生モードパレット一覧

再生モード		内容	参照
スライドショウ		撮影した画像を連続で再生します。切り替わりの画面効果や効果音の設定もできます。	p.155
画像回転		撮影した画像を回転させます。縦位置写真をTVなどで見る際に便利です。	p.157
小顔フィルター		検出した顔が小さくなるように画像を加工します。	p.178
デジタルフィルター		撮影した画像にカラーフィルターやソフトフィルターなどをかけて仕上げます。	p.180
フレーム合成		撮影した画像にフレームを付けて保存します。上書きまたは新規保存が選べます。	p.185
動画編集	静止画保存	動画の1コマを静止画として保存します。	p.188
	動画分割	1つの動画を2つに分割します。	
赤目補正		赤目になった画像を修正します。元画像によっては正しく補正できない場合があります。	p.184
リサイズ		撮影した画像の記録サイズと画質を変更して、ファイルサイズを小さくします。	p.176
トリミング		画像の不要な部分を削除して好みの大きさに変更します。新規保存されます。	p.177
画像/音声コピー		内蔵メモリーとSDメモリーカード間で画像や音声のファイルをコピーします。	p.190
ボイスメモ		撮影した画像に音声を付けます。カードの空き容量分の録音ができます。	p.196
プロテクト		消したくない画像や音声を保護します。ただしフォーマットを行うと、消去されます。	p.166
DPOF		撮影した画像の印刷設定をします。お店でプリントする際に便利です。	p.192
削除画像復活		誤って削除してしまった画像および音声をもと通りに復元します。	p.165
起動画面設定		撮影した画像をカメラの起動時に表示するよう設定します。	p.214

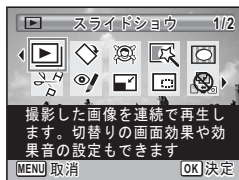
スライドショウで連続再生する

保存されている画像を連続して再生します。

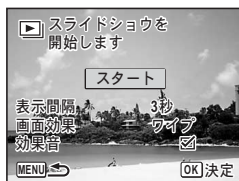
1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、スライドショウを開始する画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で▶（スライドショウ）を選ぶ

4 OKボタンを押す

スライドショウの設定画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「スタート」を選ぶ

6 OKボタンを押す

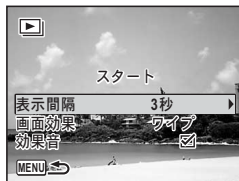
スライドショウが始まります。
スライドショウの途中で**OK**ボタンを押すと、一時停止します。もう一度**OK**ボタンを押すと再開します。

7 OKボタン以外のどれかのボタンを押す

スライドショウが終了します。

スライドショウの条件を設定する

再生時の表示間隔と画像切り替え時の画面効果・効果音を設定します。

1　p.155 の手順 5 の画面で十字キー（▲▼）を押し、「表示間隔」を選ぶ

2　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3　十字キー（▲▼）で表示間隔を選び、OK ボタンを押す

3秒／5秒／10秒／20秒／30秒から選択します。

4　十字キー (▲▼)で「画面効果」を選ぶ

5　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

6　十字キー (▲▼)で画面効果を選び、OK ボタンを押す

ワイプ	左から右へ画面が流れる効果
チェッカー	小さな四角のモザイク状のブロックで画面が切り替わる効果
フェード	現在の画像が徐々に消え、そこに次の画像が浮かび上がってくる効果
オフ	切り替え効果なし

7　十字キー（▲▼）で「効果音」を選ぶ

8　十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

画面効果を「オフ」以外に設定すると、画面が切り替わるときに流れる音のオン／オフを切り替えることができます。

4
画像の再生と消去

9 十字キー（▲▼）で「スタート」を選び、OKボタンを押す

設定した表示間隔と画面効果でスライドショウが始まります。

- スライドショウは、**OK**ボタン以外のどれかのボタンを押して終了するまで何度も繰り返します。
- 動画や音声付き画像は表示間隔の設定にかかわらず、すべて再生されてから次の画像に移ります。ただし、動画の再生中や音声付き画像の音声再生中に十字キー（▶）を押すと、すぐに次の画像へ移ります。
- スライドショウの再生にパノラマ画像が含まれる場合は、パノラマ画像は表示間隔や画面効果の設定にかかわらず、4秒間かけて左から右へスライド表示されます。

AV機器と接続する ☞p.169

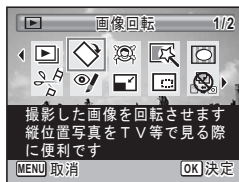
画像を回転表示する

1 撮影後に▶ボタンを押す

撮影した画像が画像モニターに表示されます。

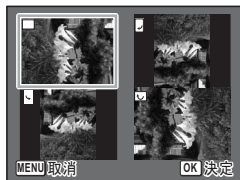
2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で◇（画像回転）を選ぶ

4 OKボタンを押す

回転方向を4種類（0／右90／左90／180°）から選ぶ画面が表示されます。

5　十字キー（▲▼◀▶）で回転方向を選び、OKボタンを押す

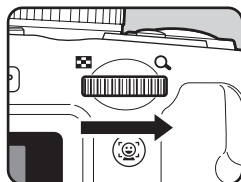
回転した状態で画像が保存されます。

- ▮■▮（パノラマ）モードで撮影された画像や動画は、回転表示できません。
- プロテクトされた画像は、回転表示はできますが、回転された状態は保存されません。

再生画像を拡大する

画像を再生するときに、最大10倍まで拡大表示できます。

1　▶モードで十字キー（◀▶）を押し、拡大表示したい画像を選ぶ

2　電子ダイヤルを右（Q）に回す

画像が大きく（1.1～10倍）表示されます。電子ダイヤルを右（Q）に回し続けると連続的に大きさが変わります。

画像のどの部分を拡大しているかを画面左下のガイド表示の＋マークで確認できます。

ガイド表示

拡大表示中にできる操作

十字キー（▲▼◀▶）	拡大位置を移動する
電子ダイヤル右（Q）	画像を拡大する（最大10倍まで）
電子ダイヤル左（▦）	画像を縮小する（最小1.1倍まで）

3 OKボタンを押す

1画面表示に戻ります。

- 「クイック拡大」（p.213）を☑（オン）に設定していると、電子ダイヤルを右（🔍）に1回回すだけで10倍に拡大します。
- 動画は拡大表示できません。

被写体の顔を自動的に拡大する（顔アップ再生）

撮影時に顔検出機能が働いて被写体の顔を検出した画像を再生する場合は、☺ボタンを押すだけで、被写体の顔をクローズアップした再生（顔アップ再生）ができます。

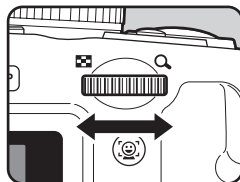
1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、拡大表示したい画像を選ぶ

2 画像に☺アイコンが表示されているのを確認し、☺ボタンを押す

メインの顔を中心に、顔アップ再生されます。

撮影時に複数の顔を検出した場合は、☺ボタンを押すたびに、それぞれの被写体の顔を中心にした顔アップ再生が行われます。

顔アップ再生中にできる操作

電子ダイヤル右（🔍）	顔アップ再生されている被写体を中心に、現在の拡大率と同じかやや大きい倍率から拡大表示
電子ダイヤル左（⊞）	顔アップ再生されている被写体を中心に、現在の拡大率と同じかやや小さい倍率から縮小表示

3 OKボタンを押す

1画面表示に戻ります。

顔アップ再生時の拡大倍率は、撮影時に検出された顔の大きさなどの条件によって異なります。

消去する

失敗したり、不要になった画像や音声を消去します。

うっかり！必要な画像や音声を消してしまったら・・・
X90には、このカメラで撮影した画像、または録音した音声を復活させる機能があります（p.165）。
画像や音声を消去した後、SDメモリーカードを取り出さない限り電源を切っても復活させることが可能です。消去後に撮影／画像プロテクト／DPOF設定／リサイズ／トリミングなどのデータ書き込み操作やフォーマットをすると、消去した画像や音声は復活できません。

1画像ずつ消去する

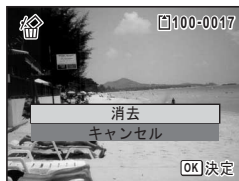
1画像ずつ消去します。

プロテクトされている画像は消去できません（p.166）。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、消去したい画像を選ぶ

2 🗑ボタンを押す

消去を確認する画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「消去」を選ぶ

4 OKボタンを押す

消去されます。

消去した画像を復活する ☞p.165

音声を消去する

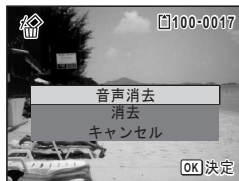
音声（ボイスメモ）付きの画像（p.196）の場合は、画像は消去せずに音声のみを消去することができます。

1 **▶モードで十字キー（◀▶）を押し、音声付きの画像を選ぶ**

音声付きの画像は♪が表示されています。

2 **🗑ボタンを押す**

消去を確認する画面が表示されます。

3 **十字キー（▲▼）で「音声消去」を選ぶ**

4 **OKボタンを押す**

音声が消去されます。

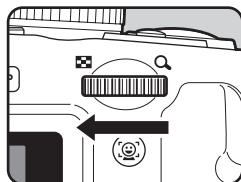
- 画像と音声の両方を消去する場合は、手順3で「消去」を選びます。
- 動画の音声だけを消去することはできません。

選択して消去する

4画面表示／9画面表示で複数の画像を選択し、まとめて削除します。

プロテクトされている画像は消去できません（p.166）。

1 **▶ モードで電子ダイヤルを左（⊞）に1回または2回回す**

4画面表示または9画面表示になります。

2 🗑ボタンを押す

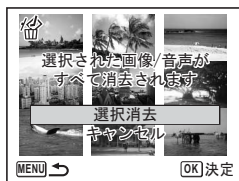
画像に□が表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で削除する画像に移動し、OKボタンを押す

画像が選択され、☑が表示されます。
電子ダイヤルを右（Q）に回すと、選択した画像が1画面表示され、削除したい画像かどうかを確認できます（左に回すと、4画面表示／9画面表示に戻ります）。ただし、プロテクトされた画像は1画面表示できません。

4 🗑ボタンを押す

消去を確認する画面が表示されます。

5 十字キー（▲）で「選択消去」を選ぶ

6 OKボタンを押す

選択した画像が消去されます。

4
画像の再生と消去

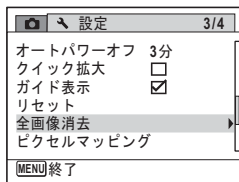
まとめて消去する

保存されているすべての画像を消去します。

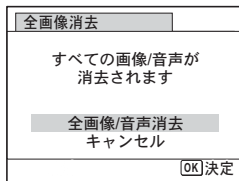
プロテクトされている画像は消去できません（p.166）。

1 **▶モードでMENUボタンを押す**

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードで**MENU**ボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 **十字キー（▲▼）で「全画像消去」を選ぶ**

3 **十字キー（▶）を押す**

「全画像消去」画面が表示されます。

4 **十字キー（▲）で「全画像/音声消去」を選ぶ**

5 **OKボタンを押す**

すべての画像が消去されます。

消去した画像を復活する

このカメラで撮影した画像や録音した音声であれば、いったん消去してしまっても元に戻すことができます。

注意

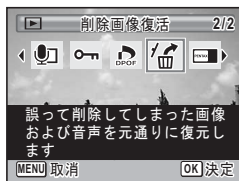
画像を消去後､以下の操作を行うと消去した画像／音声の復活ができなくなります。

- 撮影
- プロテクト／DPOF設定／リサイズ／トリミング
- フォーマット
- SDメモリーカードを取り出す

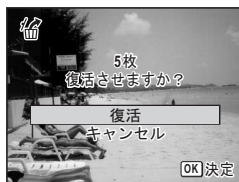
1 消去を実行した後に十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で （削除画像復活）を選ぶ

が表示されているときは、復活できる画像がありません。

3 OKボタンを押す

復活可能な画像の枚数が表示されます。
を選択して**OK**ボタンを押した場合は、「処理できる画像がありません」と表示されます。その場合は**OK**ボタンを押して、再生モードパレットに戻ります。

4 十字キー（▲）で「復活」を選ぶ

5 OK ボタンを押す

画像が復元されます。

- 復活させた画像／音声は、消去する前と同じファイル名になります。
- 削除画像の復活ができるのは、999枚までです。

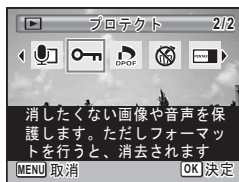
消去できないようにする（プロテクト）

記録した画像を誤って消去しないようにプロテクト（保護）します。

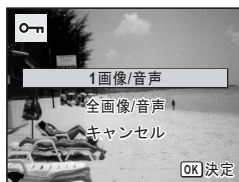
1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、プロテクトする画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

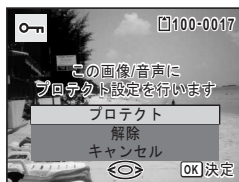
再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で O┳（プロテクト）を選ぶ

4 OK ボタンを押す

1画像/音声／全画像/音声を選択する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「1画像/音声」を選ぶ

6 OKボタンを押す

「この画像/音声にプロテクト設定を行います」とメッセージが表示されます。
別の画像をプロテクトする場合は、十字キー（◀▶）で画像を選びます。

7 十字キー（▲▼）で「プロテクト」を選ぶ

8 OKボタンを押す

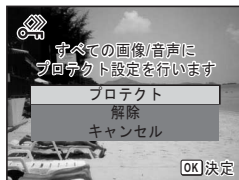
選択した画像がプロテクトされ、手順5の画面に戻ります。
他の画像をプロテクトする場合は、手順5〜8を繰り返します。終了する場合は「キャンセル」を選びます。

- プロテクトを解除するときは、手順7で「解除」を選びます。
- プロテクトされている画像には、再生時に🔑が表示されます。
- 「1画像/音声」で続けてプロテクトできる画像は99個までです。

すべての画像をプロテクトするには

1 p.166の手順5で「全画像/音声」を選ぶ

2 OKボタンを押す

3 十字キー（▲▼）で「プロテクト」を選ぶ

4 OKボタンを押す

すべての画像がプロテクトされ、手順1の画面に戻ります。

5 十字キー（▲▼）で「キャンセル」を選び、OKボタンを押す

再生モードパレットに戻ります。

注意

SDメモリーカードをフォーマットすると、プロテクトされている画像も消去されます（p.200）。

メモ

手順3で「解除」を選ぶと、すべての画像のプロテクト設定が解除されます。

AV機器と接続する

ビデオ端子またはHDMI端子を備えたテレビなどと接続し、画像を再生することができます。
ご使用のAV機器、または使用する機能によって、いずれかを選択してください。

	AVケーブル	撮影時出力	再生時出力
ビデオ出力	付属（I-AVC7）	○	○
HDMI出力	市販品 *1	×	○

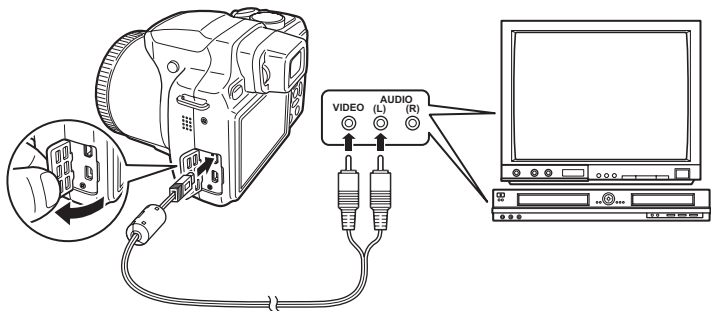
*1 カメラのHDMI端子はタイプD

- 長時間使用するときは、ACアダプターキットK-AC106J（別売）のご使用をお勧めします。（p.35）
- 複数の映像入力端子があるAV機器で画像を見る場合は、ご使用のAV機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続する映像入力端子を選択してください。
- ビデオ出力とHDMI出力を同時に行うことはできません。
- AV機器と接続した場合、カメラで音量調節はできません。AV機器側で音量を調節してください。

ビデオ端子に接続する

付属のAVケーブル（I-AVC7）を使用し、ビデオ入力端子を備えた機器に接続します。

1　AV機器とカメラの電源を切る

2　カメラの端子カバーを開き、AVケーブルの矢印をカメラの▲印の方向に向け、PC/AV端子に接続する

3　AV ケーブルのもう一方の端子を、AV 機器の映像入力端子に接続する

4　AV機器とカメラの電源を入れる

カメラがビデオモードで起動し、AV 機器にカメラの情報が表示されます。

ビデオ出力方式を選択する

初期設定で現在地を設定（p.43）すると、その地域に合ったビデオ出力方式が設定されます。国や地域によっては、初期設定のビデオ出力方式では、うまく映らない場合があります。その場合は、出力方式を切り替えてください。

1 カメラの電源を入れる

2 ▶モードでMENUボタンを押す

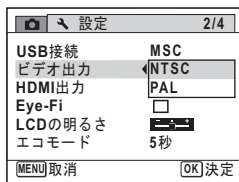
「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

3 十字キー（▲▼）で「ビデオ出力」を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

5 十字キー（▲▼）でNTSC／PALを選ぶ

📷	🔧 設定	2/4
USB接続	MSC	
ビデオ出力	NTSC	
HDMI出力	PAL	
Eye-Fi	☐	
LCDの明るさ		
エコモード	5秒	
MENU 取消		OK 決定

6 OKボタンを押す

設定が保存されます。

7 MENUボタンを押す

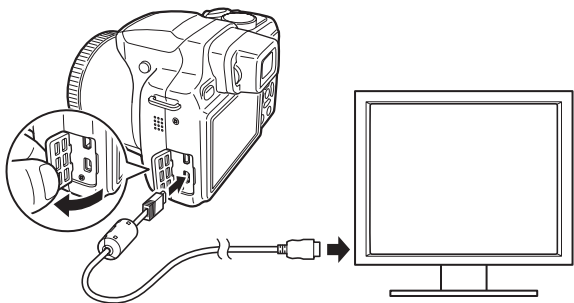
📷モードまたは▶モードに戻ります。

メモ ビデオ出力方式は地域によって異なります。「ワールドタイム」(p.205)を✈（目的地）に切り替えると、その都市の出力方式に切り替わります。日本国内では、NTSC方式です。

HDMI端子に接続する

市販のHDMIケーブルを使用し、HDMI端子を備えた機器に接続します。

1 **AV機器とカメラの電源を切る**

2 **カメラの端子カバーを開き、HDMIケーブルをHDMI端子に接続する**

3 **HDMIケーブルのもう一方の端子を、AV機器のHDMI入力端子に接続する**

4 **AV機器とカメラの電源を入れる**

カメラがHDMIモードで起動し、AV機器にカメラの情報が表示されます。

- カメラの HDMI 端子はタイプ D です。ご使用の機器に合った市販のHDMIケーブルをご用意ください。
- HDMI出力中は、カメラの画像モニターは表示されません。

HDMI出力方式を選択する

HDMI端子の出力信号方式を設定します。

1 カメラの電源を入れる

2 ▶モードでMENUボタンを押す

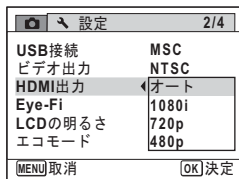
「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

3 十字キー（▲▼）で「HDMI出力」を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

5 十字キー（▲▼）で出力方式を選ぶ

オート	AV機器とカメラが対応する最大のサイズを自動で選択します。（初期設定）
1080i	1920×1080i
720p	1280×720p
480p*1	720×480p

*1 ビデオ出力方式がNTSCのときは480p、PALのときは576p（720×576p）になります。

📷	🔧 設定	2/4
USB接続	MSC	
ビデオ出力	NTSC	
HDMI出力	オート	
Eye-Fi	1080i	
LCDの明るさ	720p	
エコモード	480p	
MENU 取消		OK 決定

6 OKボタンを押す

設定が保存されます。

7 MENUボタンを押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。

1080i／720pでの出力は、一部の表示がカメラとは異なる画面デザインで表示されます。

4 画像の再生と消去

5 画像の編集と印刷

画像のサイズを変更する（リサイズ）

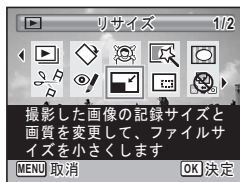
選択した画像の記録サイズを変更して、元の画像よりもファイルサイズを小さくすることができます。SDメモリーカードまたは内蔵メモリーがいっぱいになって撮影できなくなったとき、画像をリサイズして上書きすれば、空き容量が増え、続けて撮影ができます。

- 記録サイズが 10.7M 3:2（4000×2672）／ 9M 16:9（4000×2256）／ 9M 1:1（2992×2992）で撮影された画像または（パノラマ）モードで撮影された画像や動画は、リサイズできません。
- 元の画像よりも大きいサイズ、高い画質は選択できません。

1 モードで十字キー（◀▶）を押し、リサイズする画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で（リサイズ）を選ぶ

4 OKボタンを押す

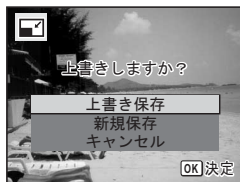
記録サイズを選択する画面が表示されます。

5 「記録サイズ」と「画質」を選択する

それぞれ、十字キー（◀▶）で選択します。「記録サイズ」と「画質」の切り替えは、十字キー（▲▼）で行います。

6 OK ボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

7 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

8 OK ボタンを押す

リサイズされた画像が保存されます。

画像をトリミングする

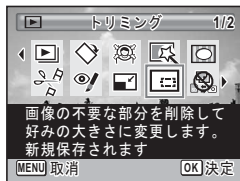
画像周囲の不要な部分をカットして、別の画像として保存します。

記録サイズが 10.7M 3:2（4000×2672）／ 9M 16:9（4000×2256）／ 9M 1:1（2992×2992）で撮影された画像または■■■（パノラマ）モードで撮影された画像や動画は、トリミングできません。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、トリミングする画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で⬚（トリミング）を選ぶ

4 OKボタンを押す

トリミングを行う画面が表示されます。
画面にはトリミングできる最大の範囲が緑の枠で表示されます。この範囲を越えてトリミングはできません。

5 トリミング範囲を決める

以下の操作で緑の枠を動かして、画面のどの部分をトリミングするか決めます。

電子ダイヤル	トリミングサイズの変更
十字キー（▲▼◀▶）	トリミング位置の移動
⬬ボタン	トリミング範囲の回転 • 回転できるサイズのときだけボタンが表示されます。

6 OKボタンを押す

トリミングされた画像が新しいファイル名で保存されます。
トリミング後の記録サイズは、トリミングサイズに応じて自動的に設定されます。

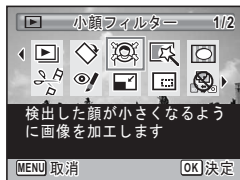
顔が小さく見えるように加工する

撮影時に顔検出機能（p.70）で検出された人物の顔を小さく見えるように加工します。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、編集する画像を選ぶ

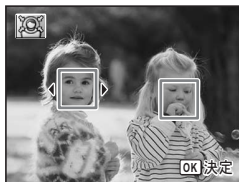
2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で小顔フィルター（小顔フィルター）を選ぶ

4 OKボタンを押す

補正できる顔に顔検出枠が表示されます。
検出枠が1つのみの場合は、手順6に進みます。

5 十字キー（▲▼◀▶）で加工する顔を選択する

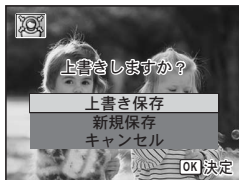
緑色の枠が加工の対象となる顔です。

6 OKボタンを押す

7 十字キー（◀▶）で縮小率を切り替える

- 約5%
- 約7%
- 約10%

8 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

9 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

10 OKボタンを押す

▶モードに戻り、加工した画像が表示されます。

以下の場合は、加工できないことがあります。
- 画像に対して顔の占める割合が大きすぎる、または小さすぎる
- 顔が画像の端に写っている

この場合は、手順4で顔検出枠が表示されません。

デジタルフィルターを使う

選択した画像の色調を変えたり、特殊な加工を施します。

白黒	白黒写真のような画像に加工します。
セピア	セピア写真のような画像に加工します。
トイカメラ	トイカメラで撮影したような画像に加工します。
レトロ	古い写真のような画像に加工します。
カラー	選択したカラーフィルターをかけた画像にします。赤／桃／紫／青／緑／黄の6種類のフィルターがあります。
色抽出	特定の色だけを抽出し、他の部分を白黒に加工します。赤／緑／青の3種類のフィルターがあります。
色強調	晴天／新緑／花見／紅葉の色彩を強調します。
ソフト	全体をぼかしたようなやわらかい画像に加工します。
フィッシュアイ	魚眼レンズで撮影したような画像にします。
明るさ	明るさを調整します。

(パノラマ)モードで撮影された画像や動画、他のカメラで撮影した画像は、デジタルフィルターで加工できません。

1 ▶モードで十字キー(◀▶)を押し、編集する画像を選ぶ

2 十字キー(▼)を押す

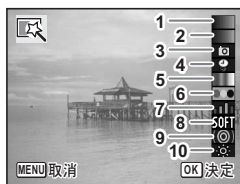
再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー(▲▼◀▶)で(デジタルフィルター)を選ぶ

5
画像の編集と印刷

4 OKボタンを押す

フィルターを選択する画面が表示されます。

1 白黒
2 セピア
3 トイカメラ
4 レトロ
5 カラー
6 色抽出
7 色強調
8 ソフト
9 フィッシュアイ
10 明るさ

選択するフィルターによって、以下に進んでください。

白黒／セピア／ソフトの場合

5 十字キー（▲▼）でフィルターを選ぶ

フィルターに応じた加工結果がプレビュー表示されます。

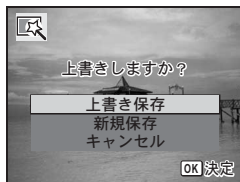
6 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

7 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

8 OKボタンを押す

フィルターで加工された画像が保存されます。

レトロ／カラー／色抽出／色強調の場合

5 十字キー（▲▼）でフィルターを選ぶ

フィルターに応じた加工結果がプレビュー表示されます。

6 十字キー（◀▶）で色を選択する

十字キー（▶）を押すたびに、次のように色が切り替わります。

レトロ	元画像→アンバー→ブルー
カラー	赤→桃→紫→青→緑→黄
色抽出	赤→緑→青
色強調	晴天→新緑→花見→紅葉

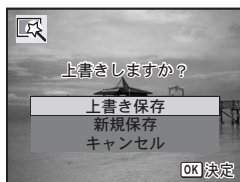
7 OK ボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

8 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

9 OKボタンを押す

フィルターで加工された画像が保存されます。

トイカメラ／フィッシュアイ／明るさの場合

5 十字キー（▲▼）でフィルターを選ぶ

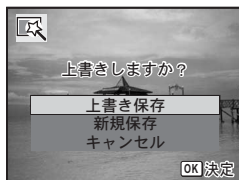
フィルターに応じた加工結果がプレビュー表示されます。

6 十字キー（◀▶）で効果を調整する

	十字キー（◀）	初期設定	十字キー（▶）
トイカメラ	弱	標準	強
フィッシュアイ	弱	中	強
明るさ	暗い	標準	明るい

7 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

8 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

9 OKボタンを押す

フィルターで加工された画像が保存されます。

赤目を補正する

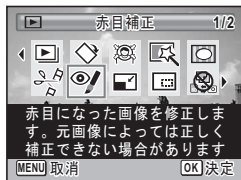
ストロボ撮影で人物の目が赤く写った画像を補正します。

- ▮▮▮（パノラマ）モードで撮影された画像や動画、カメラ側で赤目画像と特定できなかった画像は、赤目補正できません。手順4でエラーメッセージが表示されます。
- 赤目補正できるのは、このカメラで撮影した静止画像のみです。

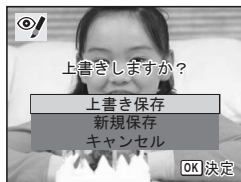
1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、赤目補正する画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で（赤目補正）を選ぶ

4 OK ボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

5 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

6 OK ボタンを押す

赤目補正された画像が保存されます。

フレームを合成する

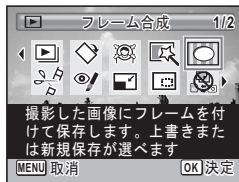
撮影した静止画に、フレーム（飾り枠）を合成します。あらかじめ90種類のフレームが登録されています。

記録サイズが 10.7M 3:2（4000×2672）／ 9M 16:9（4000×2256）／ 9M 1:1（2992×2992）で撮影された画像または（パノラマ）モードで撮影された画像や動画、3M（2048×1536）より小さいサイズの画像は、フレームが合成できません。手順4でエラーメッセージが表示されます。

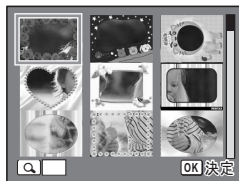
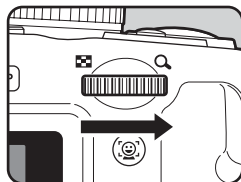
1 **▶モードで十字キー（◀▶）を押し、フレーム合成する画像を選ぶ**

2 **十字キー（▼）を押す**

再生モードパレットが表示されます。

3 **十字キー（▲▼◀▶）で◯（フレーム合成）を選ぶ**

4 **OK ボタンを押す**

フレーム選択の9分割画面が表示されます。

5 **十字キー（▲▼◀▶）で使用するフレームを選ぶ**

6 電子ダイヤルを右（Q）に回す

選んだフレームが1画面表示されます。
フレームは次の方法で選び直すことができます。

十字キー（◀▶）	別のフレームを選択
電子ダイヤル左（⊞）	フレーム選択の9分割画面に戻り、手順5と同様の操作で別のフレームを選択

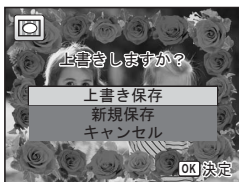
7 OKボタンを押す

画像の位置調整と拡大／縮小を行う画面が表示されます。
次の方法で調整ができます。

十字キー（▲▼◀▶）	画像の位置を調整
電子ダイヤル	画像の拡大／縮小

8 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

9 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

10 OKボタンを押す

フレームが合成された画像が、3M（2048×1536）の記録サイズで保存されます。

オプションのフレーム画像について
X90の内蔵メモリーには、オプションのフレームが登録されています。このオプションフレームは、パソコンから内蔵メモリーのファイルを削除したり、内蔵メモリーをフォーマットすると削除されます。オプションフレームを内蔵メモリーに再度登録する場合は、付属のCD-ROM（S-SW104）からコピーしてください。

フレーム画像のコピーのしかた

1 カメラからSDメモリーカードを取り出す

SDメモリーカードがセットされていると、内蔵メモリーではなく、SDメモリーカードにコピーされます。

2 付属のUSBケーブル（I-USB7）でパソコンとカメラを接続する

接続のしかたは、「パソコンで画像を見る」（p.219）をご覧ください。

3 パソコンにデバイス検出の画面が表示されたら、「キャンセル」をクリックする

4 CD-ROM（S-SW104）をパソコンにセットする

5 インストール画面が表示されたら、「EXIT」をクリックする

6 カメラ（リムーバブルディスク）のルートディレクトリにFRAMEフォルダーがない場合は作成する

7 CD-ROM のルートディレクトリにある FRAME フォルダーから、コピーしたいファイルをカメラ（リムーバブルディスク）のFRAMEフォルダーにコピーする

パソコンのファイル操作については、お使いのパソコンの説明書などをご覧ください。

8 パソコンとカメラからUSBケーブルを外す

「パソコンで画像を見る」（p.219）を参考にしてください。

フレームは内蔵メモリーとSDメモリーカードの両方に登録できますが、数が多くなると処理に時間がかかる場合があります。

新しく入手したフレームを使う

ペンタックスのホームページなどから入手したフレームを使用して、フレームを合成することもできます。

- ダウンロードしたフレームは、解凍して内蔵メモリーやSDメモリーカードのFRAMEフォルダーにコピーしてください。
- FRAMEフォルダーは、SDメモリーカードを本機でフォーマットすると作成されます。
- ダウンロードの手順などの詳細は、当社ホームページをご覧ください。

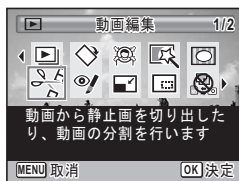
動画を編集する

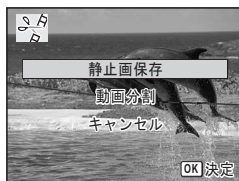
撮影した動画中のひとコマを切り出して静止画として保存したり、動画を分割したりすることができます。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、編集する動画を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で✂（動画編集）を選ぶ

4 OKボタンを押す

編集方法を選択する画面が表示されます。
編集方法によって、以下に進んでください。

動画の1コマを静止画として保存する

5 編集方法を選択する画面で「静止画保存」を選ぶ

6 OKボタンを押す

静止画として保存するコマを選択する画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼◀▶）で保存するコマを選ぶ

- ▲　再生／一時停止
- ▼　停止して最初のコマに戻る
- ◀　コマ戻し
- ▶　コマ送り

8 OKボタンを押す

選択したコマが静止画として保存されます。

動画を分割する

5 編集方法を選択する画面で「動画分割」を選ぶ

6 OKボタンを押す

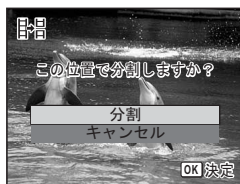
分割位置を選択する画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼◀▶）で分割位置を決める

- ▲　再生／一時停止
- ▼　停止して最初のコマに戻る
- ◀　コマ戻し
- ▶　コマ送り

8 OKボタンを押す

分割位置を確認する画面が表示されます。

9 十字キー（▲▼）で「分割」を選ぶ

10 OK ボタンを押す

指定位置で分割した動画がそれぞれ新しいファイル名で保存され、元の動画は削除されます。

プロテクトされている動画は分割できません。

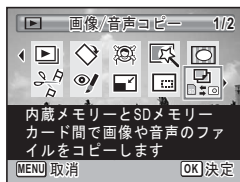
画像をコピーする

内蔵メモリーとSDメモリーカード間で画像をコピーします。カメラにSDメモリーカードが入っていないと、この機能は選択できません。

SDメモリーカードをセットするときや取り出すときは、必ず電源を切ってください。

1 ▶モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で （画像/音声コピー）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

コピー方法を選択する画面が表示されます。
コピー方法によって、以下に進んでください。

内蔵メモリーからSDメモリーカードにコピーする場合

内蔵メモリー内のすべての画像をSDメモリーカードにコピーします。画像をコピーする前に、SDメモリーカードに充分な空き容量があることを確認してください。

4 **十字キー(▲▼)で「[●]➡[SD]」を選ぶ**

5 **OKボタンを押す**

すべての画像がSDメモリーカードにコピーされます。

SDメモリーカードから内蔵メモリーにコピーする場合

SDメモリーカード内の画像を1つずつ選んで、内蔵メモリーにコピーします。

4 **十字キー（▲▼）で「[SD]➡[●]」を選ぶ**

5 **OKボタンを押す**

6 **十字キー（◀▶）でコピーする画像を選ぶ**

7 **OKボタンを押す**

選択した画像が内蔵メモリーにコピーされます。

- 音声（ボイスメモ）付きの画像は、音声付きのままコピーされます。
- SDメモリーカードから内蔵メモリーにコピーする場合は、新しいファイル名で画像がコピーされます。

DPOFを設定する

DPOF（Digital Print Order Format）とは、デジタルカメラで撮影した静止画に、プリントのための情報を記録するためのフォーマットです。撮影した静止画にDPOFを設定すると、DPOF対応プリンターやプリントサービス店でDPOFの設定に従ったプリントができます。
動画には、DPOF は設定できません。

「日付写し込み」(p.136）で日付／時刻を写し込んだ画像には、DPOF設定で「日付」を☑（オン）にしないでください。☑にすると、日付が重なって印刷されます。

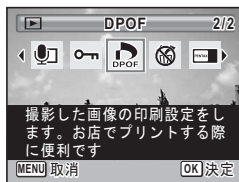
1画像ずつ設定する

各画像ごとに、以下の項目を設定します。

枚数	プリントする枚数を設定します。99枚まで設定できます。
日付	画像に日付をプリントするかしないかを設定します。

1 ▶モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（DPOF）を選ぶ

3 OKボタンを押す

設定方法を選択する画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「1画像」を選ぶ

5 OKボタンを押す

「この画像にDPOF設定を行います」とメッセージが表示されます。

6 十字キー（◀▶）で画像を選択する

すでにDPOFが設定されている画像は、設定された枚数と日付のオン／オフが表示されます。

7 十字キー（▲▼）でプリント枚数を設定する

8 ●ボタンで日付の☑／□を切り替える

☑　日付をプリントする
□　日付をプリントしない

その他の画像にもDPOFを設定したい場合は、手順6～8を繰り返します。

9 OKボタンを押す

設定が保存され、手順4の画面に戻ります。

注意　プリンターやプリントサービス店のプリント機器によっては、DPOF設定で「日付」をオンにしても日付がプリントされないことがあります。

メモ　DPOF設定を解除する場合は、手順7で枚数を「00」に設定して、**OK**ボタンを押します。

全画像を設定する

カメラに保存されているすべての画像に同じ枚数／日付の設定を適用します。

1 p.193の手順4で「全画像」を選ぶ

2 OKボタンを押す

「すべての画像にDPOF設定を行います」とメッセージが表示されます。

3 プリント枚数と日付の☑／□を設定する

設定のしかたは「1画像ずつ設定する」の手順7～8（p.193）をご覧ください。

4 OKボタンを押す

設定した値で全画像の設定が保存され、設定方法を選択する画面に戻ります。

- 「全画像」では、すべての画像に同じプリント枚数が設定されます。プリントをする前に、必ず枚数の設定が正しいか確認してください。
- 「全画像」で設定を行うと、1画像ずつの設定は解除されます。

6 音声の録音と再生

画像に音声を付ける（ボイスメモ）

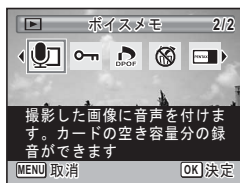
撮影した静止画に音声（ボイスメモ）を付けることができます。

ボイスメモを録音する

1 **Q モードで十字キー（◀▶）を押し、ボイスメモを付けたい画像を選ぶ**

2 **十字キー（▼）を押す**

再生モードパレットが表示されます。

3 **十字キー（▲▼◀▶）で 🎙（ボイスメモ）を選ぶ**

4 **OK ボタンを押す**

ボイスメモの録音を開始します。

5 **OK ボタンを押す**

ボイスメモの録音が終了します。

- すでにボイスメモが録音されている画像にボイスメモを上書きすることはできません。いったん音声を消去（p.162）してから、もう一度録音してください。
- プロテクトされている画像（p.166）にボイスメモを付けることはできません。

6

音声の録音と再生

ボイスメモを再生する

1 **▶モードで十字キー（◀▶）を押し、ボイスメモを再生する画像を選ぶ**

ボイスメモが録音されている画像は、1画面表示時に♪が表示されます。

2 **十字キー（▲）を押す**

録音されたボイスメモが再生されます。

再生中にできる操作

電子ダイヤル右（Q）	音量を大きくする
電子ダイヤル左（▦）	音量を小さくする

3 **十字キー（▼）を押す**

ボイスメモの再生が停止します。

音声を消去する ☞p.162

6 音声の録音と再生

7 設定

SDメモリーカードをフォーマットする

SDメモリーカードに保存されているすべてのデータを消去します。
未使用または他のカメラやデジタル機器で使用したSDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマットしてからご使用ください。

- SD メモリーカードのフォーマット中は、カードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- フォーマットを行うと、プロテクトされた画像や、このカメラ以外で記録したデータも消去されます。ご注意ください。
- パソコンなどこのカメラ以外の機器でフォーマットされた SD メモリーカードはそのままでは使用できません。必ずカメラでフォーマットしてください。
- 異常があったとき以外、内蔵メモリーはフォーマットできません。

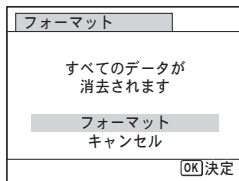
1　▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2　十字キー（▲▼）で「フォーマット」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

「フォーマット」画面が表示されます。

4　十字キー（▲）で「フォーマット」を選ぶ

5 OKボタンを押す

フォーマットが開始されます。
フォーマットが終わると、◘モードまたは▶モードに戻ります。

サウンドの設定を変更する

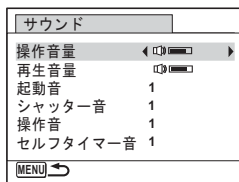
操作音の音量と音の種類を変更できます。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
◘モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「サウンド」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「サウンド」画面が表示されます。

操作音量／再生音量を変更する

4 十字キー（▲▼）で「操作音量」を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で音量を調節する

音量を🔇にすると起動音・シャッター音・操作音・セルフタイマー音は鳴りません。

6 手順4〜5と同様の操作で「再生音量」を設定する

7
設定

音の種類を変更する

4　十字キー（▲▼）で「起動音」を選ぶ

5　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

6　十字キー（▲▼）で音の種類を選ぶ

1／2／3／オフから選択します。

7　OK ボタンを押す

8　手順 4 ～ 7 と同様の操作でシャッター音／操作音／セルフタイマー音を設定する

9　MENUボタンを2回押す

Aモードまたは▶モードに戻ります。

日時を変更する

初期設定（p.47）で設定した日付と時刻を変更します。また、カメラに表示する日付の表示形式を設定します。

1　▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
Aモードで**MENU**ボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2　十字キー（▲▼）で「日時設定」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

「日時設定」画面が表示されます。

4 十字キー（▶）を押す

選択枠が「年/月/日」に移動します。
初期設定や、前回の設定によっては、月/日/年／日/月/年で表示されていることもあります。

日時設定
表示スタイル ▶年/月/日 24h
日付 2010/01/01
時刻 00:00
設定完了
MENU 取消

5 十字キー（▲▼）で日付の表示スタイルを選ぶ

年/月/日／月/日/年／日/月/年から選択します。

6 十字キー（▶）を押す

選択枠が「24h」に移動します。

7 十字キー（▲▼）で24h（24時間表示）／12h（12時間表示）を選ぶ

8 十字キー（▶）を押す

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

9 十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

10 十字キー（▶）を押す

手順5で設定した表示スタイルに従って、選択枠が下記の項目に移動します。
「年/月/日」の場合　西暦年
「月/日/年」の場合　月
「日/月/年」の場合　日
以下の操作手順や画面は、「年/月/日」に設定した場合です。他の表示スタイルに設定した場合でも、操作方法は同様です。

日時設定
表示スタイル　年/月/日 24h
日付　2010/01/01
時刻　00:00
設定完了
MENU 取消

11 十字キー（▲▼）で西暦年を設定する

日時設定
表示スタイル　年/月/日 24h
日付　2010/01/01
時刻　00:00
設定完了
MENU 取消

12 十字キー（▶）を押す

選択枠が「月」に移動します。十字キー（▲▼）で月を設定します。月を設定後は、同様の操作で日を設定します。

13 手順8～12と同様の操作で時刻を設定する

手順7で「12h」を選択した場合は、時刻調整に連動してAM／PMが切り替わります。

14 十字キー（▼）で「設定完了」を選ぶ

15 OKボタンを押す

日時の設定が保存されます。

メモ
手順15で**OK**ボタンを押すと、0秒にセットされます。時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、秒単位まで正確な日時設定ができます。

ワールドタイムを設定する

「日時を設定する」(p.47)や「日時を変更する」(p.202)で設定した日時は、現在地の日時として設定されます。「ワールドタイム」を設定しておくと、海外で使用するとき、画像モニターに目的地として設定した国や地域の日時を表示できます。

目的地を設定する

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「設定」メニューが表示されます。
モードでMENUボタンを押したときは、十字キー(▶)を1回押します。

2 十字キー(▲▼)で「ワールドタイム」を選ぶ

3 十字キー(▶)を押す

「ワールドタイム」画面が表示されます。

4 十字キー(▲▼)で「✈目的地」を選ぶ

ワールドタイム
時刻切替 ▶ ⌂
✈目的地 DST OFF
東京 14:25
⌂現在地 DST OFF
東京 14:25
MENU ↩

5 十字キー(▶)を押す

「✈目的地」画面が表示されます。現在設定されている都市が地図上で点滅表示されます。

6 十字キー(◀▶)で目的地の都市名を選ぶ

選択した都市の現在時刻・位置・時差が表示されます。

7 設定

7 十字キー（▲▼）で「夏時間」を選ぶ

8 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

目的地が夏時間を採用している場合は、☑にします。

9 OKボタンを押す

目的地の設定が保存され、「ワールドタイム」画面に戻ります。

10 MENUボタンを2回押す

設定した内容で撮影できる状態になります。

メモ 手順4で「⌂現在地」を選ぶと、現在地の都市と夏時間を設定できます。

目的地の日時をカメラに表示させる（時刻切替）

1 ▶モードでMENUボタンを押す

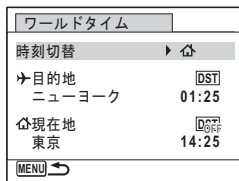
「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「ワールドタイム」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「ワールドタイム」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「時刻切替」を選ぶ

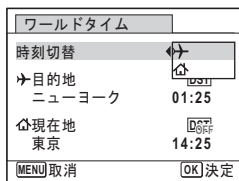
ワールドタイム
時刻切替 ▶ ⌂
✈目的地 DST
ニューヨーク 01:25
⌂現在地 DST OFF
東京 14:25
MENU ↩

5 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

6 十字キー（▲▼）で✈／⌂を切り替える

✈　目的地の都市の時刻を表示

⌂　現在地の都市の時刻を表示

ワールドタイム
時刻切替　◀✈ ⌂
✈目的地　DST
ニューヨーク　01:25
⌂現在地　DST OFF
東京　14:25
MENU 取消　OK 決定

7 OKボタンを押す

設定が保存されます。

8 MENUボタンを2回押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。
ワールドタイムに切り替えた場合は、📷モードにしたときに画像モニターに目的地の日時が表示されていることを示す✈アイコンが表示されます。

7
設定

表示言語を変更する

メニューやエラーメッセージなどに表示される言語を変更します。
英語／フランス語／ドイツ語／スペイン語／ポルトガル語／イタリア語／オランダ語／日本語／デンマーク語／スウェーデン語／フィンランド語／ポーランド語／チェコ語／ハンガリー語／トルコ語／ギリシャ語／ロシア語／タイ語／韓国語／中文繁体／中文簡体に対応しています。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「Language/言語」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「Language/言語」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）で言語を選ぶ

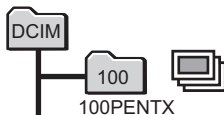
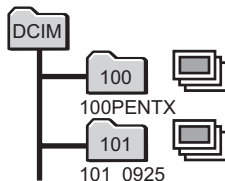
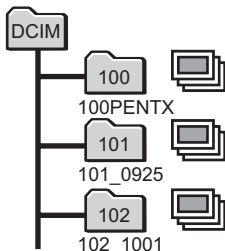
Language/言語		
English	日本語	Türkçe
Français	Dansk	Ελληνικά
Deutsch	Svenska	Русский
Español	Suomi	ไทย
Português	Polski	한국어
Italiano	Čeština	中文繁體
Nederlands	Magyar	中文简体
MENU 取消		OK 決定

5 OKボタンを押す

選択した言語でメニューやメッセージが表示されるようになります。

フォルダー名の付け方を変更する

画像が保存されるフォルダー名の付け方を変更できます。「日付」に設定すると画像は撮影日ごとに違うフォルダーに保存されます。

日付（初期設定）	xxx_mmdd（3桁のフォルダー番号_月日） ※ 日付の表示スタイルが「日/月/年」に設定されている場合は、xxx_ddmm（3桁のフォルダー番号_日月）になります。
PENTX	xxxPENTX（xxxは3桁のフォルダー番号）

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「設定」メニューが表示されます。
カメラモードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「フォルダー名」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で日付／PENTXを切り替える

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

画像モニターの明るさを設定する

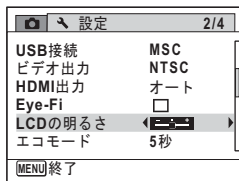
画像モニターの明るさを設定できます。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「設定」メニューが表示されます。
◘モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「LCDの明るさ」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で明るさを調整する

暗
標準
明

4 MENUボタンを押す

◘モードまたは▶モードに戻ります。
画像モニターは、設定した明るさになります。

節電機能を使う（エコモード）

一定時間操作しないときに、画像モニターの明るさが自動的に暗くなるように設定することで、バッテリーの消耗を軽減します。節電機能が働き、画像モニターが暗くなった場合は、何かのボタン操作をすると、元の明るさに戻ります。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「設定」メニューが表示されます。
◘モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

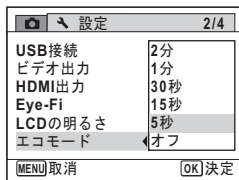
2 十字キー（▲▼）で「エコモード」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）でエコモードに切り替わるまでの時間を選ぶ

2分／1分／30秒／15秒／5秒（初期設定）／オフから選択します。

設定 2/4
USB接続
ビデオ出力
HDMI出力
Eye-Fi
LCDの明るさ
エコモード
2分
1分
30秒
15秒
5秒
オフ
MENU 取消
OK 決定

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

- 以下の場合は、エコモードになりません。
  - 連続撮影で撮影中
  - 再生モード中
  - 動画撮影中／再生中
  - パソコン接続中
  - メニュー表示中
  - AV機器接続中
  - EVF/LCDボタンでファインダー表示に切り換えているとき
- 「5秒」に設定されている場合、電源を入れた後に何も操作しないと、15秒後にエコモードになります。

オートパワーオフを設定する

一定時間操作しないときに、自動的に電源が切れるように設定できます。

1 **▶モードでMENUボタンを押す**

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 **十字キー（▲▼）で「オートパワーオフ」を選ぶ**

3 **十字キー（▶）を押す**

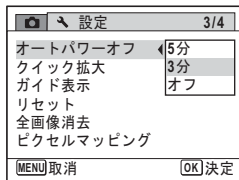
ポップアップが表示されます。

4 **十字キー（▲▼）でオートパワーオフになるまでの時間を選ぶ**

5分／3分（初期設定）／オフから選択します。

5 **OKボタンを押す**

設定が保存されます。

メモ

以下の場合は、オートパワーオフになりません。

- 連続撮影で撮影中
- 動画撮影中
- スライドショウ／動画／音声再生中
- パソコン接続中
- Eye-Fiで画像転送中

クイック拡大を設定する

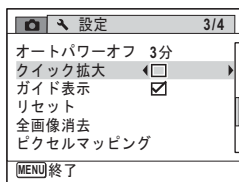
▶モードで画像を再生中に、電子ダイヤルを右（Q）に回すだけで再生画像を最大倍率の10倍まで拡大する「クイック拡大」を使用するかどうかを設定します。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「クイック拡大」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　クイック拡大を使用する
□　クイック拡大を使用しない（初期設定）

4 MENUボタンを押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。

ガイド表示を設定する

撮影モード確定時と撮影モードパレット／再生モードパレットのガイドの表示をする／しないを設定します。

1　▶モードでMENUボタンを押す

「設定」メニューが表示されます。
📷モードで**MENU**ボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2　十字キー（▲▼）で「ガイド表示」を選ぶ

3　十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑　説明を表示する（初期設定）
□　説明を表示しない

4　MENUボタンを押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。

起動画面を変更する

カメラの電源を入れたときに表示する起動画面を設定します。
起動画面には、次の画像が選択できます。

- 撮影モードとボタンのガイドを表示する「ガイド表示起動画面」
- プリインストール画面（3種）
- 撮影した画像（設定が可能な画像のみ）

1　▶モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で（起動画面設定）を選ぶ

7
設定

3 OKボタンを押す

起動画面を選択する画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）で起動画面を選ぶ

起動画面に設定できる画像だけが表示されます。その他に、3種類のプリインストール画面とガイド表示起動画面が選択できます。

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

- 設定した起動画面は、元の画像を消去したり、SDメモリーカードをフォーマットしても消去されません。
- 「オフ」を選ぶと起動画面は表示されません。
- 再生起動モードで電源を入れたときは、起動画面は表示されません。
- 記録サイズが 10.7M 3:2（4000×2672）／ 9M 16:9（4000×2256）／ 9M 1:1（2992×2992）または▮■▮（パノラマ）モードで撮影された画像や動画は、起動画面に設定できません。

センサー画素の欠けを補完する（ピクセルマッピング）

ピクセルマッピングは、CCDの画素に欠けがあった場合に補完処理をする機能です。画像のドットがいつも同じ所で欠けるようになったら、ピクセルマッピングを実行してください。

1 ◘モードでMENUボタンを押し、十字キー（▶）を押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
▶モードで**MENU**ボタンを押したときは、ピクセルマッピングが選択できません。

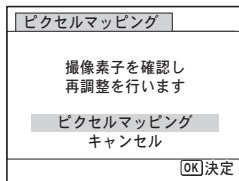
2 十字キー（▲▼）で「ピクセルマッピング」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「ピクセルマッピング」画面が表示されます。

4 十字キー（▲）で「ピクセルマッピング」を選ぶ

ピクセルマッピング

撮像素子を確認し
再調整を行います

ピクセルマッピング
キャンセル

OK 決定

5 OKボタンを押す

補完処理が行われます。

バッテリーの容量が少ない場合、「電池容量がたりないためピクセルマッピングを行えません」と画像モニターに表示されます。ACアダプターキットK-AC106J（別売）を使用するか、容量が十分残っているバッテリーを使用してください。

7
設定

設定をリセットする

カメラの設定内容を工場出荷時の状態に戻します。リセットされる項目については「初期設定一覧」（p.247）をご覧ください。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「リセット」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

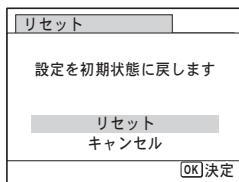
「リセット」画面が表示されます。

4 十字キー（▲）で「リセット」を選ぶ

リセット

設定を初期状態に戻します

リセット
キャンセル

OK 決定

5 OKボタンを押す

設定がリセットされます。

以下の設定はリセットされません。

- 日時設定
- ワールドタイム
- Language/言語
- ビデオ出力

8 パソコンで画像を見る

準備する

本製品に付属するCD-ROMに収録されているソフトウェアをパソコンにインストールし、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続すると、撮影した画像や動画をパソコンに転送して閲覧や管理をすることができます。ここでは、付属ソフトウェアのインストールなど、画像と動画をパソコンで楽しむために必要な準備を説明します。

付属ソフトウェアのご紹介

付属のCD-ROM（S-SW104）には、次のソフトウェアが収録されています。

画像閲覧・管理・編集ソフト「MediaImpression 2.0 for PENTAX」

対応言語：英語／フランス語／ドイツ語／スペイン語／ポルトガル語／イタリア語／オランダ語／スウェーデン語／ロシア語／韓国語／中文繁体／中文簡体／日本語

カメラをパソコンに接続するときは、別売のACアダプターキット（K-AC106J）のご使用をお勧めします（p.35）。画像の転送中にバッテリーが消耗すると、画像データが壊れることがあります。

システム環境

カメラで撮影した画像や動画をパソコンで楽しむには、以下のシステム環境が必要です。

Windows

OS	Windows XP／Windows Vista／Windows 7 • 対象OSがプリインストールされたパソコンで、最新のバージョンにアップデートされているもの
CPU	Pentium 4 1.6GHzまたは同等のAMD Athlon （Intel Core 2 Duo 2.0GHzまたは同等のAMD Athlon X2プロセッサを推奨）
メモリ	512MB以上（1GB以上推奨）
ハードディスク空き容量	300MB以上
その他	CD-ROMドライブ USBポート標準搭載 1024×768ピクセル、16ビットカラーモニターまたはそれ以上

※ すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
※ 推奨環境は、動画の再生・編集をするのに必要な最低環境です。

Windows 95／Windows 98／Windows 98SE／Windows Me／Windows NT／Windows 2000には対応していません。

Macintosh

OS	Mac OS X（Ver.10.3／10.4／10.5／10.6） • 対象OSがプリインストールされたパソコンで、最新のバージョンにアップデートされているもの
CPU	PowerPC G4 800MHz プロセッサまたは同等のCPU （PowerPC G5またはIntel Core Duoプロセッサを推奨）
メモリ	512MB以上（1GB以上推奨）
ハードディスク空き容量	300MB以上
その他	CD-ROMドライブ USBポート標準搭載 1024×768ピクセル、16ビットカラーモニターまたはそれ以上

※ すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
※ 推奨環境は、動画の再生・編集をするのに必要な最低環境です。

ソフトウェアのインストール

画像閲覧・管理・編集ソフト「MediaImpression 2.0 for PENTAX」をインストールします。

- お使いのパソコンに必要なシステム環境を整えてから、インストールしてください。
- 複数のアカウントを設定している場合は、管理者権限でログオンしてからインストールしてください。

Windows

1 パソコンの電源を入れる

2 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROM／DVDドライブにセットする

インストール画面が表示された場合は、手順5へ進みます。

3 スタートメニューから「コンピュータ」をクリックする

4 CD-ROM／DVDドライブ（S-SW104）のアイコンをダブルクリックする

インストール画面が表示されます。

5 「MediaImpression 2.0 for PENTAX」をクリックし、「設定言語の選択」画面で「日本語」を選択して「OK」をクリックする

セットアップ画面が表示されます。画面の指示に従い、インストール作業を進めてください。

6 関連付けるファイル形式を選択し、「次へ」をクリックする

チェックを付けると、その形式のファイルはすべてMediaImpression 2.0 for PENTAXで開きます。他のアプリケーションで開く場合は、クリックしてチェックを外してください。

7 「完了」をクリックする

インストールが完了します。
パソコンを再起動してください。

Macintosh

1 Macintoshの電源を入れる

2 付属のCD-ROMを、MacintoshのCD-ROM／DVDドライブにセットする

3 CD-ROM（S-SW104）のアイコンをダブルクリックする

4 「PENTAX Software Installer」のアイコンをダブルクリックする

インストール画面が表示されます。

5 「MediaImpression 2.0 for PENTAX」をクリックする

セットアップ画面が表示されます。画面の指示に従い、インストール作業を進めてください。

6 「閉じる」をクリックする

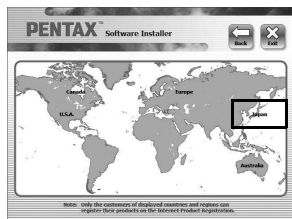
インストールが完了します。

7 インストール画面の「Exit」をクリックする

画面が閉じます。

ユーザー登録する

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

パソコンがインターネットに接続できる環境にあれば、インストール画面で、「ユーザー登録」をクリックします。
右図のような地図画面が表示された場合は、「Japan」をクリックしてください。弊社ホームページのユーザー登録画面が表示されます。画面の指示に従って、登録の作業を行ってください。
ユーザー登録画面が表示されない場合は、下記アドレスから直接アクセスしてください。

https://service.pentax.jp/pentax/customer/menu.aspx

カメラのUSB接続モードを設定する

カメラをUSBケーブルで接続するときの接続先を設定します。

必ずパソコンと接続する前に設定してください。USBケーブルでカメラとパソコンが接続された状態では設定できません。

1 カメラの電源を入れる

2 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

3 十字キー（▲▼）で「USB接続」を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

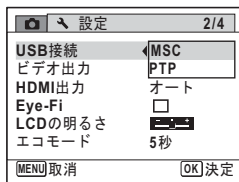
ポップアップが表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「MSC」を選ぶ

6 OKボタンを押す

設定が保存されます。

8
パソコンで画像を見る

MSCとPTP

MSC（Mass Storage Class／マスストレージクラス）
コンピュータにUSB接続された機器を、記憶装置として扱うための汎用のドライバプログラムです。USB機器をそのドライバで制御するための規格のことを指すこともあります。
USB Mass Storage Class対応の機器は、接続するだけで、専用のドライバをインストールせずにコンピュータからファイルのコピーや読み書きを行うことができます。

PTP（Picture Transfer Protocol／ピクチャートランスファープロトコル）
USBを通じてデジタル画像の転送やデジタルカメラの制御を行うためのプロトコルで、ISO 15740として国際標準化されています。
PTP対応の機器同士では、デバイスドライバをインストールせずに、画像データの転送を行うことができます。

X90では、特に指定がない限り「MSC」を選択した状態でコンピュータと接続してください。

パソコンと接続する

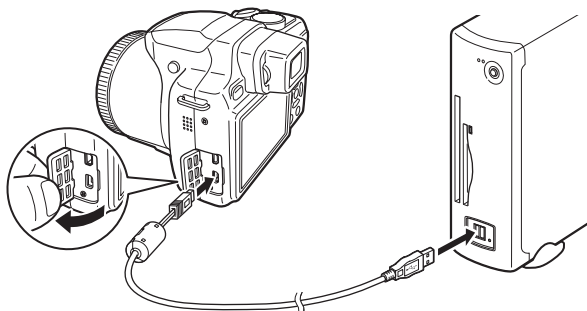
カメラとパソコンを接続する

付属のUSBケーブル（I-USB7）で、カメラとパソコンを接続します。

1 パソコンの電源を入れる

2 カメラの電源を切る

3 USBケーブルでカメラとパソコンを接続する

USBケーブルの端子の⇦を、カメラ側面のPC/AV端子の ◀ 側に向けて接続してください。

4 カメラの電源を入れる

Windowsの場合、パソコンに「自動再生」画面が表示されます。
「自動再生」が表示されない場合は、「「自動再生」が表示されない場合」（p.228）の手順に従ってください。
Macintoshの場合、カメラはデスクトップに「NO NAME」として認識されます。

- カメラとパソコンの接続中は、常に電源ランプが点灯します。カードアクセス中は電源ランプが点滅します。
- Macintoshの場合、SDメモリーカードにボリュームラベルがついていると、「NO NAME」と表示されずにボリュームラベル名が表示されます。フォーマットされていない新しいSDメモリーカードは、メーカー名や型番が表示される場合があります。

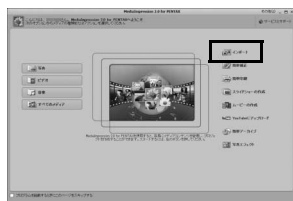
カメラをパソコンに接続するときは、別売のACアダプターキット（K-AC106J）のご使用をお勧めします（p.35）。画像の転送中にバッテリーが消耗すると、画像データが壊れることがあります。

「自動再生」が表示されない場合

1 デスクトップの「MediaImpression 2.0 for PENTAX」アイコンをダブルクリックする

MediaImpression 2.0 for PENTAXが起動し、スタートページが表示されます。

2 「インポート」をクリックする

インポート画面が表示されます。以降はp.229の手順6に進んでください。

画像を転送する

撮影した画像をパソコンにインポートします。

- カメラにSDメモリーカードが入っていない場合は、内蔵メモリーの画像が転送されます。
- Macintoshをお使いの場合は、p.230に進んでください。

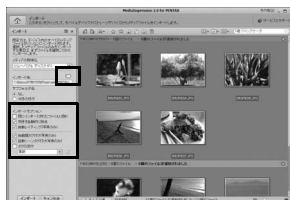
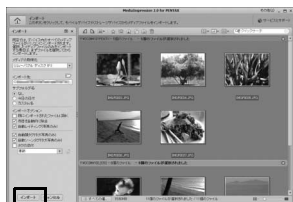
Windows

5 「メディアファイルをローカルディスクにインポート」をクリックする

MediaImpression 2.0 for PENTAXが起動し、インポート画面が表示されます。

6 インポートする画像を選択する

複数選択する場合は、Ctrlキーを押しながら選択します。
インポート先を指定する場合は、フォルダマークをクリックして指定します。
「インポートオプション」にチェックが付いていると、インポートした画像にマークが表示されます。

8 パソコンで画像を見る

7 「インポート」をクリックする

画像がパソコンにインポートされ、メディアブラウザ画面が表示されます。インポートが完了するとメッセージ画面が出るので、「終了」をクリックします。

- インポート画面でカメラの画像が表示されない場合は、「メディアの取得元」で「リムーバブルディスク」を指定します。
- SDメモリーカードにボリュームラベルがついていると、「リムーバブルディスク」と表示されずにボリュームラベル名が表示されます。フォーマットされていない新しいSDメモリーカードは、メーカー名や型番が表示される場合があります。

Macintosh

5 「アプリケーション」フォルダー内の「MediaImpression 2.0 for PENTAX」アイコンをダブルクリックする

MediaImpression 2.0 for PENTAXが起動し、スタートページが表示されます。

6 「インポート」をクリックする

インポート画面が表示されます。以降はp.229の手順6～7を参照してください。

インポート画面でカメラの画像が表示されない場合は、「メディアの取得元」で「NO NAME」（またはボリュームラベル名）を指定します。

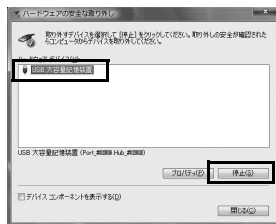
パソコンからカメラを取り外す

Windows

1 タスクバーの（ホットプラグアイコン）をダブルクリックする

「ハードウェアの安全な取り外し」画面が表示されます。

2 「USB 大容量記憶装置」を選択して「停止」をクリックする

「ハードウェアデバイスの停止」画面が表示されます。

3 「USB 大容量記憶装置」を選択して「OK」をクリックする

取り外し許可のメッセージが表示されます。

4 USBケーブルをパソコンとカメラから取り外す

Macintosh

1 デスクトップの「NO NAME」をゴミ箱にドラッグする

SDメモリーカードにボリュームラベル名が付いている場合は、その名称のアイコンをゴミ箱にドラッグします。

2 USBケーブルをMacintoshとカメラから取り外す

- MediaImpression 2.0 for PENTAXなどのアプリケーションで、カメラ（リムーバブルディスク）を使用中の場合は、アプリケーションを終了しないとカメラを取り外すことはできません。
- カメラまたはパソコンからUSBケーブルを取り外すと、カメラは自動的に再生モードに切り替わります。

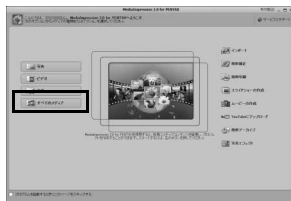
MediaImpression 2.0 for PENTAXを起動する

MediaImpression 2.0 for PENTAXを使用して、画像の表示・編集・管理・検索・共有・印刷ができます。

1 Windows ではデスクトップの、Macintoshでは「アプリケーション」フォルダー内の「MediaImpression 2.0 for PENTAX」アイコンをダブルクリックする

MediaImpression 2.0 for PENTAXが起動し、スタートページが表示されます。

2 「すべてのメディア」をクリックする

メディアブラウザ画面が表示されます。

* 画面はWindowsのものです。OSや設定によって項目が異なります。

3 見たい画像が保存されているフォルダーを選び、クリックする

画像の一覧が表示されます。

4 見たい画像を選び、ダブルクリックする

選んだ画像がMediaImpression Photo Viewerで表示されます。
画像の拡大／縮小表示や編集などができます。また動画／音声の再生をすることもできます。

MediaImpression 2.0 for PENTAXの詳しい使い方を調べる

MediaImpression 2.0 for PENTAXの詳しい使い方は、ヘルプで調べることができます。

1 Windowsでは画面右上の「その他」から「ヘルプ」、Macintoshではメニューバーの「ヘルプ」から「MediaImpressionヘルプ」を選ぶ

ウェブブラウザでヘルプ画面が表示されます。

2 調べたい項目をクリックする

説明が表示されます。

無線LANを利用する

無線LAN機能を内蔵したSDメモリーカード（Eye-Fiカード）を使用している場合は、無線LAN経由で画像の転送ができます。

Eye-Fiカード使用上の注意

- 使用可能なEye-Fiカードは、Eye-Fi Share／Eye-Fi Share Videoです。
- 古いバージョンのEye-Fiカードをカメラにセットすると、エラーメッセージが表示されます。
- Eye-Fiカードを初めて使用するときは、カードをフォーマットする前にカード内のEye-Fi Managerをパソコンにインストールしてください。
- 無線LANで画像を転送するには、アクセスポイントの利用とインターネット環境が必要です。詳しくは、Eye-Fiのホームページを参照してください。（http://www.eyefi.co.jp）
- Eye-Fiカードは、最新のファームウェアに更新して使用してください。
- 航空機内など無線通信の使用が制限または禁止されている場所では、Eye-Fiカードを使用しないか、「Eye-Fi」の設定を□（オフ）にしてください。
- Eye-Fiカードの使用が認められているのは、カードをご購入された国のみです。使用する国の法律を遵守してください。
- このカメラには Eye-Fi カードの通信機能をオン／オフする機能がありますが、Eye-Fiカードのすべての機能を保証するものではありません。
- Eye-Fiカードの使用方法は、Eye-Fiカードの使用説明書を参照してください。
- Eye-Fiカードに関する不具合等は、カードの製造元へお問い合わせください。

Eye-Fiを設定する

Eye-Fiカードから画像の転送を開始します。
📷 モード／▶モード（1画面表示）でカメラを5秒以上操作しないと、自動的に転送されます。

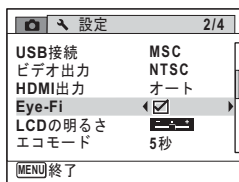
- 以下の設定を行うと、転送されていない画像が自動的に転送されます。また、画像を撮影したり、新規保存／上書き保存を行った場合も転送が開始されます。設定を行う前に画像の確認をしてください。
- Eye-Fi設定の初期値は□（オフ）です。また☑（オン）に設定しても電源を切るたびに□に戻ります。
- 以下の場合、画像は転送されません。
  - 使用可能な無線LANアクセスポイントが見つからないとき
  - バッテリーの容量が少ないとき（残量表示が▭（黄）／▭（赤））
- 大きな動画ファイルなどを転送すると、カメラ内が高温となり、回路保護のために強制的に電源が切れることがあります。
- 画像の転送中は、オートパワーオフ機能は働きません。
- 大量の画像を転送する場合は、転送に時間がかかることがあります。別売のACアダプターキット（K-AC106J）のご使用をお勧めします。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「Eye-Fi」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑に切り替える

8 パソコンで画像を見る

4 MENUボタンを押す

Eye-Fiの無線LAN通信が有効になり、画像の転送が開始されます。画像モニターには**Eye-Fi**が表示されます。

Eye-Fi ■))	通信中 「Eye-Fi」が☑に設定されていて、通信中かアクセスポイントを探しているとき
Eye-Fi ●▪▪	通信待機中 「Eye-Fi」が☑に設定されていて、通信していないとき
Eye-Fi 🚫	Eye-Fi通信禁止 「Eye-Fi」が□に設定されているとき
Eye-Fi ⚠	バージョンエラー Eye-Fiカードのバージョンが古いか、ライトプロテクトされているとき

画像の転送中にカメラを操作すると、転送は中止されます。

9 付録

各撮影モードの機能対応

機能	撮影モード	AUTO PICT							
ズームレバー	ズーム	○*1	○	○*2	○*3	○	○	○	○
ボタン	顔検出オン／スマイルキャッチ	○	○	○	○	○	○	○	○
	顔検出オフ	×	○	○	○	○	○	×	○
ストロボモード	（オート）	○	○	○	○	○	○	○	○
	（発光禁止）	○	○	○	○	○	○	○	○
	（強制発光）	○	○	○	×	○	○	○	○
	（オート＋赤目）	○	○	○	×	○	○	○	○
	（強制＋赤目）	○	○	○	×	○	○	○	○
	SLOW（スローシンクロ）／SLOW（スローシンクロ＋赤目）	○	○	○	×	○	○	○	○
ドライブモード	（標準）	○	○	○	○	○	○	○	○
	（連続撮影）	○	○	○	×	○	○	○	○
	（連写L／M／H）	○	○	○	×	○	○	○	○
	（セルフタイマー）／（2秒セルフタイマー）	○	○	○	○	○	○	○	○
	（インターバル撮影）	○	○	○	×	○	○	○	○
	（オートブラケット）	○	○	○	×	○	○	○	○
フォーカスモード	AF（標準）／（マクロ）	○	○	○	○	○	○	○	○
	（1cmマクロ）	○	○	○	×	○	○	○	○
	（無限遠）	○	○	○	×	○	○	○	○
	MF（マニュアルフォーカス）	○	○	○	×	○	○	○	○
	（AFエリア選択）	×	○	○	×	○	○	○	○
「撮影」メニュー	画像仕上	×*4	×*4	○	×*5	×*4	×*4	×*4	×*4
	記録サイズ	○	○	×*6	×*7	○	○	○	○
	画質	○	○	○	×*10	○	○	○	○
	ホワイトバランス	×*11	×*11	○	×*11	×*11	×*11	×*11	×*11
	感度	○	○	×*12	×*12	○	○	○	○
	感度AUTO調整範囲	○	○	×*13	×	○	○	○	○
	AF AFエリア	×*14	○	○	×*14	○	○	○	○
	オートマクロ	○	○	○	×*15	○	○	○	○
	AF補助光	○	○	○	×*15	○	○	○	○
	測光方式	×*16	×*16	○	×*16	×*16	×*16	×*16	×*16
	露出補正	×*17	○	○	×*17	○	○	○	○
	ストロボ光量補正	○	○	○	×*17	○	○	○	○
	D-Range設定	○	○	○	×*18	○	○	○	○
	Shake Reduction	○	○	○	×*15	○	○	○	○
	まばたき検出	○	○	○	×*15	○	○	○	○
	シャープネス／彩度（調色）／コントラスト	×*19	×*19	○	×*19	×*19	×*19	×*19	×*19
	日付写し込み	○	○	○	×	○	○	○	○

○：設定・変更できます　×：設定・変更できません

							撮影モード／機能		
○	○	○	○	○	○	○	ズーム		ズームレバー
○	○	○	○	○	○	○	顔検出オン／スマイルキャッチ		ボタン
×	○	×	○	○	×	×	顔検出オフ		ボタン
○	×	○	×	○	○	○	（オート）		ストロボモード
○	○	○	○	○	○	○	（発光禁止）		ストロボモード
○	×	○	×	○	○	○	（強制発光）		ストロボモード
○	×	○	×	○	○	○	（オート＋赤目）		ストロボモード
○	×	○	×	○	○	○	（強制＋赤目）		ストロボモード
○	○	○	×	○	○	○	SLOW（スローシンクロ）／SLOW（スローシンクロ＋赤目）		ストロボモード
○	○	○	○	○	○	○	（標準）		ドライブモード
○	○	○	○	○	○	○	（連続撮影）		ドライブモード
○	○	○	○	○	○	○	（連写L／M／H）		ドライブモード
○	○	○	○	○	○	○	（セルフタイマー）／（2秒セルフタイマー）		ドライブモード
○	○	○	○	○	○	○	（インターバル撮影）		ドライブモード
○	○	○	○	○	○	○	（オートブラケット）		ドライブモード
○	○	○	○	○	○	○	AF（標準）／（マクロ）		フォーカスモード
○	○	○	○	○	○	○	（1cmマクロ）		フォーカスモード
○	○	○	○	○	○	○	（無限遠）		フォーカスモード
○	○	○	○	○	○	○	MF（マニュアルフォーカス）		フォーカスモード
○	○	○	○	○	○	○	（AFエリア選択）		フォーカスモード
×*4	○	×*4	×*4	×*4	×*4	×*4	画像仕上		「撮影」メニュー
×*8	○	○	×*9	○	○	○	記録サイズ		「撮影」メニュー
○	○	○	○	○	○	○	画質		「撮影」メニュー
×*11	○	×*11	×*11	×*11	×*11	×*11	ホワイトバランス		「撮影」メニュー
○	○	○	○	○	○	○	感度		「撮影」メニュー
○	○	○	○	○	○	○	感度AUTO調整範囲		「撮影」メニュー
○	○	○	○	○	○	○	AFエリア	AF	「撮影」メニュー
○	○	○	○	○	○	○	オートマクロ	AF	「撮影」メニュー
○	○	○	○	○	○	○	AF補助光	AF	「撮影」メニュー
×*16	○	×*16	×*16	×*16	×*16	×*16	測光方式		「撮影」メニュー
○	○	○	○	○	○	○	露出補正		「撮影」メニュー
○	○	○	○	○	○	○	ストロボ光量補正		「撮影」メニュー
○	○	○	○	○	○	○	D-Range設定		「撮影」メニュー
○	○	○	○	○	○	○	Shake Reduction		「撮影」メニュー
○	○	○	○	○	○	○	まばたき検出		「撮影」メニュー
×*19	○	×*19	×*19	×*19	×*19	×*19	シャープネス／彩度（調色）／コントラスト		「撮影」メニュー
○	○	○	○	○	○	○	日付写し込み		「撮影」メニュー

機能	撮影モード							
ズームレバー	ズーム	○	○	○	○	○	○	○
ボタン	顔検出オン／スマイルキャッチ	○	○	○	○	○	○	○
	顔検出オフ	○	○	○	○	○	○	○
ストロボモード	（オート）	○	○	×	○	○	○	○
	（発光禁止）	○	○	○	○	○	○	○
	（強制発光）	○	○	×	○	○	○	○
	（オート＋赤目）	○	○	×	○	○	○	○
	（強制＋赤目）	○	○	×	○	○	○	○
	（スローシンクロ）／（スローシンクロ＋赤目）	○	○	×	○	○	○	○
ドライブモード	（標準）	○	○	○	○	○	○	○
	（連続撮影）	○	○	×	×	○	○	○
	（連写L／M／H）	○	○	×	×	○	○	○
	（セルフタイマー）／（2秒セルフタイマー）	○	○	○	○	○	○	○
	（インターバル撮影）	○	○	○	×	○	○	○
	（オートブラケット）	○	○	×	×	○	○	○
フォーカスモード	AF（標準）／（マクロ）	○	○	×	○	○	○	○
	（1cmマクロ）	○	○	×	○	○	○	○
	（無限遠）	○	○	○	○	○	○	○
	MF（マニュアルフォーカス）	○	○	×	○	○	○	○
	（AFエリア選択）	○	○	×	○	○	○	○
「撮影」メニュー	画像仕上	×*4	×*4	×*4	○	×*4	×*4	×*4
	記録サイズ	○	○	○	×*8	○	○	○
	画質	○	○	○	○	○	○	○
	ホワイトバランス	×*11	×*11	×*11	○	×*11	×*11	×*11
	感度	○	○	×*23	○	○	○	○
	感度AUTO調整範囲	○	○	○	○	○	○	○
	AF　AFエリア	○	○	×*14	○*25	○	○	○
	AF　オートマクロ	○	○	○	○	○	○	○
	AF　AF補助光	○	○	○	○	○	○	○
	測光方式	×*16	×*16	×*16	○	×*16	×*16	×*16
	露出補正	○	○	○	○	○	○	○
	ストロボ光量補正	○	○	○	○	○	○	○
	D-Range設定	○	○	○	○	○	○	○
	Shake Reduction	○	○	○	○	○	○	○
	まばたき検出	○	○	○	○	○	○	○
	シャープネス／彩度（調色）／コントラスト	×*19	×*19	×*19	○	×*19	×*19	×*19
	日付写し込み	○	○	○	○	○	○	○

WIDE	(パノラマ)	P	Tv	Av	M	(動画)	撮影モード／機能	
×	○	○	○	○	○	○*3	ズーム	ズームレバー
○	○	○	○	○	○	○	顔検出オン／スマイルキャッチ	ボタン
○	○	○	○	○	○	○	顔検出オフ	
○	○	○	×	×	×	×	（オート）	ストロボモード
○	○	○	○	○	○	○	（発光禁止）	
○	○	○	×	○	×	×	（強制発光）	
○	○	○	×	×	×	×	（オート＋赤目）	
○	○	○	×	○	×	×	（強制＋赤目）	
○	○	○	○	○	○	×	SLOW（スローシンクロ）／SLOW（スローシンクロ＋赤目）	
○	○	○	○	○	○	○	（標準）	ドライブモード
×	×	○	○	○	○	×	（連続撮影）	
×	×	○	○	○	○	×	（連写L／M／H）	
○	○	○	○	○	○	○	（セルフタイマー）／（2秒セルフタイマー）	
×	×	○	○	○	○	×	（インターバル撮影）	
×	×	○	○	○	○	×	（オートブラケット）	
○	○	○	○	○	○	○	AF（標準）／（マクロ）	フォーカスモード
○	○	○	○	○	○	○	（1cmマクロ）	
○	○	○	○	○	○	○	（無限遠）	
○	○	○	○	○	○	○	MF（マニュアルフォーカス）	
○	○	○	○	○	○	○	（AFエリア選択）	
○	○	○	○	○	○	○	画像仕上	「撮影」メニュー
×*20	×*21	○	○	○	○	○	記録サイズ	
○	○	○	○	○	○	×*22	画質	
○	○	○	○	○	○	○	ホワイトバランス	
○	○	○	○	○	○*24	×*12	感度	
○	○	○	○	○	○	×	感度AUTO調整範囲	
○	○	○	○	○	○	○*25	AF：AFエリア	
○	○	○	○	○	○	○	AF：オートマクロ	
○	○	○	○	○	○	×	AF：AF補助光	
○	○	○	○	○	○	×*16	測光方式	
○	○	○	○	○	×	○	露出補正	
○	○	○	○	○	○	○	ストロボ光量補正	
○	○	○	○	○	○	○	D-Range設定	
○	○	○	○	○	○	○*26	Shake Reduction	
×	×	○	○	○	○	×	まばたき検出	
○	○	○	○	○	○	○	シャープネス／彩度（調色）／コントラスト	
○	○	○	○	○	○	×	日付写し込み	

9 付録

*1　デジタルズーム／インテリジェントズームを使用しているときは、「花」は選択されません。
*2　光学ズームのみ可
*3　光学ズーム、デジタルズームのみ可
*4　ナチュラルに固定
*5　鮮やかに固定
*6　5M固定
*7　12M固定
*8　3M固定
*9　2M固定
*10　★★（ファイン）固定
*11　**AWB**固定
*12　AUTO固定
*13　80-6400に固定
*14　[　]（マルチ）固定
*15　☑（オン）固定
*16　（分割測光）固定
*17　±0.0固定
*18　□（オフ）固定
*19　標準に固定
*20　1枚撮影時3M固定、合成画像は5M固定
*21　1枚撮影時2M固定
*22　★★★（スーパーファイン）固定
*23　最低感度固定
*24　AUTOは選択不可
*25　（自動追尾）不可
*26　動画メニューの「Movie SR」で設定

9
付録

メッセージ一覧

カメラを使用中に、画像モニターに表示されるメッセージには以下のようなものがあります。

メッセージ	内容
電池容量がなくなりました	バッテリーの残量がありません。バッテリーを充電してください（p.31）。
カードの空き容量がありません	SDメモリーカードに容量いっぱいの画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。 新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください（p.37、p.161）。 撮影済み画像の記録サイズまたは画質を変えると、保存できる可能性があります（p.176）。
カードが異常です	SDメモリーカードの異常で、撮影／再生ともにできません。パソコン上では画像を表示またはコピーできる場合もあります。
内蔵メモリーがフォーマットされていません	内蔵メモリーの内容が壊れています。内蔵メモリーをフォーマットしてください。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないSDメモリーカードがセットされているか、パソコンなどでフォーマットされたSDメモリーカードがセットされています（p.200）。
カードがロックされています	SD メモリーカードがライトプロテクトされています（p.39）。
圧縮に失敗しました	画像の圧縮に失敗しました。画質／サイズを変えて、もう一度撮影または保存してください。
画像/音声がありません	SDメモリーカードに再生できる画像が保存されていません。
動画記録を中止します	動画撮影時にカメラ内部の温度上昇が限界を超えた場合に表示されます。
カメラが高温になりました 電源をオフします	カメラが高温になったため、電源が切れました。しばらくしてから電源を入れてください。
消去中です	画像を消去中に表示されます。
再生できません	このカメラでは再生できない画像／音声を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
フォルダーが作成できません	最大のフォルダー番号（999）で最大のファイル番号（9999）が使用されているため、画像を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードをフォーマットしてください（p.200）。
プロテクトされています	プロテクトされた画像を消去しようとした場合に表示されます。

メッセージ	内容
記録中です	画像がまだ記録中に ▶ モードに切り替えたときや、プロテクト／DPOF設定記録中に表示されます。画像または設定の記録が終了したら表示が消えます。
処理中です	画像処理などに時間がかかり5秒以上スルー画像が表示できないとき、またはSDメモリーカード／内蔵メモリーをフォーマット中に表示されます。
内蔵メモリーの空き容量がありません	ファイルを保存するときに、内蔵メモリーの空き容量がない場合に表示されます。
処理できる画像がありません	画像が1つもない場合に表示されます。
この画像/音声を処理できません	実行できないファイルの場合に表示されます。
カードが入っていません	SDメモリーカードが挿入されていない場合に表示されます。
内蔵メモリーの空き容量が足りません 画像/音声をコピーできません	内蔵メモリーにコピーに必要な空き容量が残っていない場合に表示されます。
正しく処理できませんでした	赤目補正処理に失敗した場合に表示されます。
内蔵メモリーに記録された画像/音声を表示します	内蔵メモリー参照モードに移行した場合に表示されます。
ストロボをポップアップしてください	⚡ ボタンを押して、ストロボが使える状態にしてください。
レンズキャップを確認してください	レンズキャップを付けたままで電源をオンにした場合に表示されます。レンズキャップを外してから電源を入れ直してください。
電池容量がたりないためピクセルマッピングを行えません	ピクセルマッピング時にバッテリー容量が足りない場合に表示されます。バッテリーを充電してから実行するか、ACアダプターキットK-AC106J（別売）を使用してください（p.35）。
このカードには対応していません	Eye-Fiカードのバージョンが古いため、カメラが対応できない場合に表示されます（p.234）。
Eye-Fiバージョンエラーです	

こんなときは？

現象	原因	対処方法
電源が入らない	バッテリーが入っていない	バッテリーが入っているか確認し、入っていなければ入れてください。
	バッテリーの入れかたを間違えている	バッテリーの挿入方向を確認してください。⊕⊖表示に従ってバッテリーを入れ直してください（p.32）。
	バッテリーの残量がない	バッテリーを充電してください。
画像モニターに何も表示されない	パソコンに接続している	パソコンに接続しているときは、画像モニターは常にオフになります。
	テレビに接続している	テレビに接続しているときは、画像モニターは常にオフになります。
	ファインダーが選択されている	**EVF/LCD** ボタンを押してください。
画像モニターの表示が見にくい	画像モニターの明るさが暗く設定されている	「🔧設定」メニューの「LCDの明るさ」で明るさを調整してください（p.210）。
	節電機能（エコモード）が働いている	節電機能が働いていると、一定時間操作しないときに、画像モニターの明るさが自動的に暗くなります。いずれかのボタン操作をすると、元の明るさに戻ります。 「🔧設定」メニューの「エコモード」で「オフ」に設定することで、節電機能が働かないようにすることもできます（p.210）。
シャッターが切れない	ストロボが充電中	ストロボ充電中は撮影できません。充電が完了すると撮影できます。
	SDメモリーカードまたは内蔵メモリーに空き容量がない	空き容量のあるSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください（p.37、161）。
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。
撮影した写真が暗い	夜景などの暗い場所で撮るものまでの距離が遠い	被写体までの距離が遠すぎると、撮影した画像が暗くなります。ストロボの光が届く範囲で撮影してください。

現象	原因	対処方法
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	いったん撮りたいものと同じ距離にあるピントの合いやすいものにピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります（p.69）。またはマニュアルフォーカスを使用してください（p.115）。
	AFエリアに被写体が入っていない	画像モニター中央のAFエリアに、ピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、AFエリアにない場合は、いったん撮りたいものをAFエリアに入れて、ピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。または、（AFエリア選択）モードで、ピントを合わせたい被写体にAFエリアを設定して撮影してください（p.116）。
ストロボが発光しない	ストロボがポップアップされていない	ストロボをポップアップしてください。
	ストロボの発光方法がになっている	（オート）または（強制発光）に設定してください（p.112）。
	ドライブモードが／／／／、フォーカスモードが、撮影モードが／／になっている	これらのモードではストロボは発光しません。
ストロボモードが設定できない	ストロボがポップアップされていない	ストロボをポップアップしてください。

静電気などの影響により、まれにカメラが正しい動作をしなくなることがあります。このような場合には、バッテリーを入れ直してみてください。入れ直してから再度、電源を入れてカメラが正常に動作すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。

初期設定一覧

工場出荷時の設定を表に示します。
各メニュー項目の中で、初期設定値があるものの表示内容を示します。

ラストメモリ設定

する　：カメラの電源を切っても現在の設定（ラストメモリ）が保存される
しない：カメラの電源を切ると初期設定に戻る
※　　：する／しないは「モードメモリ」（p.144）の設定による
—　　：該当なし

リセット設定

する　：リセット（p.217）で初期設定に戻る
しない：リセットしても設定が保存される
—　　：該当なし

●「撮影」メニュー項目

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
画像仕上		鮮やか	する	する	p.120
記録サイズ		12M （4000×3000）	する	する	p.121
画質		★★（ファイン）	する	する	p.123
ホワイトバランス		**AWB**（オート）	※	する	p.124
感度		AUTO	※	する	p.126
感度AUTO調整範囲		80～800	※	する	p.127
AF	AFエリア	[ ]（マルチ）	する	する	p.117
	オートマクロ	☑（オン）	する	する	p.118
	AF補助光	☑（オン）	する	する	p.119
測光方式		（分割測光）	※	する	p.128
ストロボ光量補正		±0.0	する	する	p.129
動画	記録サイズ	1280 30（1280×720・30fps）	する	する	p.142
	Movie SR	☑（オン）	する	する	p.143
D-Range設定	ハイライト補正	□（オフ）	する	する	p.130
	シャドー補正	□（オフ）	する	する	
Shake Reduction		☑（オン）	する	する	p.131
インターバル撮影	撮影間隔	0分15秒	する	する	p.94
	撮影枚数	2枚	する	する	
	撮影開始時間	0時間0分後	する	する	

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
まばたき検出		☑（オン）	する	する	p.132
デジタルズーム		☑（オン）	※	する	p.76
クイックビュー		☑（オン）	する	する	p.133
モードメモリ	顔検出モード	□（オフ）	する	する	p.144
	ストロボモード	☑（オン）	する	する	
	ドライブモード	□（オフ）	する	する	
	フォーカスモード	□（オフ）	する	する	
	ズーム位置	□（オフ）	する	する	
	MF位置	□（オフ）	する	する	
	ホワイトバランス	□（オフ）	する	する	
	感度	□（オフ）	する	する	
	露出補正	□（オフ）	する	する	
	測光方式	□（オフ）	する	する	
	デジタルズーム	☑（オン）	する	する	
	DISPLAY	□（オフ）	する	する	
	ファイルNo.	☑（オン）	する	する	
グリーンボタン		グリーンモード	する	する	p.137
シャープネス		−━■━+（標準）	する	する	p.134
彩度		−━■━+（標準）	する	する	p.134
調色		−━■━+（白黒）	する	する	p.134
コントラスト		−━■━+（標準）	する	する	p.135
日付写し込み		□（オフ）	する	する	p.136

●「設定」メニュー項目

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
USERモード登録		キャンセル	する	する	p.110
サウンド	操作音量	3	する	する	p.201
	再生音量	3	する	する	
	起動音	1	する	する	
	シャッター音	1	する	する	
	操作音	1	する	する	
	セルフタイマー音	1	する	する	
日時設定	表示スタイル（日付）	初期設定による	する	しない	p.47 p.202
	表示スタイル（時間）	24h	する	しない	
	日付	2010/1/1	する	しない	
	時刻	初期設定による	する	しない	
ワールドタイム	時刻切替	（現在地）	する	する	p.205
	目的地（都市）	初期設定による	する	しない	
	目的地（夏時間）	オフ	する	しない	
	現在地（都市）	初期設定による	する	しない	
	現在地（夏時間）	オフ	する	しない	
Language/言語		初期設定による	する	しない	p.43 p.208
フォルダー名		日付	する	する	p.209
USB接続		MSC	する	する	p.225
ビデオ出力		初期設定による	する	しない	p.171
HDMI出力		オート	する	する	p.173
Eye-Fi		オフ	しない	する	p.235
LCDの明るさ			する	する	p.210
エコモード		5秒	する	する	p.210
オートパワーオフ		3分	する	する	p.212
クイック拡大		□（オフ）	する	する	p.213
ガイド表示		☑（オン）	する	する	p.214
リセット		キャンセル	—	—	p.217
全画像消去		キャンセル	—	—	p.164
ピクセルマッピング		キャンセル	—	—	p.216
フォーマット		キャンセル	—	—	p.200

● 再生モードパレット項目

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
スライドショウ	表示間隔	3秒	する	する	p.155
	画面効果	ワイプ	する	する	
	効果音	オン	する	する	
画像回転		正位置	—	—	p.157
小顔フィルター		約7%	しない	する	p.178
デジタルフィルター		白黒	しない	—	p.180
フレーム合成		デフォルト1	する	する	p.185
動画編集	静止画保存	—	—	—	p.188
	動画分割	—	—	—	
赤目補正		—	—	—	p.184
リサイズ	記録サイズ	元画像による	—	—	p.176
	画質	元画像による	—	—	
トリミング		元画像による	—	—	p.177
画像/音声コピー		内蔵メモリー → SDカード	—	—	p.190
ボイスメモ		—	—	—	p.196
プロテクト	1画像/音声	画像/音声による	—	—	p.166
	全画像/音声	画像/音声による	—	—	
DPOF設定	1画像	枚数：0枚 日付：オフ	—	—	p.192
	全画像		—	—	
削除画像復活		キャンセル	—	—	p.165
起動画面設定		オフ	する	する	p.214

● キーによる操作

名称		機能	初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
▶ボタン		動作モード	▶モード	—	—	—
ズームレバー		ズーム位置	広角端	※	しない	p.74
十字キー	▲	ドライブモード	□（標準）	※	する	p.92〜p.97
	◀	ストロボモード	⚡A（オート）	※	する	p.112
	▶	フォーカスモード	AF（標準）	※	する	p.114
MENUボタン		メニュー表示	撮影モード：「📷メニュー」 再生モード：「🔧メニュー」	—	—	p.57
DISPボタン		情報表示	標準	※	する	p.20
顔ボタン		動作モード	顔検出オン	※	する	p.70
EVF/LCDボタン		モニター表示切替	画像モニター	する	する	—
●ボタン		撮影モード	グリーンモード	する	する	p.72

9

付録

都市名一覧

都市名：「初期設定」(p.43) やワールドタイム (p.205) で設定できる都市
ビデオ出力方式：「初期設定」で設定した都市のビデオ出力方式

地域	都市名	ビデオ出力方式
北米	ホノルル	NTSC
	アンカレジ	NTSC
	バンクーバー	NTSC
	サンフランシスコ	NTSC
	ロサンゼルス	NTSC
	カルガリー	NTSC
	デンバー	NTSC
	シカゴ	NTSC
	マイアミ	NTSC
	トロント	NTSC
	ニューヨーク	NTSC
	ハリファックス	NTSC
中南米	メキシコシティ	NTSC
	リマ	NTSC
	サンティアゴ	NTSC
	カラカス	NTSC
	ブエノスアイレス	PAL
	サンパウロ	PAL
	リオデジャネイロ	NTSC
ヨーロッパ	リスボン	PAL
	マドリード	PAL
	ロンドン	PAL
	パリ	PAL
	アムステルダム	PAL
	ミラノ	PAL
	ローマ	PAL
	コペンハーゲン	PAL
	ベルリン	PAL
	プラハ	PAL
	ストックホルム	PAL
	ブダペスト	PAL
	ワルシャワ	PAL
	アテネ	PAL
	ヘルシンキ	PAL
	モスクワ	PAL
アフリカ・西アジア	ダカール	PAL
	アルジェ	PAL
	ヨハネスブルグ	PAL

地域	都市名	ビデオ出力方式
アフリカ・西アジア	イスタンブール	PAL
	カイロ	PAL
	エルサレム	PAL
	ナイロビ	PAL
	ジッダ	PAL
	テヘラン	PAL
	ドバイ	PAL
	カラチ	PAL
	カブール	PAL
	マーレ	PAL
	デリー	PAL
	コロンボ	PAL
	カトマンズ	PAL
	ダッカ	PAL
東アジア	ヤンゴン	NTSC
	バンコク	PAL
	クアラルンプール	PAL
	ビエンチャン	PAL
	シンガポール	PAL
	プノンペン	PAL
	ホーチミン	PAL
	ジャカルタ	PAL
	香港	PAL
	北京	PAL
	上海	PAL
	マニラ	NTSC
	台北	NTSC
	ソウル	NTSC
	東京	NTSC
	グアム	NTSC
オセアニア	パース	PAL
	アデレード	PAL
	シドニー	PAL
	ヌーメア	PAL
	ウェリントン	PAL
	オークランド	PAL
	パゴパゴ	NTSC

別売アクセサリー一覧

本機には、別売アクセサリーとして以下の製品が用意されています。
（※）の製品は同梱品と同じものです。

- **電源関連**

  充電式リチウムイオンバッテリー D-LI106（※）

  バッテリー充電器キット K-BC106J（※）
  （バッテリー充電器 D-BC106・ACコードD-CO24Jのセット）

  ACアダプターキット K-AC106J
  （ACアダプター D-AC64・DCカプラー D-DC106・ACコード D-CO24Jのセット）

  バッテリー充電器／ACアダプターは、キットでの販売です。

- **ケーブル類**

  USBケーブル I-USB7（※）

  AVケーブル I-AVC7（※）

- **ストラップ**
  O-ST92（※）

- **カメラケース**
  O-CC92

- **レンズキャップ（※）**
  O-LC106

主な仕様

型式	ズームレンズ内蔵全自動コンパクトタイプデジタルスチルカメラ	
有効画素数	約1200万画素	
撮像素子	1/2.33型CCD	
記録画素数	静止画	12M（4000×3000）、10.7M 3:2（4000×2672） 9M 16:9（4000×2256）、9M 1:1（2992×2992） 7M（3072×2304）、5M（2592×1944）、 3M（2048×1536）、1024（1024×768）、640（640×480） （ピクセル）
	※ ベストフレーミング時は3M固定 ※ ステージライト時は2M固定 ※ 高感度時は5M固定 ※ フレーム合成時は3M固定 ※ デジタルワイド時は5M固定（合成後）ただし1枚撮影時（合成前）は3M固定 ※ パノラマ撮影時は1枚2M固定 ※ 感度3200／6400設定時は5M固定 ※ 連写L／M／H時は5M固定	
	動画	1280 30（1280×720・30fps）、1280 15（1280×720・15fps） 640 30（640×480・30fps）、640 15（640×480・15fps） 320 30（320×240・30fps）、320 15（320×240・15fps）
感度	オート、マニュアル（ISO 80～6400）	
記録方式	静止画	JPEG（Exif2.2準拠）、DCF2.0準拠、DPOF対応、PRINT Image Matching III対応
	動画	AVI（MotionJPEG準拠）、約30fps／約15fps（フレーム／秒）、PCM方式・モノラル音声付、Movie SR（動画手ぶれ補正）
	音声	ボイスメモ：WAVE（PCM）方式、モノラル
記録媒体	内蔵メモリー（約31.2MB）、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード	

撮影枚数と時間

静止画

	内蔵メモリー			512MB SDメモリーカード		
	★★★	★★	★	★★★	★★	★
12M 4000×3000	7枚	14枚	22枚	107枚	209枚	321枚
10.7M 3:2 4000×2672	7枚	15枚	23枚	114枚	228枚	343枚
9M 16:9 4000×2256	8枚	17枚	25枚	126枚	253枚	368枚
9M 1:1 2992×2992	8枚	17枚	25枚	126枚	253枚	368枚
7M 3072×2304	11枚	20枚	27枚	160枚	299枚	397枚
5M 2592×1944	13枚	25枚	36枚	192枚	368枚	530枚
3M 2048×1536	20枚	41枚	59枚	299枚	592枚	863枚
1024 1024× 768	72枚	123枚	160枚	1042枚	1777枚	2324枚
640 640× 480	149枚	232枚	261枚	2158枚	3358枚	3777枚

• 撮影枚数は目安です。SDメモリーカードや被写体により実際の撮影枚数は異なることがあります。

動画

	内蔵メモリー	512MB SDメモリーカード
1280 30（1280×720・30fps）	10秒	2分30秒
1280 15（1280×720・15fps）	20秒	4分59秒
640 30（640×480・30fps）	29秒	7分11秒
640 15（640×480・15fps）	56秒	13分36秒
320 30（320×240・30fps）	45秒	10分56秒
320 15（320×240・15fps）	1分23秒	20分08秒

• この数値は、当社で設定した標準撮影条件によるもので、被写体、撮影状況、使用するSDメモリーカードなどにより変わります。
• 動画は連続で内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量いっぱい、または大容量のSDHCカードを使用した場合は、最大で2GBまで撮影可能です。2GB撮影終了後に、再度撮影をし直すことで、引き続き2GBずつ、残りの容量を撮影することができます。

ホワイトバランス	オート、太陽光、日陰、白熱灯、蛍光灯（昼光色／昼白色／白色）、マニュアル	
レンズ	焦点距離	4.6～119.6mm（焦点距離の35mm換算値：約26～676mm相当）
	F値	F2.8（W）～F5.0（T）
	レンズ構成	11群14枚（非球面レンズ4枚使用）
	ズーム方式	電動式
光学ズーム	26倍	

インテリジェントズーム	7M：約33.9倍、5M：約40.1倍、3M：約50.8倍、1024：約101.6倍、640：約162.5倍 （光学ズームと合わせたズーム倍率）	
デジタルズーム	最大約6.25倍（光学26倍ズームと合わせ、最大約162.5倍ズーム相当のズーム倍率）	
手ぶれ軽減	静止画	CCDシフト方式（Shake Reduction）、高感度ぶれ軽減モード
	動画	電子式（Movie SR）
画像モニター	広視野角2.7型 約23万ドットLCD（ARコート）	
ファインダー	電子ビューファインダー 約20万ドット 視度調整機能付き	
再生機能	1コマ、4画面、9画面、拡大（最大10倍まで、スクロール可）、顔アップ再生、フォルダー表示、カレンダー表示、ヒストグラム表示、選択消去、スライドショウ、画像回転、小顔フィルター、デジタルフィルター、フレーム合成、動画再生・編集（静止画保存、分割）、赤目補正、リサイズ、トリミング、画像/音声コピー、ボイスメモ、プロテクト、DPOF、削除画像復活、起動画面設定	
フォーカスモード	オートフォーカス、マクロ、1cmマクロ、無限遠、マニュアルフォーカス、AFエリア選択（25点より選択可）	
フォーカス	方式	撮像素子によるTTLコントラスト検出方式 マルチ（9点AF）／スポット／自動追尾切替可
	フォーカス範囲	標準 ：0.4m～∞（広角時） 1.7m～∞（望遠時） マクロ ：0.1m～0.5m 1cmマクロ ：0.01m～0.3m ※ 遠景、マニュアルフォーカス切替可、AF エリア選択 ※ 顔検出中のみ、顔検出AF可
	フォーカスロック	シャッターボタン半押しによる
露出制御	測光方式	撮像素子によるTTL測光（分割、中央重点、スポット）
	露出補正	±2EV（1/3EVステップで設定可能）
顔検出	最大32人まで検出可（画像モニターに表示される顔検出枠は最大31個）、スマイルキャッチ、まばたき検出 ※顔検出中のみ、顔検出AE可	
撮影モード	オートピクチャー、スポーツ、高感度、プログラム、シャッター優先、絞り優先、マニュアル、ユーザー、風景、花、ポートレート、逆光、ベストフレーミング、夜景、夜景ポートレート、ステージライト、サーフ＆スノー、ベビー、キッズ、ペット、料理、花火、フレーム合成、パーティー、美術館、夕焼け、デジタルワイド、パノラマ、動画、グリーン	
デジタルフィルター	白黒、セピア、トイカメラ、レトロ（ブルー、アンバー）、カラー（赤、桃、紫、青、緑、黄）、色抽出（赤、緑、青）、色強調（晴天、新緑、花見、紅葉）、ソフト、フィッシュアイ、明るさ	
動画	連続録画時間	約1秒～内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量いっぱいまで（ただし最大で2GBまでの制限あり）
シャッタースピード	1/4000～1/4秒、最長4秒（シャッター優先、絞り優先、マニュアル、夜景モード）	

内蔵ストロボ	発光モード	自動発光、発光禁止、強制発光、自動発光+赤目軽減、強制発光+赤目軽減、スローシンクロ、スローシンクロ+赤目軽減
	調光範囲	広角時 約0.2～9.1m (感度オートの条件において) 望遠時 約1.7～5.1m (感度オートの条件において)
ドライブモード	1コマ撮影、連続撮影、連写(L／M／H)、セルフタイマー撮影(約10秒後、約2秒後)、インターバル撮影、オートブラケット撮影	
セルフタイマー	電子制御式、制御時間：約10秒、約2秒	
時計機能	ワールドタイム	世界75都市に対応(28タイムゾーン)
電源	専用リチウムイオンバッテリー D-LI106、ACアダプターキット(別売)	
電池寿命	撮影可能枚数 約255枚	※ 撮影可能枚数はCIPA規格に準じた測定条件による目安であり、使用条件により変わります。(CIPA規格抜粋：画像モニター ON、ストロボ使用率50％、23℃)
	再生時間 約360分	※ 時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。
	動画撮影時間 約100分	
外部インターフェイス	USB 2.0(ハイスピード対応)／PC/AV端子／HDMI端子	
ビデオ出力方式	NTSC／PAL(モノラル音)	
外形•寸法	約111.0(幅)× 84.5(高)× 110.0(厚)mm(操作部材、突起部を除く)	
質量(重さ)	本体約400g(バッテリー、SDメモリーカード含まず) 約428g(バッテリー、SDメモリーカード含む)	
主な付属品	専用バッテリー、バッテリー充電器、ACコード、USBケーブル、AVケーブル、ソフトウェア(CD-ROM)、レンズキャップ、ストラップ、使用説明書、簡単ガイド、保証書	

索引

9
付録

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。

2. 保証期間中［ご購入後 1 年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にてご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。

3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ほこり・液体かぶり等）による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。

4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。

5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後 5 年間を目安に保有しております。従って本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。

6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］

7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

製品の点検・修理について

ペンタックスピックアップリペアサービス

全国（離島など、一部の地域を除く）どこからでも電話一本でペンタックス指定の宅配業者がお客様ご指定の日時・場所に梱包資材を持って不具合品を引き取りにお伺いし、専門修理スタッフが修理を行って、お客様ご指定の場所に完成品をお届けするサービスです。（全国一律料金）

電話受付

0120-97-0405（フリーダイヤル）
受付時間： 平日　8:00～21:00
土・日・祝日・年末年始　9:00～18:00

宅配便・郵便による修理受付

PENTAX イメージング・システム事業部
東京サービスセンター

TEL 03-3960-5140　FAX 03-3960-5147
〒174-0041 東京都板橋区舟渡1-12-11　ヘリオスⅡビル3階
営業時間： 9:00～17:30
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

PENTAX イメージング・システム事業部
大阪サービスセンター

TEL 06-6271-7996（代）　FAX 06-6271-3612
〒542-0081 大阪市中央区南船場1-17-9　パールビル2階
営業時間： 9:00～17:00
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

お客様窓口のご案内

ペンタックスホームページアドレス

http://www.pentax.jp/

［PENTAX イメージング・システム製品に関するお問い合わせ］

お客様相談センター

市内通話料金でOK ナビダイヤル **ナビダイヤル　0570-001313 (代)**
（市内通話料金でご利用いただけます。）

携帯電話、PHS、IP 電話の方は、下記の電話番号をご利用ください 。

TEL 03-3960-3200（代）　FAX 03-3960-4976

営業時間　9：00 ～ 18：00（平日）　10：00 ～ 17：00（土・日・祝日）

休業日　年末年始

大阪サービスセンター

TEL 06-6271-7996（代）　FAX 06-6271-3612

〒 542-0081　大阪市中央区南船場 1-17-9　パールビル 2 階

営業時間　9:00 ～ 17:00

休業日　土・日・祝日および弊社休業日

［ショールーム・写真展・修理受付］

ペンタックスフォーラム

TEL 03-3348-2941 (代)　FAX 03-3345-8076

〒 163-0690　東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル MB（中地下 1 階）

営業時間　10：30 ～ 18：30

休業日　毎週火曜日、年末年始およびビル点検日

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

付属の CD-ROM、または弊社ホームページから登録が可能です。

HOYA 株式会社
PENTAX イメージング・システム事業部

〒 174-8639　東京都板橋区前野町 2-35-7

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

53630
H01-201002
Printed in Indonesia